

接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン

# 5歳児の学びのカリキュラム スタートカリキュラム



平成31年3月

千葉県教育委員会

# はじめに

千葉県では、第2期教育振興基本計画「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」（平成27年2月）において、「人格形成の基礎を培う幼児期の充実」を掲げ、幼児教育推進体制の構築を重要課題としています。

また、平成29年3月に「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」、「保育所保育指針」及び「小学校学習指導要領」が同時に公示され、子供たちにこれからの時代に求められる資質・能力が育まれるよう、学校段階等間の円滑な接続を図ることが明示されました。これまで以上に幼稚園、認定こども園、保育所等と小学校との連携強化や、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の重要性が求められています。

そこで、千葉県教育委員会では、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図るために、「接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン」を策定し、冊子としてまとめ、県内の幼稚園・認定こども園・保育所・小学校等に配付することとしました。

本冊子は、接続期のカリキュラムを「5歳児の学びのカリキュラム」と小学校における「スタートカリキュラム」で構成し、それぞれのカリキュラムを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」でつなぎ、幼稚園教諭や小学校教諭等がお互いの活動を理解し、円滑な接続を図ることができるようにしております。

また、市町村教育委員会でも、それぞれの状況に合わせた保幼小の円滑な接続を図ることができるよう、市町村の取組を10事例掲載しています。

本冊子が、幼児期の教育から小学校教育へ、子供たちの健やかな育ちや学びをつなげ、幼稚園や保育所、認定こども園と小学校の更なる連携が充実し、深まるための一助となることを心から願っております。

最後になりましたが、本冊子の作成に当たって、御協力いただきました皆様、作成委員の皆様、実践協力校の皆様に心より感謝を申し上げます。

千葉県教育庁教育振興部  
学習指導課長 小畑 康生

# 目 次

I	保幼小の円滑な接続に向けたカリキュラムの必要性	
1	幼児期の教育と小学校教育とのつながり	P 1
2	千葉県の保幼小接続の実態	P 1
3	幼児期の教育と小学校教育のそれぞれの特徴	P 3
II	接続期のカリキュラム 【5歳児の学びのカリキュラムとスタートカリキュラム】	
1	接続期とは	P 5
2	接続期のカリキュラムとは	P 5
3	接続期のカリキュラムの全体計画	P 7
4	幼児期の育ちや学びを小学校教育につなぐ内容モデル	P 8
5	指導要録による幼児教育施設と小学校との円滑な連携・接続	P 11
III	5歳児の学びのカリキュラム 【幼児期の教育】	
1	「5歳児の学びのカリキュラム」とは	P 15
2	「5歳児の学びのカリキュラム」作成について	P 16
3	実践例	
	・収穫祭をしよう（10月）	P 18
	・みんなで相談しよう ―なかよし発表会―（10月～12月）	P 20
	・レストランごっこ（11月）	P 22
	・焼き芋会をしよう（11月）	P 24
	・こま回しをしよう（12月）	P 26
	・郵便やさごっこ（1月）	P 28
	・指人形劇（1月）	P 30
	・いろいろな種をしぼろう（1月）	P 32
	・最後まで頑張ろう（1月）	P 34
	・お店やさんをしよう（2月）	P 36
	・ドッジボール大会に向けて（2月）	P 38
	・乗り物体験ツアー（2月）	P 40

IV	スタートカリキュラム 【小学校教育】	
1	「スタートカリキュラム」とは	P 43
2	「スタートカリキュラム」作成について	P 44
3	実践例	
	・みんななかよし -ともだちつくろう- (4月)	P 46
	・すきなもの なあに -すきなものをつたえよう- (4月)	P 48
	・がっこうたんけんにいこう (4月)	P 50
	・がっこうだいすき -がっこうをたんけんしよう- (4月)	P 52
	・わたしのがっこうどんなところ -がっこうたんけんにしゅっぱつ-	
	(4月)	P 54
	・わたしのがっこうどんなところ -きいて!おしえて!みつけたこと-	
	(5月)	P 56
	・わたしのつうがくろ (6月)	P 58
	・まねっこあそび・かけっこあそびをしよう (6月)	P 60
	・おもしろいあそびがいっぱい (7月)	P 62
	・いろみずあそびをしよう (7月)	P 64
	・だいすきなつ -しゃぼんだまをとばそう- (7月)	P 66
V	保幼小の接続サイクルの体制作りに向けて	
1	接続期を支える交流・連携の取組	P 69
2	実践例	
	・ようこそ しょうがっこうへ	P 71
	・幼保小情報交換会	P 74
3	保幼小接続のための体制作り	P 77
VI	市町村の取組	P 79
VII	資 料	P 89
VIII	委員名簿・実践協力施設	P 97

\*参考文献

## 本冊子で使用する用語について

カリキュラム	教育目的を実現するために必要な教育内容を選択し、組織する教育計画 カリキュラムを編成するためには、少なくとも①教育目的の設定、②教育内容の選択、③教育内容の組織、④教育内容の提供の4つの手続きが必要
環境構成	物的、人的、自然物、社会的など、様々な環境条件を相互に関連させながら、幼児が主体的に活動を行い、発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況を作り出すこと
環境を通して行う教育	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている教育内容に基づいた計画的な環境を作り出し、その環境に関わって幼児が主体性を十分に発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにする教育のこと
関連的な指導	各教科等の指導内容の関連を検討し、指導の時期や指導の方法などについて相互の関連を考慮して指導すること
教育課程	学校教育の目的や目標を達成するために、教育の内容を子供の心身の発達に応じ、授業時数等との関連において総合的に組織した学校の教育計画
教育・保育	保育所・幼稚園・認定こども園等の幼児教育施設での教育と養護の総称
合科的な指導	各教科等のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つで、単元又は1単位時間の中で、複数の教科等の目標や内容を組み合わせ、学習活動を展開する指導
交流	違う組織や系統の子供たちが同じ場所や同じ時間帯で活動と一緒にすること
子供	乳児、幼児、児童の全てを含めた総称
児童	小学校に在学する子供（小学生）
就学	義務教育の学校に入ること、または在学していること
小学校教育	小学校における教育
接続	幼児期における遊びを通しての学びや体験と小学校教育を、カリキュラムを通して滑らかに繋げていくこと
接続期	幼児期の教育と小学校教育を滑らかに接続させるための期間 本冊子においては5歳児10月から小学校1年生の7月までの期間
保育者	幼稚園教諭、保育士、保育教諭など保育にあたる者の総称
保幼小	保育所、幼稚園、こども園、小学校を略して表したもの
保幼小連携	子供の発達段階に応じた成長と学びを確保するため保育所、幼稚園、こども園等の幼児教育施設と小学校が相互に連携を図る取組のこと
幼児	3歳児から小学校の始期に達するまでの子供
幼児期	3歳児から小学校の始期に達するまでの期間
幼児期の教育	教育基本法第11条に規定する教育 幼稚園教育要領及び保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に則した3歳児から5歳児までの教育・保育
幼児期の教育における見方・考え方	幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気付き、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりする見方・考え方
幼児教育施設	公立・私立を問わず、幼稚園、こども園、保育所（園）の保育施設
幼稚園教育要領等	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の総称
連携	違う組織の職員が、相互理解を図り、目的を共有しながらそれぞれの役割を果たしつつ協力して物事に取り組むこと

# I 保幼小の円滑な接続に 向けたカリキュラムの 必要性





## 1 幼児期の教育と小学校教育とのつながり

新しい幼稚園教育要領等において、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で構成される資質・能力を一体的に育むように努めることが示されました。

また、新しい小学校学習指導要領（平成29年3月告示）において、「生きる力」を育むため、全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されました（図1）。

このことは、幼児期から学校段階等を越えて共通の資質・能力の育成に努めることを示しています。特に、幼児期から児童期においては、発達の流れを理解することや教科間の関連を積極的に図ることが示されています。このような取組から、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の重要性が高まっています。

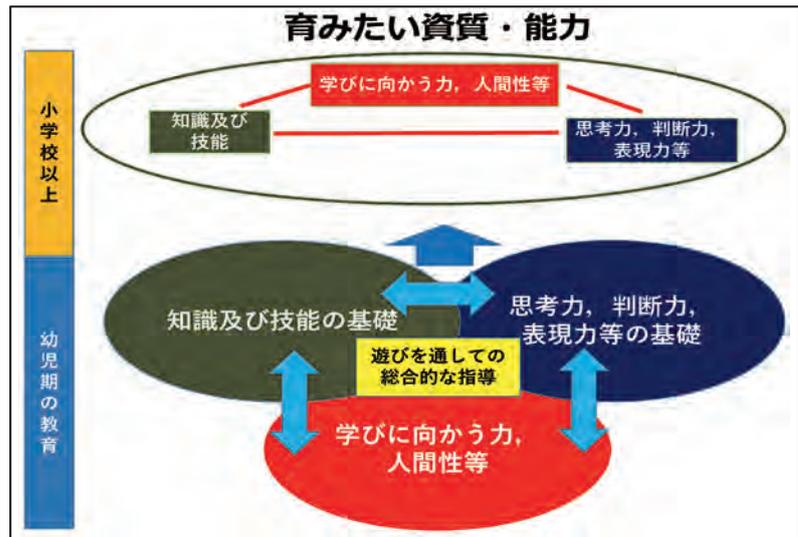


図1 幼児期の教育と小学校教育で育みたい資質・能力

## 2 千葉県の保幼小接続の実態

千葉県内54市町村の幼稚園・認定こども園、保育所、公立小学校の数は表1のようになっています。公立小学校の数に比べて、幼児教育施設の数が多くなっています。

また、小学校には、多様な幼児教育施設から入学してくるため、連携・接続の取組を図りにくいことが課題となっています（P93, P96参照連携活動における課題）。

図2は、千葉県の市町村における保幼小連携・接続の状況です。

表1 千葉県 園・所・校種別数（H30年度）

園・所・校種	数
国・公立幼稚園	107
私立幼稚園	403
公立幼稚園型認定こども園	9
私立幼稚園型認定こども園	39
公立幼保連携型認定こども園	25
私立幼保連携型認定こども園	52
公立保育所型認定こども園	6
私立保育所型認定こども園	11
私立地方裁量型認定こども園	3
公立保育所	261
私立保育所	417
幼児教育施設 合計	1,333
公立小学校	803

保幼小連携・接続のステップは5つの段階で表すことができます（表2）。

ステップ0は、連携・接続の予定や計画がまだない段階。ステップ1は、検討中の段階。ステップ2は、連携を実施している段階。ステップ3は、教育課程編成が行われている段階。ステップ4は教育課程の編成がPDCAサイクルで進んでいる段階です。

このステップ表に従って千葉県・市町村の保幼小連携・接続の状況を示したのが、図2のグラフです。

ステップ0に該当する連携・接続の予定・計画が全くない市町村は5%となっています。また、教育課程の編成まで考慮した接続の段階であるステップ3・4は、あわせて41%です。近年、この数値は増加傾向にあります。県内では、保幼小連携・接続への意識が高まりつつあります。

しかし、ステップ1の検討中と回答した市町村は26%、ステップ2の連携のみを実施していると回答した市町村は28%となっており、ステップ0・1・2をあわせると県内の市町村の半数以上が教育課程の接続まで踏み込めていない現状が浮き彫りになっています。

このことから、市町村の取組に差がある状況ということが分かります。各幼児教育施設や学校だけではなく、小学校区や市町村単位で、保幼小の連携・接続を推し進めることが望まれます。

表2 保幼小連携・接続の段階

ステップ0	連携・接続の予定・計画がまだない。
ステップ1	連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。
ステップ2	年数回の授業、行事、研究会などの連携があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。
ステップ3	授業、行事、研究会などの連携が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。
ステップ4	接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。

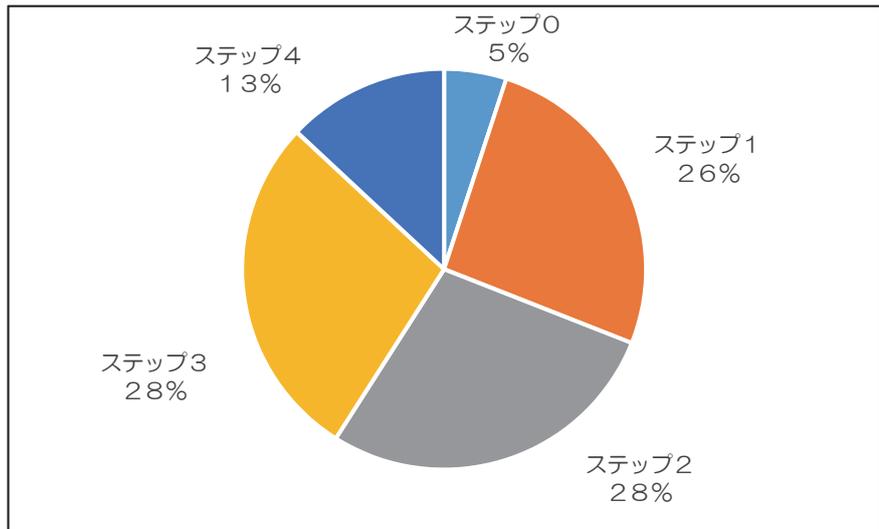


図2 千葉県・市町村における保幼小連携・接続の状況 (H29年)

### 3 幼児期の教育と小学校教育のそれぞれの特徴

幼児期の教育と小学校教育では、教育課程の編成や教育方法等に違いがあります（表3）。

教育課程の編成についてです。幼児期の教育では、幼児の生活や経験を重視し、幼児が自ら環境に関わって展開する遊びや生活を通して総合的に学ぶ経験カリキュラムとなっています。それに対し、小学校教育は、教科等による系統的な学習を行う教科カリキュラムとなっています。

また、幼児期の教育は、幼児の発達の側面から5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）が示され整理されていますが、小学校教育における教科等の内容にそのままつながるものではありません。

このような幼児期の教育と小学校教育との違いは、それぞれの時期の子供の発達の特性に配慮したことに起因します。

表3 幼児期の教育と小学校教育の違い

	観 点	幼児期の教育	小学校教育
①	教育課程の編成	経験カリキュラム	教科カリキュラム
②	教育方法等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人, 友達, 小集団</li> <li>・遊びを通した総合的な指導</li> <li>・教師が環境を通して幼児の活動を方向付け</li> <li>・時間, 空間の設定が弾力的</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級, 学年</li> <li>・教科等の目標, 内容に沿って選択された教材によって教育が展開</li> <li>・時間, 空間の設定が固定的</li> </ul>
③	課 題	遊び込む環境をいかにつくるかが課題	目標に到達できることが重要な課題



## Ⅱ 接続期のカリキュラム

【5歳児の学びのカリキュラムと  
スタートカリキュラム】





## 1 接続期とは

千葉県における、幼児期の教育と小学校教育の円滑な連携・接続の取組は、地域によって差があります（I - 図2）。幼児教育施設と小学校が地理的に近かったり、小学校に入学する幼児教育施設が一つであったりする場合は、円滑な連携・接続が図りやすい一方で、多くの小学校では、多様な幼児教育施設から入学してきており、幼児教育施設と小学校との子供同士の交流や職員同士の情報交換会及び研修等を実施することが難しいという地域もあります。

地域によって実態は様々ですが、各施設が無理なくできるところから円滑な連携・接続を進めるためには、幼児期の教育と小学校教育との学びの連続性の視点で、お互いの教育をつないでいくことが大切です。そのつながりをもたせるものが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」です。

また、幼児期の教育と小学校教育をつながりのある確かなものにするために、学びの基礎力の育成期間である幼児期と児童期を一つのつながりの時期（接続期）として捉えてカリキュラムを作成します。

接続期の捉え方は様々ですが、5歳児の10月頃に実施される就学時健康診断をきっかけに、子供も保護者も就学への意識が高まること、また、小学校入学後、子供が安心して自己を発揮でき、教科等の学習に移行していく夏休み前までを一区切りであると考え、本モデルプランでは、5歳児の10月から小学校1年生の7月までを焦点化しました（図1）。

なお、接続期の始期、終期をどのように設定するかは、子供の実態等を踏まえ、適切な期間を設定して幼児期の教育と小学校教育の滑らかな接続の実践を工夫していくことが大切です。

## 2 接続期のカリキュラムとは

本モデルプランでいう接続期のカリキュラムは、「5歳児の学びのカリキュラム」と「スタートカリキュラム」で構成し、各々のカリキュラムを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（表1）でつないでいくこととしました（図1）。



図1 接続期のカリキュラムのイメージ

幼児期の教育の「5歳児の学びのカリキュラム」では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を方向目標とします。また、小学校教育の「スタートカリキュラム」では、個々の児童の活動の中で「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮されるようにします。

表1 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

健康な心と体	幼児教育施設での生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり、様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりを作ったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼児教育施設内外の様々な環境と関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え、言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づき、これらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	保育者や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期の教育における5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）のねらい及び内容に基づく活動全体を通して、資質・能力が育まれている5歳児修了時の具体的な姿であり、保育者が指導を行う際に考慮するものです。

そして、幼児期の教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなどの連携を図り、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続を図るように努めるものとします。

### 3 接続期のカリキュラムの全体計画

接続期のカリキュラムは、幼児教育施設及び小学校で作成されたカリキュラムが、どのように連携・接続しているのか、一目でわかることが望まれます。

そこで、図2のような全体イメージを作成することが大切になります。このイメージ図は、各幼児教育施設と小学校がそれぞれ作成する上段部分と、幼児教育施設と小学校が互いに協議しながら作成する下段部分から構成しています。

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
A小学校							スタートカリキュラム			
B幼稚園	5歳児の学びのカリキュラム									
C保育所	5歳児の学びのカリキュラム									
Dこども園	5歳児の学びのカリキュラム									
交流活動	交流①	交流②						交流③		
連携活動	5歳児の学びのカリキュラム			スタートカリキュラム						
	連携①			連携②			連携③			

図2 接続期のカリキュラムの全体イメージ

また、カリキュラム作成においては、保幼小相互の具体的な保育・教育活動が、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で、どのようにつながっているかを見据えた上での実践が必要です。

幼児期の活動実践では、主に育った「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が、小学校教育の教科等にどのようにつながるか、小学校の活動実践では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、幼児期に経験したことや学びをどう生かしたかを、保幼小の職員同士がお互いの立場で情報を交換し合い、相互の各活動実践をつなげていくことが大切です。

以上のように、各実践が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、接続期のカリキュラムにおいて、どのような子供を育てていくのかを見据えた上で実践を進めることが望ましいのです。

この一例を示したものが、P9の図の「接続期のカリキュラム全体計画」です。

上段では、「5歳児の学びのカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の特徴を示しています。「5歳児の学びのカリキュラム」は、「子供がこれからどのように育つか」と

いう視点で小学校教育とのつながりを見据え、「目の前の子供たちとどのように関わればよいか」を考え、実践します。「スタートカリキュラム」は、「子供がこれまでどのように育ってきたのか」を幼児期で経験してきたことや学びを基に把握し、「今の子供たちとどのように関わればよいか」を考え、実践します。

中段は、幼児期の教育と小学校教育のそれぞれの特徴、接続期で目指す子供の具体的な姿を示しています。幼児期の教育は、学びの芽生えを育み、小学校教育は、自覚的な学びを育みます。

また、接続期の「5歳児の学びのカリキュラム」は、5領域において遊びを通した総合的な指導により、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育成します。そして、幼児教育施設と小学校とが、互いに子供個々に育まれた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有し、小学校の「スタートカリキュラム」につなげていきます。「スタートカリキュラム」では、生活科を中心とした合科的・関連的な指導により、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮できるようにしていきます。

下段では、「5歳児の学びのカリキュラム」と「スタートカリキュラム」における遊びや学びのプロセスや作成の視点を示しています。ここで大切にしたいのは、「5歳児の学びのカリキュラム」での活動など幼児期に経験する遊びは、小学校の学びの基礎となります。また、「スタートカリキュラム」では、幼児期に経験してきたことを生かした活動を行います。

#### 4 幼児期の育ちや学びを小学校教育につなぐ内容モデル

接続期のカリキュラムの全体計画を具体的内容にしたのが、「幼児期の育ちや学びを小学校教育につなぐ 内容モデル」(P10)です。

幼児期の教育において、上段は、接続期の幼児期の教育で行う可能性が高い経験や学びが、小学校教育でどのようなつながりをもっているかを示しています。

中段は、本冊子に掲載した実践事例を冊子のページを入れて紹介しています。

下段は、幼児教育施設と小学校のそれぞれの行事と、接続期に実施可能な交流活動を示したものです。

中央には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記しました。これは、幼児教育施設と小学校が互いに個々の子供の育ちを通して共有し合い、発揮できるようにするためです。



### 接続期のカリキュラム全体計画

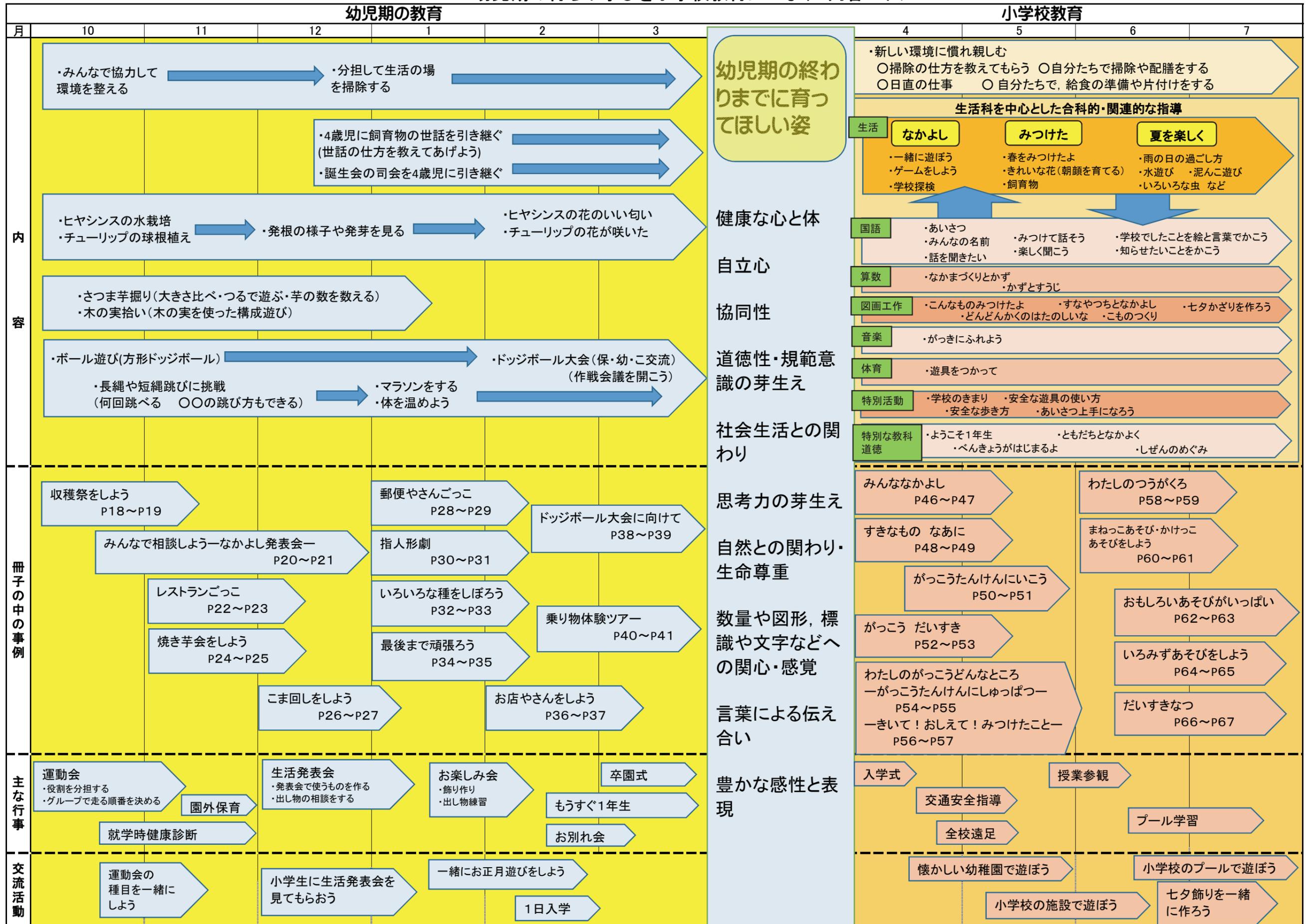
千葉県 学校教育指導の指針 (幼稚園版及び小学校版より)	「生きる力」の育成	「社会に開かれた教育課程」の実現に向けたカリキュラム・マネジメントの確立	○人生を拓く「確かな学力」を育む ○思いやりのある「豊かな心」を育む ○活力にあふれる「健やかな体」を育む	「主体的・対話的で深い学び」の実現	発達の段階に応じた「キャリア教育」を進める	「地域とともに歩む学校づくり」を進める
------------------------------------	-----------	--------------------------------------	---	-------------------	-----------------------	---------------------

<b>5歳児の学びのカリキュラム (10月から3月)</b>	<b>スタートカリキュラム (4月から7月)</b>
--------------------------------	----------------------------

<b>5歳児の学びのカリキュラムの特徴</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期に育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を方向目標としたもの</li> <li>・遊びや生活の中で見方・考え方を育む教育</li> <li>・幼児の生活や経験を重視する経験カリキュラムに基づいた展開</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     「子供がこれからどのように育つか」の視点で小学校教育とのつながりを見据え、「目の前の子供たちとどのように関わればよいか」を考え、実践する。                 </div>	<b>スタートカリキュラムの特徴</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・育みたい資質・能力を育成の基本としたもの</li> <li>・幼児期の教育で経験した遊びや生活を通した学びや育ちを基盤として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム</li> <li>・生活科を中心とした合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮できるような工夫</li> <li>・幼児期に総合的に育まれた見方・考え方や資質・能力を徐々に各教科の特質に応じた学びにつなぐこと</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     「子供がこれまでどのように育ってきたのか」を幼児期で経験してきたことや学びを基に把握し、「今の子供たちとどのように関わればよいか」を考え、実践する。                 </div>
--	--



### 幼児期の育ちや学びを小学校教育につなぐ 内容モデル



## 5 指導要録による幼児教育施設と小学校との円滑な連携・接続

平成30年4月に、幼稚園幼児指導要録（表2）、保育所児童保育要録（表3）、幼保連携型認定こども園園児指導要録（表4）の様式の変更が行われました。

記入に当たっては、各領域のねらいを視点として、当該幼児の発達状況から向上が著しいと思われるものを記入します。その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する到達度によって捉えるものでないことに留意します。また、生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿を記入します。

特に、最終年度の「指導上参考となる事項」等においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて幼児に育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入します。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意するとともに、項目別に幼児の育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に記入します。

幼児教育施設と小学校とが指導要録を介して連絡会を開催し、記載内容等についての情報共有を行うなど、幼児期の教育の特性や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解を共有し合うことが大切です。



表2 幼稚園幼児指導要録（最終学年の指導に関する記録） 様式の参考例

ふりがな			平成 年度	
			(学年の重点)	
氏名			(個人の重点)	
	平成 年 月 日生			
性別				
ねらい (発達を捉える視点)				
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。		指導の重点等 指導 上 参 考 と な る 事 項	
	人間関係	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもち、 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		
環境		身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		
	言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる。		
表現		いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		
	出欠状況	年度		備考
教育日数				
	出席日数			

幼児期の終わりにまでに育てほしい姿  
 「幼児期の終わりにまでに育てほしい姿」は、幼稚園教育要領第2章に示すねらい及び内容に基づいて、各幼稚園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりにまでに育てほしい姿」は、とりわけ幼児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性にに応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての園児に同じように見られるものではないことに留意すること。

健康な心と体	幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
自立心	身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
協同性	友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。
道徳性・規範意識の芽生え	友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。
社会生活との関わり	家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。
思考力の芽生え	身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。
自然との関わり・生命尊重	自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。
数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚	遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しみ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。
言葉による伝え合い	先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。
豊かな感性と表現	心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

学年の重点：年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入  
 個人の重点：1年間を振り返って、当該幼児の指導について特に重視してきた点を記入  
 指導上参考となる事項：

(1) 次の事項について記入

① 1年間の指導の過程と幼児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。

- ・幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該幼児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。
- ・その際、他の幼児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。
- ・幼稚園生活を通して全体的、総合的に捉えた幼児の発達の姿。

② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

③ 最終年度の記入に当たっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう、幼稚園教育要領第1章総則に示された「幼児期の終わりにまでに育てほしい姿」を活用して幼児に育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入するように留意すること。その際、「幼児期の終わりにまでに育てほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に幼児の育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に捉えて記入すること。

(2) 幼児の健康の状況等指導上特に留意する必要がある場合等について記入すること。

備考：教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動を行っている場合には、必要に応じて当該教育活動を通じた幼児の発達の姿を記入すること。

表3 保育所児童保育指導要録（保育に関する記録） 様式の参考例

ふりがな		保育の過程と子どもの育ちに関する事項	最終年度に至るまでの育ちに関する事項
氏名		(最終年度の重点)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</b></p> <p style="text-align: center; font-size: small;">※各項目の内容等については、別紙に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について」を参照すること。</p> <p style="text-align: center;">健康な心と体</p> <p style="text-align: center;">自立心</p> <p style="text-align: center;">協同性</p> <p style="text-align: center;">道徳性・規範意識の芽生え</p> <p style="text-align: center;">社会生活との関わり</p> <p style="text-align: center;">思考力の芽生え</p> <p style="text-align: center;">自然との関わり・生命尊重</p> <p style="text-align: center;">数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p style="text-align: center;">言葉による伝え合い</p> <p style="text-align: center;">豊かな感性と表現</p> </div>
生年月日	年 月 日		
性別		(個人の重点)	
<b>ねらい (発達を捉える視点)</b>			
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。	(保育の展開と子どもの育ち)	
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。		
	健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。		
人間関係	保育所の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。		
	身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもち。		
	社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。		
環境	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。		
	身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。		
	身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。		
言葉	自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。		
	人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。		
	日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育士等や友達と心を通わせる。		
表現	いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。		
	感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。	(特に配慮すべき事項)	
	生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。		

保育所における保育は、養護及び教育を一体的に行うことをその特性とするものであり、保育所における保育全体を通じて、養護に関するねらい及び内容を踏まえた保育が展開されることを念頭に置き、次の各事項を記入すること。

○保育の過程と子どもの育ちに関する事項

\*最終年度の重点：年度当初に、全体的な計画に基づき長期の見通しとして設定したものを記入すること。

\*個人の重点：1年間を振り返って、子どもの指導について特に重視してきた点を記入すること。

\*保育の展開と子どもの育ち：最終年度の1年間の保育における指導の過程と子どもの発達の姿（保育所保育指針第2章「保育の内容」に示された各領域のねらいを視点として、子どもの発達の実情から向上が著しいと思われるもの）を、保育所の生活を通して全体的、総合的に捉えて記入すること。その際、他の子どもとの比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。あわせて、就学後の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。別紙を参照し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して子どもに育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿をわかりやすく記入するように留意すること。

\*特に配慮すべき事項：子どもの健康の状況等、就学後の指導において配慮が必要なこととして、特記すべき事項がある場合に記入すること。

○最終年度に至るまでの育ちに関する事項

子どもの入所時から最終年度に至るまでの育ちに関し、最終年度における保育の過程と子どもの育ちの姿を理解する上で、特に重要と考えられることを記入すること。

表4 幼保連携型認定こども園園児指導要録（最終学年の指導に関する記録） 様式の参考例

ふりがな		平成 年度		
氏名	平成 年 月 日生	指導の重点等	(学年の重点)	
			(個人の重点)	
性別	ねらい (発達を捉える視点)	指導 上 参 考 と な る 事 項		
健康	明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。		「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第2章に示すねらい及び内容に基づいて、各園で、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育みたい資質・能力が育まれている園児の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、とりわけ園児の自発的な活動としての遊びを通して、一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての園児に同じように見られるものではないことに留意すること。	健康な心と体 幼保連携型認定こども園における生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。
	自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。			自立心 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。
健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。	協同性 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。			
幼保連携型認定こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。	道徳性・規範意識の芽生え 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分まり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。			
身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感をもつ。	社会生活との関わり 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えたり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼保連携型認定こども園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。			
社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	思考力の芽生え 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。			
身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。	自然との関わり・生命尊重 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。			
身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたり、それを生活に取り入れようとする。	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。			
身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。	言葉による伝え合い 保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。			
自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。	豊かな感性と表現 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。			
人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。				
日常生活に必要な言葉や表現が当たり前になるとともに、絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、保育教諭等や友達と心を通わせる。				
いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。				
感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。				
生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。	(特に配慮すべき事項)			
出欠状況	年度			
教育日数				
出席日数				

学年の重点：年度当初に、教育課程に基づき長期の見通しとして設定したものを記入  
 個人の重点：1年間を振り返って、当該園児の指導について特に重視してきた点を記入  
 指導上参考となる事項：

(1) 次の事項について記入

① 1年間の指導の過程と園児の発達の姿について以下の事項を踏まえ記入すること。

- ・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された養護に関する事項を踏まえ、第2章第3の「ねらい及び内容」に示された各領域のねらいを視点として、当該園児の発達の実情から向上が著しいと思われるもの。  
 その際、他の園児との比較や一定の基準に対する達成度についての評定によって捉えるものではないことに留意すること。
- ・ 園生活を通して全体的、総合的に捉えた園児の発達の姿。

② 次の年度の指導に必要と考えられる配慮事項等について記入すること。

③ 最終年度の記入に当たっては、特に小学校等における児童の指導に生かされるよう、幼保連携型認定こども園教育・保育要領第1章総則に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を活用して園児に育まれている資質・能力を捉え、指導の過程と育ちつつある姿を分かりやすく記入するように留意すること。その際、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことに留意し、項目別に園児の育ちつつある姿を記入するのではなく、全体的、総合的に捉えて記入すること。

(2) 「特に配慮すべき事項」には、園児の健康の状況等、指導上特記すべき事項がある場合に記入すること。

# Ⅲ 5歳児の学びのカリキュラム

## 【幼児期の教育】





1 「5歳児の学びのカリキュラム」とは

「5歳児の学びのカリキュラム」とは、幼稚園教育要領等で示された幼児教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（P6参照）を踏まえ、遊びを通しての総合的な指導の中で見方・考え方を育む学びのカリキュラムです（図1）。5領域のねらいや内容に基づく活動全体を通して、資質・能力の育まれた具体的な姿である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を方向目標としてカリキュラムを再構成しました。また、本モデルプランでは、5歳児の10月から3月までの期間に焦点化しました。

特に、接続においては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとしながら、幼児の得意なところを見極め、それらに応じた関わりをしたり、より自立的・協同的な活動を促したりするなど、意図的・計画的な環境の構成に基づいた総合的な指導の中で、バランスよく以下の資質・能力を育むことが大切です。

○幼児期に育みたい資質・能力

- 1 「知識及び技能の基礎」～豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気付いたり、何が分かったり、何ができるようになったりするか
- 2 「思考力、判断力、表現力等の基礎」～気付いたこと、できるようになったことなどを使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか
- 3 「学びに向かう力、人間性等」～心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか

遊びを通しての教育を特色とする幼児期の教育と、教科を通しての教育を特色とする小学校教育は考え方も指導の方法も異なります。しかし、今回の改訂では、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて小学校教育を実施するとされ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりとして接続することを明確にしました。

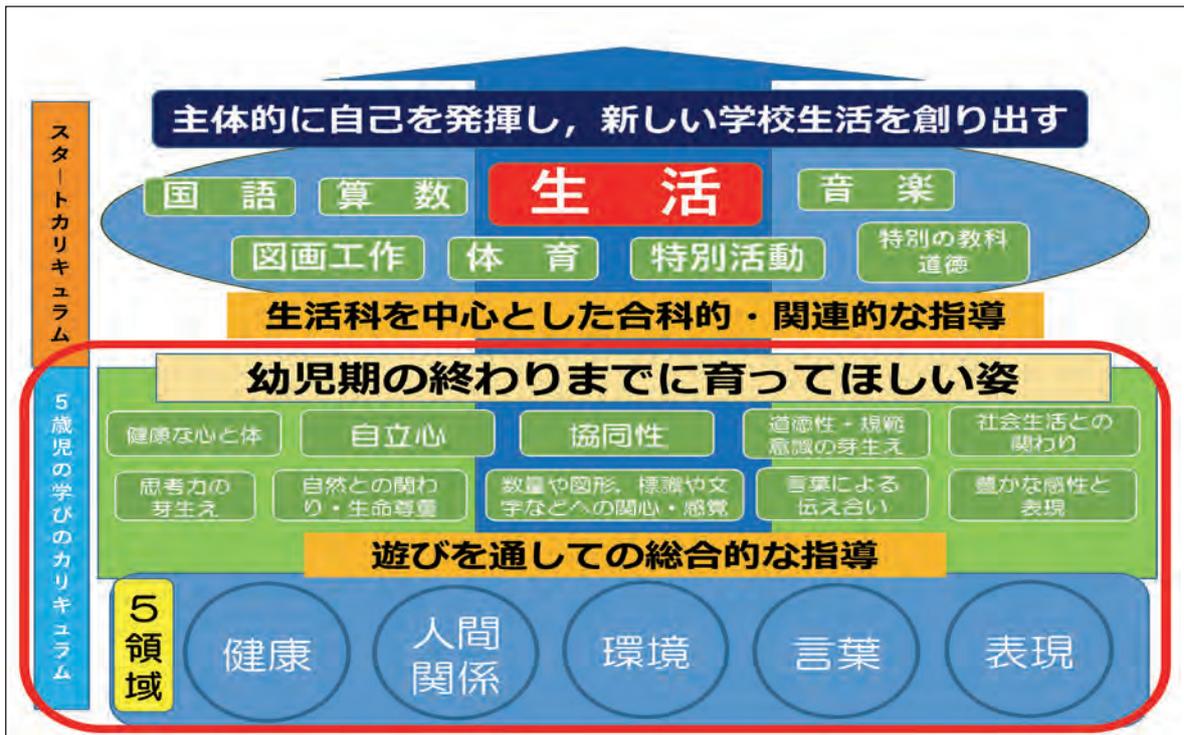


図1 接続期のカリキュラムの概念図

## 2 「5歳児の学びのカリキュラム」作成について

### (1) 「5歳児の学びのカリキュラム」作成における4つのポイント(表1)

幼児期の教育は計画的に環境を構成し、遊びを中心とした生活を通して経験を積み重ね、一人一人に応じた総合的な指導を行います。幼児期の教育への理解、積極的な情報提供が大切です。「5歳児の学びのカリキュラム」は、幼児期の学びを小学校教育につなげるために作成する幼児期が終わる前(5歳児の10月~3月)のカリキュラムです。

表1 「5歳児の学びのカリキュラム」作成における4つのポイント

1	積極的に小学校へ情報提供していきましょう。 ・教育内容や指導方法について情報交換や合同の研修会の機会をもち、小学校との連携を図りましょう。
2	小学校生活までを見通した生活や指導が大切です。 ・発達に関わる多様な体験を重ねるために、絶えず指導の改善を図りましょう。
3	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識しながら、就学に向けて取り組むべきことや幼児期の経験や学びを具体的にし、小学校教育につなげましょう。 ・教育課程の編成や指導方法を工夫しましょう。
4	「5歳児の学びのカリキュラム」を作成しましょう。 ・作成に当たっては幼児教育施設で話し合い、計画を立てましょう。

### (2) 「5歳児の学びのカリキュラム」の工夫と配慮(表2)

表1の4つのポイントを踏まえ、5歳児の10月~12月と1月~3月の二期に分け以下の6つの工夫や配慮をして、幼児の実態にあわせて具体的に実践をしていきます。

表2 「5歳児の学びのカリキュラム」の工夫と配慮

工夫と配慮	5歳児10月~12月 (小学校への期待を高める)	5歳児1月~3月 (小学校への期待をもち、意識する)
1日の時間の工夫	活動の切り替えや、活動に見通しをもたせる工夫をする。	1日の生活の流れが分かり、自分から行動できる工夫をする。
活動の工夫	就学に向けて、自己を発揮したり、自己を抑制したりする姿の援助をする。	目的を共有し、役割を決めて遊ぶ中で充実感や達成感を味わわせる。
人間関係についての配慮	友達と心を通わせたり、やり遂げた喜びを味わわせたりする工夫をする。	行事などを通して、異年齢児や地域の人と関わる機会を設ける。
家庭や小学校との関係	入学のしおりなどを活用し、子供の育ちに関する課題を共有する。	小学校入学までの生活の見通しについて家庭と共有する。
きまりへの適応と安全への配慮	安全と危険について自分で考えて行動する気持ちを育てる。	友達と気持ちよく過ごすにはルールが必要なことが分かり、守ろうとする気持ちを育てる。
小学校生活に向けての配慮	施設に小学校教諭などを招き、小学校生活の理解を図る。	小学生との交流により、小学校生活に期待をもつ。

## 3 実践例

## 「5歳児の学びのカリキュラム」活動実践の見方

## 主に〇〇が育った実践

- ・「〇〇」には、当日に育った「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が表示されています。活動を通して複数の姿が個々の幼児に表れるため、「主に」としています。

活動名	( 月)
-----	------

- ・本活動全体を象徴する一般的な名称で記載しています。

## 保育者の願い（ねらい）

- ・本活動全体の保育者の願いであり、ねらいでもあります。
- ・遊びや生活の中で、幼児の興味・関心を生かし、発達過程を考慮して設定します。

## 援助のポイント

- ・当日の活動を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を育むための保育者の援助のポイントを具体的に記載しています。

## 環境構成の工夫

- ・本活動全体において、ねらいにせまるための時間、空間、人間関係等についての環境構成の工夫を記載しています。

## これまでの経緯

- ・「当日の活動」に至るまで、時間の経過に従って、順に記載しています。

## 当日の活動内容

- ・幼児が当日にどのような活動をしたか、活動内容を時間の経過に従って、順に記載しています。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- ・当日の活動において、幼児の言動や行動等、時間の経過を追って具体的に記載しています。記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、当日の活動を記録したものです。

## 小学校教育とのつながり

- ・当日の活動において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が育ったことが、小学校教育にどのようにつながっていくのを記載しています。接続期では、小学校教育への見通しをもつことが大切です。

## 主に「自然との関わり・生命尊重」が育った実践

### 活動名 収穫祭をしよう (10月)

#### 保育者の願い(ねらい)

- ・園で収穫したさつまいもを、5歳児が中心になり3歳児、4歳児と協力して調理し食べることで、命のあるものに感謝の気持ちをもつようにする。
- ・子供たち同士で思いを交流し合うことで、共通のイメージをもち、同じ目的に向かって活動する楽しさや達成感を味わう。

#### 援助のポイント

- ・野菜にも命があることや食せることに感謝できるように、保育者から意識的な言葉かけをしていく。
- ・子供たちのつぶやきや言葉に耳を傾け、発見したり、試したりする気持ちに寄り添い、保育者も一緒に考えながら、興味・意欲を高めていく。

#### 環境構成の工夫

- ・子供たちが計画をしていく中で、考えたことや想像したことを実現できるように、保育者が共通理解をもって連携し援助していく。
- ・ゆったりとした時間を保障し、収穫したものをみんなで調理し食べることに喜びを感じ、秋の自然を満喫できるように配慮する。

#### これまでの経緯

- ・自分たちで苗を植え、育てたさつまいもを収穫することを楽しむ。
- ・さつまいも汁を作るための材料や作り方を調べる。例：「さつまいも汁作りに何が必要?」「何人分、いくつ買う?」「お米と水の量は?」「火はどうやっておこすの?」など。
- ・3歳児、4歳児と一緒に薪・小枝を拾いに出かけ、重い薪や枝は5歳児が背負って持ち帰る。その際、秋の虫や紅葉の美しさ、落ち葉や木の実の様子など自然の変化を身近に感じる。
- ・スーパーまでの長い道のりを、交通ルールを守りながら、歩いて買い物に行く。
- ・スーパーでは買うものを選んだり、レジでお金を払ったりする。わからないことや困ったことはみんなで相談して決めたり、店員さんに教えてもらったりする。
- ・大勢の人が利用する施設では、周りの人に迷惑をかけないように気を付けて行動する。
- ・3歳児、4歳児に作り方や役割がわかるように、絵や文字で表した表を作る。



## 当日の活動内容

- 3歳児は野菜を洗う、こんにゃくをちぎる。4歳児は野菜の皮むきなどをする。5歳児は野菜を切る、かまどの準備、なべに材料や調味料を入れるなど、自分のやるべきことに取り組み、友達と協力してさつま汁を作る。
- 5歳児が4歳児、3歳児に表を見せながら、さつま汁作りの手順や役割を教える。
- 自分がやるべき仕事を最後まで責任をもって取り組み、協力してさつま汁を作る。
- 給食を作ってくれる調理員さんを招待して、日頃の感謝の気持ちを伝えながら、自分たちが作ったものを一緒に食べる。
- 作り上げた喜びを感じ、みんなで挨拶して食べる。
- 5歳児を中心に、活動の振り返りをしながら、最後まで片付けをする。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 5歳児が小さい子に教えたいという思いから、活動の流れの一覧表を文字や数、絵等を自然と学んでいた。  
(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)
- 自分たちで育て収穫したさつまいもや色々な野菜には、命があることを知り、感謝の気持ちをもちながら、みんなで調理し食すことを楽しんだ。(自然との関わり・生命尊重)(協同性)
- 煮炊きをするために、かまどで火を起こす体験を通して、火は自分たちが生活していく上で必要なものであると感じ取った。  
(自然との関わり・生命尊重)
- 仲間と相談したり、進め方を4歳児、3歳児に言葉で伝えたりした。(言葉による伝え合い)
- 誰かを喜ばせることが、自分たちの喜びという感覚を味わった。  
(豊かな感性と表現)
- 色々な野菜に触れ、固さや色、匂いの違いを感じた。  
(豊かな感性と表現)
- 5歳児がリードすることで、異年齢児が協力して、一つの目的に向かってやり遂げる達成感を味わった。  
(協同性)
- 自分の役割への責任をもつことが、さつま汁を協力して作り上げることに繋がっていると感じ取った。  
(自立心)
- 友達の気持ちに共感したり、小さい子の立場に立って優しい気持ちで行動したりした。  
(道徳性・規範意識の芽生え)
- 順番を待つなどのきまりを作ったり、守ったりした。  
(道徳性・規範意識の芽生え)

↓  
小学校教育とのつながり

- 植物の栽培やそれらを活用した活動で、「面白い。」「不思議だな。」「どうすればよいただろう。」「どうしたらこうなるのか。」などを考えることは、小学校の探究の学習へとつながっていきます。
- 異年齢児との関わりをもつことは、幼い人や身近にいる人に温かい心で接し、親切にする心の育ちにつながります。
- クラス全体で同じ目的に向かって活動することで育まれた「協同性」や「言葉による伝え合い」などは、小学校生活の基礎となります。



## 主に「言葉による伝え合い」が育った実践

活動名 みんなで相談しよう —なかよし発表会— (10月~12月)

### 保育者の願い(ねらい)

- 毎年実施しているなかよし発表会に向けて、発表内容についての話し合いをもつ中で、自分の考えを伝えたり、相手の話を受け入れたりする経験をする。
- 友達と一緒に活動する中で、それぞれが経験した事を伝え合ったり、それらを共有する喜びや楽しさを感じたりする。
- 友達と意見を出し合いながら活動を進めていく楽しさや、共通の目的が実現する満足感を味わう。

### 援助のポイント

- 子供たちが演目に親しめるよう、事前の読み聞かせやペープサートの用意をする。
- どんな意見も肯定的に捉えられるような雰囲気作りをし、安心して意見を言ったり、活動できるようにしたりする。
- 子供たちに考えさせたり、意見や思いを引き出したりできるような問いかけや言葉かけをする。また、一人一人の思いを聞きながら、演目決めをしていく。
- 話し合いの中で個々の良い所(話し合いに参加する態度、考え、気付きなど)を認めたり、褒めたりし、全体にも知らせていく。

### 環境構成の工夫

- 一人一人が物語のイメージをつかみ、自分の考えをもつことができるような掲示物、ペープサート、CDなどを用意する。
- 話し合いで意見を出しやすいよう、机・椅子の配置を工夫する。
- 自分たちで決めたことや意見を共有できるように、絵や図、文字で示す。
- じっくり話し合いができるよう、時間と場所を保障する。

### これまでの経緯

- 昨年度のなかよし発表会の映像を見て、昨年の様子を想起させる。今年度はどんな内容にするかを子供たちに投げかけ、クラスで行う演目(歌、合奏、オペレッタ)を決定する。
- オペレッタの候補の二つの絵本の読み聞かせをする。
- オペレッタの絵本やCD、登場人物のペープサートを使って、登場人物になりきって遊んでいる。

## 当日の活動内容

- 「ともだちほしいなおおかみくん」のCDを聞く。保育者はCDに合わせてペープサートを動かしながら問いかけをし、登場人物の心情について考えさせる。
- 2つの演目候補から、どちらかを選ぶ話し合いをする。
- 「どちらがいいか。」とその理由について自分の意見を発表する。
- どのような方法で決めるかを話し合う。
- 決まった演目の登場人物について、どんな特徴があるかを話し合う。
- 次回は、配役決定をするので、どの役になりたいか、各々考えておくように投げかける。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 「どちらがいいか。」「なぜそれをやりたいか。」など自分の意見や考えを伝えていた。  
(言葉による伝え合い) (思考力の芽生え)
- CDによるお話やペープサートの世界に入り込み、楽しんだ。  
(言葉による伝え合い) (豊かな感性と表現)
- 友達の意見に賛成したり、付け加えの意見を伝える際には挙手をしたり、言葉を選んだりしていた。  
(言葉による伝え合い) (思考力の芽生え) (道徳性・規範意識の芽生え)
- 演目の決め方について、みんなで相談して決めていた。  
(言葉による伝え合い) (協同性) (思考力の芽生え)
- 自分たちで決めたことや意見を共有できるよう、ホワイトボードを使い文字で表していた。  
(思考力の芽生え) (数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)
- 演目の登場人物について、想像して考えていた。  
(豊かな感性と表現)



## 小学校教育とのつながり

- なかよし発表会に向けて、どんな発表内容にするかの話し合いをもつ中で、自分の考えを伝えたり、相手の話を受け入れたりすることは、学校生活を豊かにする特別活動や、学級活動につながります。
- 「どちらがいいか。」「なぜそれをやりたいか。」など自分の意見や考えを伝え合うことは、充実した学び合いにつながります。



## 主に「協同性」が育った実践

### 活動名 レストランごっこ (11月)

#### 保育者の願い(ねらい)

- いろいろな係の中から、自分がやってみたい係を決める過程で、自分の思っていることを相手に分かりやすく言葉で伝えたり、相手の思っていることを聞き、受け入れたりしようとする。
- 友達とイメージを重ね、一緒に店員さんになることの期待や喜び、充実感を味わう。
- 3歳児・4歳児を招待することで、食事への期待や意欲を盛り上げるとともに、優しさや思いやりの気持ちをもとうとする。

#### 援助のポイント

- お客さんへのおもてなしについて、これまで自分自身が経験してきたことを話し、どのように振る舞うのかを友達と一緒に考え、イメージを膨らませて取り組めるようにしていく。
- 係決めの話合いで、自分の意見が思うように通らない場合には、よりよい解決ができるよう適度に仲介していく。自分が希望する係になった際は、友達のやってみたいという思いが自分に任されたと捉え、思い通りでなかった場合は、友達に託したと捉えるようにしていく。その中で、友達と一緒に達成感を味わえるようにしていく。

#### 環境構成の工夫

- 手指の消毒、エプロン・マスク・三角巾の着用を徹底し、衛生面において、子供たち同士でも考えられるように工夫する。
- 活動がスムーズに行えるよう、導線を工夫し、雰囲気作りに配慮する。
- 活動が終わってから友達と遊びが継続できるよう、保育室にもいろいろな遊びの素材を用意しておく。

#### これまでの経緯

- 昨年のレストランごっこを思い出し、年長児が行っていたことを自分たちができることに喜びを感じ、興味をもつ。
- 行ったことのあるお店やレストランを思い出し、自分なりに考えたことを伝え合い、友達とイメージを共有する。
- 事前にポスターを作り、レストランごっこの開催を園内に知らせる。
- サンドイッチの作り方、ごはんやカレーの盛り付け方、店員さんの接客の仕方など、これまで経験したことや知っている知識を伝え合い、遊びの中に取り入れようとする。
- 係の話合いの中で、自分の意見と相手の意見との違いから葛藤する場面もあるが、お互いが納得できるよう解決方法を見付けようとする。

## 当日の活動内容

- サンドイッチを作る（パンにイチゴジャム、チョコレートソースを塗り、重ね合わせる）。
- お店屋さんになり、ゼリー、サンドイッチ、ジュースを売る（券をお金に見立て品物と交換）。
- レストランではカレーライスを盛り付ける。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- サンドイッチ作りでは、パンにジャムなどを塗る際にパンがずれて塗りにくい友達の様子を見て、パンを押さえてあげた。（協同性）
- 衛生面に配慮して手洗い・うがい・消毒をし、マスク・手袋を着け、その際になぜこれらが必要かを子供たち同士で確認していた。（健康な心と体）
- お店屋さんごっこで、お客さんを「いらっしゃいませ。」と迎え入れた。また、品物のやり取りでは、「はいどうぞ。」などと言葉のやり取りを役割分担しながら行った。（社会生活との関わり）
- 買い物で何をしたらよいかわからず困っているお客さんに、買い方を教えてあげていた。（道徳性・規範意識の芽生え）
- レストランごっこで、配膳係が他の子のカレーの量と比べてカレーが少ないと感じた時には、カレーを入れる係の子供に「これもっとかけて。」と頼んでいた。（協同性）
- シャモジの持ち方について、友達にアドバイスしてあげていた。（協同性）
- 順番に並ぶことができ、また、混んでいる列を避け、空いている列を選びチケットと品物を交換することができた。（道徳性・規範意識の芽生え）
- カレーを食べる際、「カレーがつくと落ちないから腕をまくった方がいいよ。」と友達に言葉をかけていた。（協同性）

↓  
小学校教育とのつながり

- チケットや品物の数を数えたり、比べたりする活動は、算数のものと数とを対応させて、個数を比べる学習につながります。
- お店屋さんとして、丁寧な言葉遣いに心掛けてお客さんに接する活動は、国語の相手や場面に応じて言葉を使い分ける学習につながります。
- ごっこ遊びを通して、友達と仲良く助け合ったり、友達に親切にしたりしながら活動することは、特別の教科 道徳の「友情、信頼」、「親切、思いやり」の学習につながります。



## 主に「自立心」が育った実践

活動名 焼き芋会をしよう (11月)

### 保育者の願い(ねらい)

- 畑で野菜を育て収穫するなどの直接体験に基づいた活動をすることで、興味・関心や予想を基に試行錯誤しようとする。
- 友達と一緒に思いを共有する体験を積み重ね、諦めずにやり遂げることで達成感を味わう。

### 援助のポイント

- 子供たち自身で焼き芋会を作り上げたという喜びを味わうことができるように、保育者の援助は最小限にしていく。
- 役割分担の話合いをする中で、子供たちが自ら焼き芋会に携わることができるようにしていく。
- 野菜の話や火の話などを通して、活動に関心をもたせる場面を多く作っていく。
- 焼き芋会の疑似体験をする中で、試行錯誤をさせていく。

### 環境構成の工夫

- 積み木で炉を組むなどの疑似体験の中で、子供たちがイメージしたものを作り出せるように環境を整えておく。

### これまでの経緯

- さつま芋を使った料理を考える。
- 焼き芋会をするための手順や、どのような物品が必要かをクラスで話し合う。
- 当日の役割分担を子供たちに決めさせる。
- 積み木で炉の形を考え積んでみる。試行錯誤する中、焼き芋会でスムーズに積むことができるように、子供たちが自ら考えて設計図を作る。
- 畑で収穫した野菜に興味・関心をもたせるために、野菜電池の実験を行う。
- 何で火を付けるか考える。野菜電池、乾電池、昔の火起こしの道具、マッチやライターなど子供たちがイメージしたもので火が付くのか、実験をする。
- 昨年の焼き芋会の経験から、濡らした新聞紙で芋を包み、その上からアルミホイルで包むことは知っているが、なぜそうするのかを実験を通して知る。

当日の活動内容

- 畑で芋掘りを行う。炉を組み立て、役割を分担する。
- 芋に濡らした新聞紙、アルミホイルを巻く。
- 昔の火起こしの道具、アルミホイルと乾電池を使い、どうすれば火が付くかを考えさせる。
- 炉に火を付け芋を焼き、できた焼き芋を食べる。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 土に埋まっている芋を引っ張って抜くのではなく、丁寧に根気強く土を掘って芋を収穫していた。  
(自立心)
- 火をつける前に、「みんな、もうちょっと下がって。」と友達に声をかける子供がいた。  
(自立心)
- クラスの仲間との関わりを通して、お互いの意見を尊重しながら一つのもので作り上げていく喜びを味わった。  
(協同性)
- 周囲の環境に好奇心をもって積極的に関わりながら、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりしていた。  
(思考力の芽生え)
- 友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしようとしていた。  
(思考力の芽生え)



小学校教育とのつながり

- さつま芋を育てる活動は、小学校で植物を育てることや成長について興味・関心をもたせることにつながります。
- 分かったこと、感じたこと、新たな発見などを他者に伝えることは、国語の「話すこと・聞くこと」の力を育てることにつながります。
- 「他者と協力して一つのもので作り上げる喜び」を味わうことで特別の教科道徳の「相互理解、寛容」につながります。



## 主に「道徳性・規範意識の芽生え」が育った実践

### 活動名 こま回しをしよう (12月)

#### 保育者の願い(ねらい)

- ・こま回しの練習やこま回し大会において、友達との関わりの中で相手の気持ちを知り、違う考えを受け入れ、自分の考えを言葉にして表現しようとする。
- ・毎日のように、繰り返しこま回しの練習をしてきたことを、近隣の小学校1年生とのこま回し大会でいつもと同じように行おうとする。

#### 援助のポイント

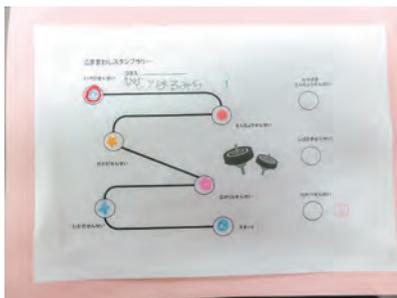
- ・「またやろう。」「楽しかった。」「悔しい。」「頑張る。」「頑張れ。」「上手になりたい。」など、自分の思いを言葉にできるよう見守ったり、一緒に考えたりしていく。
- ・相手の気持ちに気づき、相手の立場に立って行動できるようにしていく。
- ・こま回しの練習などで、日々、積み重ねてきたことを認める。
- ・こま回しの勝敗を認め、自分の気持ちをコントロールできたことを認める。

#### 環境構成の工夫

- ・こま回しがどの場でもできるよう、こま回し台を保育室や園庭に準備しておく。
- ・こまは、個人持ちにすることで、いつでも取り組んだり、友達と競い合ったりできるようにする。
- ・クラスの友達同士で教え合ったり、認め合ったりしている子供たちが、より意欲的に人と関わって遊べるよう、異年齢の子供にこま回しを見せたり、教えたりする場を設定する。

#### これまでの経緯

- ・こまを一人一個準備し、色付けをすることで愛着をもち、こま回しに興味をもって取り組む。
- ・紐の巻き方やこまの投げ方などが分からない子供には、保育者が一緒に取り組んで教える。
- ・継続して練習することができるように、保育者との「対戦スタンプラリーカード」を用いてモチベーションが維持できるようにする。
- ・回せるようになった子が、回せない子に対して紐の巻き方やこまの投げ方などを教えることで、自信をもたせるようにする。
- ・「対戦スタンプラリーカード」の活用で、保育者となかなか対戦できない子に対して、どうしたらいいのかを考え、保育者に挑戦状を送るなどして、自ら行動する。



## 当日の活動内容

- 近隣の学校を訪問し、こま回し大会を1年生とする。
- 「はじめの会」では、4つのグループに分かれ、1年生と一緒に大会のルールを聞く。
- 1年生と対戦をする。
- 順番を待っている子供たちは、友達を応援したり、勝ったりしたことを喜んだりする。
- 勝った子が肩にシールを貼ってもらう。
- グループで練習をする。
- グループでこまの紐の巻き方や、投げ方を教える。
- 小学生や教員と関わりをもつ。
- 合図を聞いて、相手に合わせてこまを投げる。
- トーナメント方式で対戦し、チャンピオンを決める。



## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- こま回し大会の勝敗に関わらず、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けていた。  
(道徳性・規範意識の芽生え)
- 「〇〇君頑張ってる。」と自分たちの仲間を応援していた。  
(協同性)
- グループでこま回しの練習をし、「いっしょにやろうよ。」と声を掛け合っていた。  
(協同性)
- うまくこまが回せなかったり、思うような結果にならなかったりしても、諦めずにやり遂げることで満足感を味わい自信をもつことができた。  
(自立心)
- 「うまくこまを回すには、どのようにしたらよいか。」について気付き、こま回しがうまくなるようになった。  
(思考力の芽生え)



## 小学校教育とのつながり

- 大会のルールを守り、自分の気持ちをコントロールして折り合いを付けることは、小学校の特別の教科 道徳の「節度、節制」につながります。また、こまがうまく回るように挑戦した経験は、特別の教科 道徳の「希望と勇気、努力と強い意志」につながっています。さらに、友達を応援したり、小学生との交流をしたりする経験は、特別の教科 道徳の「友情、信頼」につながります。
- 友達や小学生との会話は、国語の「話すこと・聞くこと」につながります。



## 主に「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」が育った実践

### 活動名 郵便やさんごっこ (1月)

#### 保育者の願い(ねらい)

- 自分で決めた係の仕事に最後まで責任をもとうとする。
- 友達と一緒に、共通の目的に向かって協力しながら遊びを進めていこうとする。
- 郵便やさんごっこを通して、手紙を受け取る喜びや相手の気持ちを知らるうれしさを味わう。

#### 援助のポイント

- 上手く係の仕事が進まないところは、保育者が入り、よりよい方法を見つけ出せるようにしていく。
- 分からない文字は、保育者が別の紙に書くなどして、文字に書き順があることや、句読点の付け方などのルールがあることが分かるようにしていく。
- 届いたハガキを子供たちの前で読み上げることで、様々な表現の仕方を知るとともに、手紙を書くことの喜びを感じられるようにする。

#### 環境構成の工夫

- 文字に興味をもてるよう部屋に平仮名表を掲示する。
- 書きやすい鉛筆(2BまたはB)や色鉛筆をあらかじめ用意しておく。
- 郵便ポスト、仕分け箱など、目に付きやすい場所に置いたり、目立つような表示を工夫したりする。
- 遊びを展開するための広いスペースを確保していく。



#### これまでの経緯

毎年冬休みに園から子供たちに向けて年賀状を出す。また、子供たちからもらった年賀状を保育室に掲示し、ハガキをもらう喜びや返事を送る楽しさを感じる。

- 「やぎさんゆうびん」を歌う。
- 子供たちから「郵便やさんごっこをしよう。」と案が出て、少数の子たちでの遊びが始まる。次第に遊びの輪が大きくなり、郵便局の仕事に興味をもつ。
- 実際に郵便局へ行き、働く様子を見る。仕事の内容を知る。
- 年長2クラスが交互で郵便局になることが決まり、銀行、配達、仕分け、日付押し、ハガキ作り、切手とハガキを売る係の中から自分で考えて、やってみたい係を選ぶ。(日々遊びは続くので、その都度係を決め直す。)



## 当日の活動内容

## 店員

- ・開店準備をする。開店の放送を流す。
- ・自分の仕事に責任をもつ。
- ・全ての係の大切さが分かり、手が空いた時は自ら他の係の手伝いをする。
- ・お客さんとの言葉のやりとりを大切にする。
- ・片付けをする。
- ・閉店の放送を流す。

## お客

- ・自分の思いを文字や絵で表現する。
- ・相手が喜ぶものを丁寧に書こうとする。
- ・受け取った相手に返事を書く。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- ・色々な形の箱に色紙を貼っていた。 (数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)
- ・「切手」係は、シールを四角形に切っていた。また、マルのハンコにあわせてシールを貼ることができていた。 (数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)
- ・自分の保護者がクラスに来た時、どのように郵便屋さんごっこに参加すればよいかを説明してあげていた。 (社会生活との関わり)
- ・「銀行」「切手(シール)」「ハガキづくり」「集配」「消印」「日付」「仕分け」「配達」係が、それぞれが集中して、やるべきことに取り組んでいた。 (自立心)



## 小学校教育とのつながり

- ・この活動では、数、文字、言葉の感覚が育っています。そのことは、入学後、並ぶ、数える、配るなどの活動に生かされていきます。
- ・この活動では、お客さんとのやりとりの中で、相手に応じて話す事柄を順序立てて、丁寧な言葉との違いに気を付けて話すことができ、良好なコミュニケーションを図ることができます。
- ・この活動では、気持ちのよい挨拶、言葉遣い、明るく接することなどができていました。小学校では集団生活の向上や良好なコミュニケーションを図ることにつながります。
- ・この活動では、異年齢児に温かく接し、親切にすることができていました。小学校の集団生活の向上につながります。



## 主に「豊かな感性と表現」が育った実践

### 活動名 指人形劇 (1月)

#### 保育者の願い(ねらい)

- 自分で作った人形に愛着をもち、役になりきって演じることを楽しむ。
- 3歳児、4歳児のために「指人形劇」をするという共通の目的に向かい、最後まで意欲的に取り組もうとする。
- 見ている人を楽しませようと表現方法を考えたり、イメージを膨らませたりする。

#### 援助のポイント

- 一人一人の表現方法の工夫、良さを認めていく。
- 人形劇の進め方を確認し、主体的に進められるように見守る。
- 伝え合ったり、互いに考えたりする機会を積み重ね、伝え合うことの喜びを味わうように援助していく。
- 感じたこと、気付いたことなどを言い合える雰囲気作りを心掛け、じっくり取り組むことができるようにしていく。

#### 環境構成の工夫

- 落ち着いた雰囲気の中で、絵本選びから人形作りができるようにする。
- 同じグループの仲間が相談しながら作れるよう、いろいろな素材を準備する。
- いつでも絵本が見られるように配置する。
- 話合いや練習ができるように、各グループの集まり方を工夫したり、自由に表現できるよう時間と場所を保障したりしていく。

#### これまでの経緯

- 4歳児以下の子供が、5歳児が見せてくれた指人形劇に憧れの気持ちをもち、「自分たちもやってみたい。」と言う子供がいた。
- 劇の題材にしたい絵本を一人1冊図書室で選ぶ。保育室に戻り、円になって選んだ理由を皆に伝える。「楽しいから。」「登場人物が多いから、役選びが楽しくできると思う。」と言う子供がいた。各クラス3冊にしぼり、その中から自分がやりたい劇や役を選ぶ。
- 保護者に人形の服の型紙を載せた手紙を出し、布を切ってきてもらう。
- グループごとに人形作りを始める。あらかじめ作っておいた指サックに紙粘土で顔、手を作る。固まったら、絵の具で色を付け、保育者がニスで艶を出す。ペンで目や鼻、口を描く。服は針と糸を使って並縫いをする。でき上がった服と顔・指をのりとボンドを混ぜたもので接着し、乾いたら完成。
- 指人形を使ったごっこ遊びが始まり、1月頃に「指人形劇場を開きたい。」と具体的な案が子供の方から出る。冬休み前からグループごとに集まり、台詞を考えたり、人形以外に必要なものを考えたりして作り始める。
- 劇が仕上がると他のグループとの見せ合いが始まり、「もっとこうの方がよい。」など、意見交換をする姿が出る。

## 当日の活動内容

- 保護者参観日を設定する。
- 3歳児、4歳児に向けて「指人形劇場」を開く。(チケットを準備し、観た劇にはんこを押す。)
- 参観日の前半は郵便やさんごっこをし、後半から長机を出し劇のセッティングを行う。
- 劇を観た後、一人ずつ自分が何の役をしたのかを発表し、保護者から感想を聞く。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 「ぞうくんのあめふりさんぽ」の登場人物に合った布を選んで洋服を作り、紙粘土で頭や腕を作って、色を塗り、自分だけの指人形を使って、楽しそうに「絵本」のお話を表現していた。  
(豊かな感性と表現)



- 「ぞうくんのあめふりさんぽ」の絵本を、指人形を使って、セリフを考えて、役になりきって声や動きを変えていた。  
(豊かな感性と表現) (言葉による伝え合い)



## 小学校教育とのつながり

- 話し合い活動では、自分の考えや経験したことを整理して話すことで、国語の「話すこと・聞くこと」につながっています。
- 劇では台詞を考えて、役になりきって、声や動きを変えていくなど、表現活動を工夫することで、小学校に向けて言葉や表現が、より豊かになります。
- 友達の作った指人形の作品を見合うことは、図画工作の鑑賞で、それぞれのよさに気づき、表し方などについて感じ取ったり、考えたりすることにつながります。
- 「話すこと・聞くこと」は、全ての言語活動の基盤であり、話す、読む、書くことへの意欲を高めること、学びに向かう力、経験を通しての深い学びの実現につながります。



## 主に「思考力の芽生え」が育った実践

### 活動名 いろいろな種をしぼろう (1月)

#### 保育者の願い(ねらい)

- 畑で栽培物を育て収穫する経験から、春に採取した菜種で何かできないか疑問をもち、また、手を加えることによって生活に必要な食品に変化することに興味・関心をもつようになる。
- 他の食物も同様に油が搾れるのではないかと考え、自分から試そうとする。

#### 援助のポイント

- 菜種から油ができることを保育者が実際に子供に見せることで、他の植物も同様に油が搾れるのではないかと考え、自分も試してみようという気持ちをもたせる。
- 友達と同じものを見て考えていくことの楽しさや、一体感を感じられるようにする。保育者は「面白そう。」「自分もやってみたい。」と発言する子供たちを認め、新たな目的をもたせ、一緒に考えを共有していく。

#### 環境構成の工夫

- 「たねしぼり」のための場作りと活動がスムーズに運ぶよう、器具・素材を使いやすいように置いておく。
- 「やってみたい。」という意欲に応えるため、材料と道具を一定の位置に用意し、子供たちがイメージしたものを作り出せるように環境を整えておく。

#### これまでの経緯

- 園庭の田んぼでは、稲の収穫後には、菜の花の種を蒔く。
- 菜の花の種採りを行い、それらを何かに活用できないかを話し合い、料理に使う油に関心をもつ。
- 油のとれる植物に興味・関心をもち、図鑑で調べたり、家の人に聞いたりする。
- 菜種、ひまわりなどを搾ってみるが、量が少ない。
- 子供たちの話し合いに出てきた椿の種から油がとれないか試してみることにした。通園路に椿の実があることを知った子が園に持ってくる。
- 搾った油の活用方法を話し合ったり調べたりして、椿の種からどの位の油が搾れるか、実際に試してみることにする。

当日の活動内容

- 椿の油を搾る過程の説明を聞く。
- 椿の殻をむいている途中で、「殻が硬い。どんぐりみたい。何か匂う。」などの言葉が聞かれる。
- 種はすり鉢に入れて潰し、叩くと潰れやすいことを教え合いながらすりつぶすことを行う。
- すり潰した種はガーゼでくるみ、蒸し器に入れる。
- 蒸したものを冷めないうちに搾り、集めた油の量を調べる。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 椿の種を机の上でトントンとたたいて殻をむいた。 （思考力の芽生え）
- 殻をむく。「蜜が出ているの？すでに油が出ているのかな。」と気付いた。 （思考力の芽生え）
- 季節の草花や木の実などの自然の素材などに触れさせて、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめた。 （自然との関わり・生命尊重）
- 「順番にしようよ。」「押さえてくれてありがとう。」と他の人との関わりをもつことができた。 （社会生活との関わり）



小学校教育とのつながり

- 季節の草花や、木の実などの素材に触れることは、季節の移り変わりに気付くことにつながります。
- 必要な仕事を相談したり、役割を分担して活動したりするなど友達と力を合わせて活動することは、特別の教科 道徳の「よりよい学校生活、集団生活の充実を養うこと」につながります。
- 分かったこと、感じたこと、新たな発見などを他者に伝えたり、聞いたりすることは、国語の「話すこと・聞くこと」の活動につながります。
- 搾り出した油の量を量ることは、算数のかさの学習につながります。



## 主に「健康な心と体」が育った実践

### 活動名 最後まで頑張ろう (1月)

#### 保育者の願い (ねらい)

- ・マラソンや全身を使った遊びを通して体作りをし、進んで取り組む意欲を育てようとする。
- ・自ら考え行動したり時間の流れを意識したりして、見通しをもって取り組む。
- ・広い校庭で伸び伸びと体を動かすことの楽しさや、心地よさを感じる。
- ・互いに頑張った姿を認め合い、できるようになった喜びや満足感を味わう。

#### 援助のポイント

- ・縄跳びやボール投げなどの活動において、一人一人に合った目標に向けて、アドバイスしたり励ましたりする。
- ・マラソンや縄跳びで、一人一人の頑張りやできるようになったことを認めたり、共に喜んだりして、次へのやる気につなげていく。
- ・活動の中での子供の気付きや望ましい行動を認め、他児にも知らせていく。
- ・巧技台の設定や的当て用の段ボールの組み立て方などで困った時、クラス全体に投げかけ、考えやアイデアを引き出したり、みんなで考える機会を多くもったりするようにする。
- ・活動を行う上での約束事を、子供たちと確認する。

#### 環境構成の工夫

- ・1日の流れが分かるように事前に話したり、表を作成して掲示したりし、活動の見通しをもてるようにする。
- ・マラソンでは順位カード、縄跳びではがんばり表を作り、自分の目標をもって取り組めるようにする。
- ・運動遊びをする時は、広い空間をとり、十分に体を動かせるようにする。
- ・子供たちの様子を見ながら、一人一人に合った援助や言葉かけをする。
- ・目標をもって意欲的に取り組めるように、遠投ではラインやテープ、的当てでは点数の貼ってある大、小のダンボールを用意する。

#### これまでの経緯

- ・小学校1、2年生の体育を見学し、縄跳びで跳ぶ様子を見たり、一緒にドッジボールをしたりしたことがよい刺激となり、様々な運動遊びにつながる。
- ・小学校校庭でマラソンや縄跳び、ボール投げ、ジグザグリレーなど色々な運動遊びを継続して行う。

## 当日の活動内容

- みんなで準備運動をして、学校の校庭をマラソンする。4歳児は2周半、5歳児は3周半、自分のペースで走る。ゴールで順位表をもらう。
- 他クラスの友達を応援する。
- 園庭に大きく広がって縄跳びをする。保育者は子供の様子を見ながら回り、跳べない子には跳び方やコツを知らせる。保育者に数えてもらい、跳んだ数を書いてもらう。
- ボール投げ（遠投や的当て）では、保育者や友達のアドバイスを聞いたり、順番を守ったりして行う。用具の準備や片付けを友達と一緒にする。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- 短縄跳びで、何度も挑戦し、諦めずに取り組む姿が見られた。（健康な心と体）（自立心）
- 二人組で教え合ったり、保育者の励まして跳べるようになったりする場面が見られ、できるようになった喜びや満足感を味わっていた。（健康な心と体）（自立心）
- 準備運動の大切さを知り、伸び伸びと体を動かして体操をしていた。（健康な心と体）
- 保育者や友達の話を聞き、体操ができるように自分で間隔を空けることができた。（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）
- マラソンの順位カードや縄跳びがんばり表を目標に、意欲をもち、取り組んでいた。（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）
- どうやったらうまく跳べるかを考え、工夫して取り組んだ。（思考力の芽生え）
- 互いに教え合ったり、できたことを喜び合ったりしていた。（豊かな感性と表現）（言葉による伝え合い）
- ボール投げや的当てでは、順番やルールを守って行っていた。（道徳性・規範意識の芽生え）
- 友達を応援したり、チーム対抗のゲームでは協力したりして勝とうとしていた。（協同性）
- 運動に使う用具を自分たちで準備したり、協力したりして片付けた。（自立心）（協同性）



## 小学校教育とのつながり

- 目標に向かって夢中で遊びに取り組む姿は、小学校生活の様々な場面で、主体的に伸び伸びと活動する姿につながります。
- 様々な運動遊びを通して、運動遊びの楽しさに触れ、進んで取り組むことは、体力の向上や技能の習得につながります。
- 運動遊びを通して、ルールを理解し守ろうとする姿は、道徳心や安全意識の育成につながっています。



## 主に「協同性」「言葉による伝え合い」が育った実践

### 活動名 お店やさんをしよう (2月)

#### 保育者の願い(ねらい)

- ・「お店やさんをする。」という共通の目的に向かって、自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながらグループの友達と活動を進めていく。その話合いの中で相手に分かるように話したり、友達の話を聞いて取り入れたりして、自分の思いを調整する経験をするとともに、学級全体で一つの活動をやり遂げたという満足感と達成感を味わう。
- ・様々な材料を使って繰り返し試したり、考えたりしながら最後まであきらめずに取り組もうとする。
- ・お店の看板を書いたり、品物を数えたりすることで、必要に応じて数量や文字に触れ、興味・関心をもつようになる。

#### 援助のポイント

- ・開店の日や参加する幼児の人数等が分かり、それに向かって見通しをもって取り組めるような掲示物を作ったり、具体的な言葉かけをしたりしていく。
- ・グループでの話合いの際は、どの幼児も思いを伝えることができているか、一人の思いだけで遊びが進んでいないかを把握し、思いを伝えることができない幼児が意見を言うきっかけ作りをしていく。
- ・自分の思いが受け入れられなかったり、思うように遊びが進まなかったりと、葛藤を体験している際には、すぐに声をかけずに見守り、タイミングをみて、関わるようにする。

#### 環境構成の工夫

- ・品物作りで一人一人のイメージが実現できるように、必要に合わせた素材や材料を十分準備しておく。
- ・それぞれの店のイメージがより具体的に共通理解できるよう、お店や品物の本を幼児がすぐに手に取れるように置いておく。
- ・店構えや品物の並べ方や配置など、子供たちの考えを受けて遊びが展開できるように準備しておく。
- ・自分たちで決めたことを共有できるよう、絵や図で示していく。

#### これまでの経緯

- ・学級全体で3歳児、4歳児のために何かできるかを話し合う。
- ・お店やさんに、3歳児、4歳児を招待することにし、どんな店にするかを話し合う。
- ・各自、決定した店の中からやりたい店を選ぶ。店ごとに分かれ、どんな店にするか、必要な品物や看板などについて話し合う。
- ・具体的な内容が決まったグループから品物を作るための材料探しや品物作りを繰り返し行う。さらに話し合う中で、言葉で伝えるだけでなく、絵や図をかいいたりして、グループの仲間に分かるように伝えようとする。
- ・販売する品物の数が増えてくると、品物の並べ方を考えたり、役割分担や店の人の衣装はどうしたらよいかなどの声が出たりと、開店に向けて話し合おうとする。

## 当日の活動内容

- 4つのグループ（レストラン・アクセサリー屋・昔遊び・迷路）に分かれて、開店に向けて話し合ったり、品物作りを進めたりする。
- 遊びの最後には、それぞれの店の今日の活動内容や進み具合などについて知らせる時間を持ち、お互いの店について共通理解する。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- グループで話し合う中で、思いを伝え合ったり、友達の思いや考えを受け入れたりすることで、より店のイメージが具体的になることを実感した。（社会生活との関わり）
- 話し合う中でイメージが明確になると、遊びの見通しがもてるようになり、役割分担や品物の配置にも気付くようになった。（協同性）
- 学級全体で一つの活動をやり遂げたという満足感と達成感を味わった。（協同性）
- 自分の思いを相手に分かるように話そうとした。（言葉による伝え合い）
- 友達の意見を最後まで聞き、自分の意見と違って受け入れられるようになった。（言葉による伝え合い）
- 必要に応じて文字や数字を使って表現する。それを見るのが興味・関心につながった。（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）
- 遊びの中の約束ごとやルールが分かり、守ろうとした。（道徳性・規範意識の芽生え）
- 3歳児や4歳児のことを思って、活動内容を考えることができた。（思考力の芽生え）
- 品物作りや迷路の遊び方などでは、繰り返し試したり、考えたりして進めていった。（思考力の芽生え）



## 小学校教育とのつながり

- お店やさん作りのために、みんなで協同して取り組むことは、特別活動の「学級全体の活動に喜んで参加し、友達と協力しながら自分の力を発揮する。」ことにつながります。
- お店やさんごっこのルールや流れが分かり、守ろうとすることや、3、4歳児の子供に温かい心で接し、親切にすることは、特別の教科 道徳の「規則の尊重」「親切、思いやり」につながります。
- お店やさん作りの過程での言葉による伝え合いは、国語の「相手に伝わるように考えたことを伝えたり、相手の話を聞いたりする。」ことにつながります。
- 必要な品物の数に気付き、数えたり、数で表したりすることは、算数への関心につながります。
- 身近な材料を使って、考えたり工夫したりしながら品物作りをすることは、図画工作の表現につながります。



## 主に「協同性」が育った実践

### 活動名 ドッジボール大会に向けて (2月)

#### 保育者の願い (ねらい)

- ・「勝ちたい。」という気持ちを強くもち、勝つためには一人ではなくクラス全員で協力しなくてはいけないことを共有しようとする。
- ・一つの目標に向けて子供たち同士で相談し実践をしていく中で、自分の意思だけでなく友達の意味にも気付きながら協力しようとする。
- ・友達を励ましたり、声をかけ合ったりしながら取り組むことで、自分自身も勇気付けられ、友達との絆ができ、目標達成に近づこうとする。

#### 援助のポイント

- ・実践や話し合いを通して、全員の心や力をあわせる大切さに気付くように進め、一つの目標に向かって良い作戦を見付け出せるよう一緒に考えていく。
- ・思いを上手く伝えられず葛藤を体験することもあるが、うれしい気持ちや悔しい気持ちを感じ合い、一人一人が表現できるようにし、勝敗の気持ちや応援する楽しさを一緒に共有する。
- ・積極的に遊びに参加できていない子がいないか全体をよく見て、時には一緒に参加したり、投げっこなどに誘ったりする。

#### 環境構成の工夫

- ・いつでも子供たちが主体的にドッジボールを行えるようボールは決められた場所に置き、またコートと一緒に描いたりしながら、子供たち自身が準備し、活動できる環境を作る。
- ・協力して勝つための作戦を話し合う際、黒板に図を提示し、皆が理解できるように工夫する。
- ・園庭でドッジボールのできる場所が確保できる時間を戸外遊びにする。難しい場合、遊びを中止するのではなく、別の形で取り組むことができないかを子供たちに投げかける。

#### これまでの経緯

- ・4歳児の時に遊んだ爆弾ゲームを思い出し、外から中へボールを投げて当てる等のルールで遊ぶ。
- ・顔の横から投げると強いボールが投げられることに気付き、また「高く、低く」など、投げる方法を各自で試しながら見付け、効果的な方法を友達にアドバイスする。
- ・ボールを投げたい友達が増え、取り合いが始まり、自分の思い通りにならず葛藤を経験する。
- ・クラスが勝つために意見を出し合い、作戦会議を重ね、またゲーム中でも作戦タイムを設け、それぞれの考えを話し合い、イメージや意見を確認し共有する。
- ・ドッジボールが苦手な友達を助けてあげたり、ルールを理解していない子にルールを教えてあげたりする。
- ・勝って嬉しい、負けて悔しいという気持ちを友達と分かち合い、また、友達に応援してもらうことや応援することの楽しさや嬉しさを味わう。
- ・遊びの中で、自分たちでゲームを進めながら遊びを充実させていく。

### 当日の活動内容

- サッカーゴールに取り付けたフープに向かってボールを投げて当てる。
- 教師が投げたボールを両手で捕り、捕ったら教師に投げ返す。
- 話し合ったドッジボールのルールを確認し、勝敗についても話し合う。

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

- ゲーム中には、ドッジボールのルールやクラスで決めた作戦を理解して行っていた。ボールを取ることに積極的な子供、ボールが来る方向を考えて逃げる子供、友達に当たったボールを取りに行き、すぐに投げる子供など、自分で考えて楽しんでいる。中にはボールを取り合う子供、まだボールの位置が分からない子供もいた。また、友達同士で自分のチームが勝てるように言葉のかけ合いを行っていた。 (協同性)
- グループごとの会議では、どのように頑張れば勝てるのか、自分の思いを話していた。 (協同性)
- グループで、ポイントにボールを投げて落とすゲームをすると、ポイントに落とせる投げ方を友達同士で話したり、他のグループと自分のグループの落とせた数を比較したりした。勝った時には喜び、負けた時には勝ったグループに拍手を送っていた。 (思考力の芽生え)
- 同じ人数になるように教師より声をかけられると、子供たち自身で並んでいる人数を数えて調整を行っていた。 (道徳性・規範意識の芽生え)
- ゲーム終了後には、残った人数によって勝ち負けが分かり、喜んだり、悔しがったりしていた。 (豊かな感性と表現)
- ラインの近くまで走って行って投げれば当てやすいなど、どうすれば相手に当てやすいかを考えて、ボールを投げていた。 (思考力の芽生え)
- 作戦盤を使用して作戦会議を行うことにより、具体的に考えていることを視覚的に捉え、理解が深まるとともに、一人一人が自分の考えをもてるようになった。 (思考力の芽生え)



### 小学校教育とのつながり

- 作戦会議は、国語の「互いの話に関心をもって聞き、相手の発言を受けて質問したり共感したりしながら話をする事」につながります。
- この活動は、体育のボールゲームにつながります。友達と協力しながら、簡単な規則（ルール）を工夫したり攻め方を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えることで、思考力、判断力、表現力等が育成されます。



## 主に「社会生活との関わり」が育った実践

### 活動名 乗り物体験ツアー (2月)

#### 保育者の願い (ねらい)

- 公共交通機関を利用することで、そこで働く人たちの仕事を身近に感じ、自分たちの生活を支えてもらっていることに感謝しようとする。
- 異年齢児や地域の人々との関わりを通して、相手の気持ちを考え大切にしようとする。

#### 援助のポイント

- 乗り物のカッコよさ、自然事象の不思議さや美しさに感動したり、疑問に思ったことを取り上げて紹介したりしながら、一人一人の興味・関心が深まるようにする。
- 子供たちを思う地域の人たちのもてなしや関わりに対して、保育者と一緒に「ありがとう。」と感謝の気持ちを伝えながら、人の温かさを実感できるようにしていく。
- 小さい子の世話や気配りする姿を見逃さず、みんなの前で取り上げて褒め、5歳児としての自己肯定感が高まる配慮をしていく。

#### 環境構成の工夫

- 事前に乗り物体験ツアーで通る道の下見に行き、危険箇所のチェックやトイレを借りられる場所等の確認をしておく。
- 水分補給ができるように水筒を持参し、動きやすい服装やはきなれた靴で参加できるよう、保護者に事前に連絡をしておく。
- 道中、危険や怪我がないように見守りながら、要所で、子供自身が安全に配慮していく方法も伝えていき、集団での体験が達成できるようにする。
- 「あと10分で電車が来るね。」など、事前に声かけすることで、見通しをもった主体的な行動ができるようにしていく。
- 地域の人に優しくしてもらったときには、「うれしい。」「すてき。」など、まずは保育者の気持ちを子供たちに伝えることで、子供たちが自分の内面に気付きやすくし、気持ちを伸び伸びと表現できるようにする。

#### これまでの経緯

- 駅まで散歩に出かけ、電車やバスを見ることで、「乗ってみたい。」という気持ちを高めていく。
- 絵本や図鑑を見て、乗り物の特徴などを知ることで、興味・関心を深めていく。
- 子供の計画を知った保護者や地域の人たちが連携して、子供たちを喜ばせるための準備を考える。(ロープウェイで働くお父さんが機械室を見せてくれる、バウムクーヘン店で働くお母さんがバウムクーヘンをご馳走してくれる、等)

当日の活動内容

- バスや電車の乗り心地を感じたり、小さい子に席を譲ったり、公共の乗り物内でのマナーを守りながら乗り物に乗れたことを喜ぶ。
- 地域の人の見送りや働く人たちが優しく接して下さることを喜び、感謝の気持ちをもつ。
- 移動の道中、危険な場所はないかなど、約束を守り安全に気を付けて行動する。
- ロープウェイに乗り、怖さやワクワク感を感じながら、景色の変化に気付く。
- ロープウェイで働く人の姿や機械室の様子を見学しながら、説明を聞き、仕組みを知る。
- 駅の様子や駅員さんの仕事を見ながら切符を買い、車掌さんに感謝の挨拶をする。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の表れ

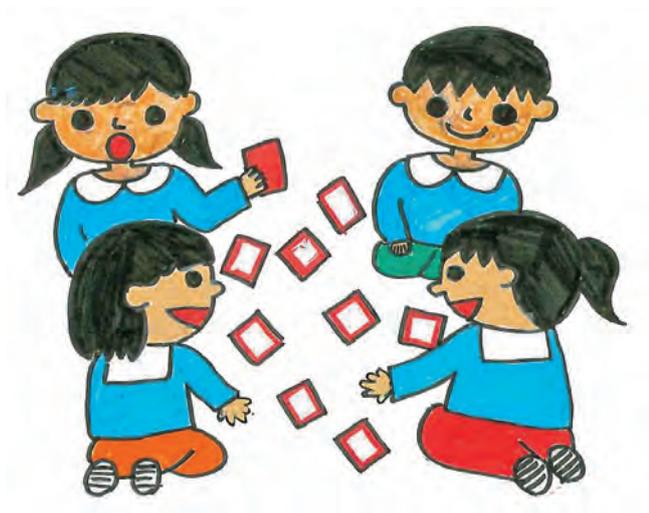
- 地域の人との触れ合いの中で、自分たちが大切にされていることを感じ、自分たちも感謝を伝えることで、様々な人たちとのつながりを意識した。(社会生活との関わり)
- 公共の施設や乗り物を使いながら、「みんなで使うところだからマナーを守ろう。」と社会生活の仕組みを感じ取った。(社会生活との関わり)
- 働く人の役割を感じながら、話を静かに聞いた。(言葉による伝え合い)
- みんなで一緒に乗り物に乗ることで、色や形、スピード感、乗り心地、流れる景色の面白さなどを共有し「すごいね。」「かっこいいね。」と声に出して、喜びを仲間と身体いっぱい表現した。(豊かな感性と表現)
- 共通の目的に向かって協力して、友達と一緒に活動する楽しさを分かち合った。(協同性)
- 冬の寒さを感じながら、海や山の景色の美しさに感動した。(自然との関わり・生命尊重)
- 「もう電車が来るから、切符を買おう。」など、活動の見通しをもち、行動しようとした。(自立心)
- 交通ルールを守って、危険を回避しながら歩く方法を知った。(道徳性・規範意識の芽生え)
- 乗り物に乗る時など、自分たちで順番などのルールを考えて実践することができた。(道徳性・規範意識の芽生え)
- 小さい子の面倒をみたり、活動をリードしたりする体験を通して、一人一人が大きくなった喜びを感じながら自尊心を高め、就学への期待を膨らませた。(健康な心と体)
- 乗り物に乗り遅れないようにするなど、活動を上手に進めていくために時間を意識することが大切であると気付いた。(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)(思考力の芽生え)



小学校教育とのつながり

- 公共施設を利用する体験を通して、そこで働く人々がいることが分かり、みんなで使うものを大切にし、感謝の気持ちをもって利用できるようになります。これは生活や特別の教科 道徳の「規則の尊重」につながります。
- この活動は、生活や特別の教科 道徳の「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」で地域の人々や場所に親しみや愛着をもつことにつながります。





# Ⅳ スタートカリキュラム

## 【小学校教育】





1 「スタートカリキュラム」とは

「スタートカリキュラム」とは、資質・能力の育成を基本とし、小学校に入学した児童が、幼児教育施設等において経験した遊び、生活を通じた学びや育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。幼児期に経験してきたことや学び等を踏まえて、教科カリキュラムを再構成します。本モデルプランでは、小学校1年生の4月から7月までの期間に焦点化しました。

「スタートカリキュラム」では、生活科を中心とした合科的・関連的な指導も含め、子供の生活の流れの中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（P6参照）を踏まえた指導を工夫することにより児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期の教育を通して育まれた資質・能力をさらに伸ばしていくことが重要です。短時間学習等の工夫を取り入れることにより、幼児期に総合的に育まれた資質・能力を徐々に各教科の特質に応じた学びにつなげていくように学校全体で共通理解を図った上でデザインをしています（図1）。

「スタートカリキュラム」の実施により、幼児期の学びを土台とした円滑な接続を図り、児童が安心して小学校生活をスタートすることを目指します。幼児期からの学びを生かした指導が可能となり、児童が自信や意欲をもって活動し、よりよく成長していくことが期待されます。

- 育成を目指す資質・能力の三つの柱
- 1 「知識及び技能」～何を理解しているか、何ができるか
  - 2 「思考力、判断力、表現力等」～理解していること、できることをどう使うか
  - 3 「学びに向かう力、人間性等」～どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか

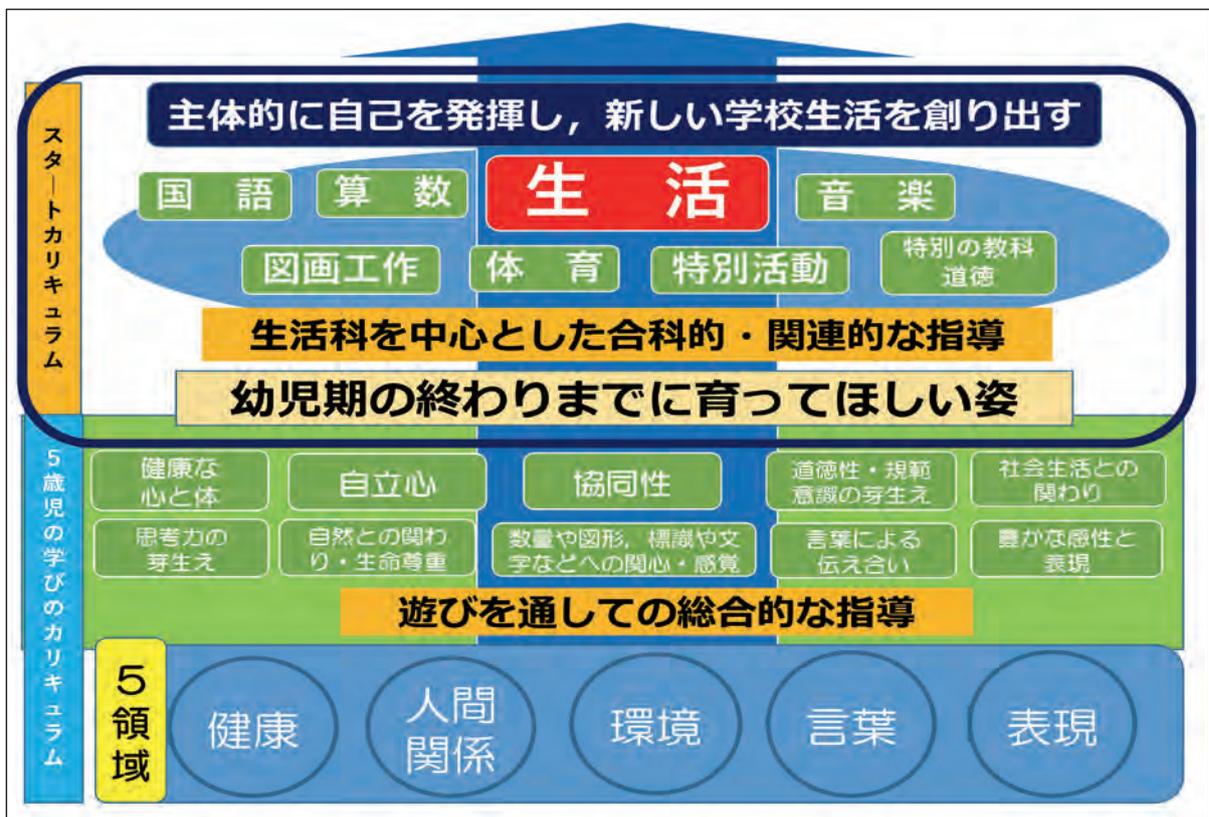


図1 接続期のカリキュラムの概念図

## 2 「スタートカリキュラム」作成について

### (1) 「スタートカリキュラム」作成における4つのポイント（表1）

小学校に入学した児童が、幼児教育施設の遊びや生活を通じた経験と学びを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくための1年生入学当初（4月～7月）のカリキュラムです。

表1 「スタートカリキュラム」作成における4つのポイント

1	<p>幼児教育施設等の学びを生かすには、その実際の姿をよく見ることです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に児童の育ちを確認しましょう。</li> </ul>
2	<p>体験（調べる・作る・実験する）といった具体的活動を大切にしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動きのある活動を多く取り入れ、時間配分を工夫しましょう。</li> </ul>
3	<p>人間関係作りに役立つゲームや幼児教育施設等での遊びを取り入れましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな集団を形成できるように工夫しましょう。</li> <li>・子供の発達段階を踏まえて、一人一人の子供の理解を基に学習を進めましょう。</li> </ul>
4	<p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮し、個々の児童の活動の中で表れるような環境構成や支援の工夫をして、「スタートカリキュラム」を作成しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームを作り、計画を立て、学校全体で取り組みましょう。</li> <li>・学校行事や学年行事などを活用しましょう。</li> <li>・生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫を取り入れた計画を作成しましょう。</li> </ul>



### (2) 「スタートカリキュラム」と工夫と配慮（表2）

表1の4つの作成のポイントに基づき、小学校1年生の4月～7月において、以下の6つの工夫や配慮をして、児童の実態等に合わせて具体的に実践をしていきます。

表2 「スタートカリキュラム」の工夫と配慮

工夫と配慮	小学校1年生 4月～7月
時間割の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10～15分程度の短時間で時間割を設定し、学習内容や単元の特性に合わせた弾力的な時間配分を行う。児童の実態、行事等に応じた学習時間を設定する。</li> <li>・子供たちの体験してきた遊び的要素と小学校生活の中心となる教科学習の要素の両方を組み合わせた生活科を中心とした合科的・関連的な指導を行う。</li> </ul>
体験や活動を取り入れた授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちの経験を生かした体験的な活動を取り入れたり、生活の中から生まれる興味・関心、願いや思いを基にしたりすることで、学習意欲を高める。</li> <li>・児童のできることを認め励ましながらか満足感や充実感、達成感をもたせる。</li> <li>・発達の特性を考慮し、午後は具体的な活動の伴う学習活動を位置づける。</li> </ul>
人間関係作りへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親しい友達との人間関係を軸に、小グループから学級へ、学級から学年全体へと人間関係を広げる。</li> <li>・担任と良好で円滑な人間関係を作り、安心できる環境を作る。</li> </ul>
家庭や幼児教育施設等との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入学式や懇談会、連絡帳や便りなどで家庭との連携を図る。</li> <li>・幼児教育施設のカリキュラムや生活の流れ等について事前に理解する。</li> <li>・幼児教育施設の教職員に授業を参観してもらい、「スタートカリキュラム」の成果と課題を明らかにし改善を図る。</li> </ul>
きまりへの適応と安全への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい集団生活を送るために、きまりやルールの必要性や大切さを感じ、身に付ける。</li> <li>・安全面に関するものを優先的に指導する。特に、登下校については、安全な行動を具体的に教える。</li> </ul>
幼児期の経験や学びを生かす配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が経験していることやできることを生かし、生活上で必要な習慣や技能を身に付ける。</li> <li>・目で見て分かる、視覚に訴える掲示物を作成するなど、児童が自分の力で取り組めるように学習環境を工夫する。</li> </ul>

## 3 実践例

## 「スタートカリキュラム」活動実践の見方

ここで、単元でなく活動としたのは、幼児期の教育にあわせて、子供の興味・関心を基に、教科等を越えて横断的な指導により活動が展開されるからです。

## 主に〇〇を発揮した実践

- 「〇〇」には、本時で主に発揮した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が表示されています。活動を通して複数の姿が個々の児童に表れるため、「主に」としています。また、同じ内容の活動でも、環境構成や支援の違いで発揮した姿が異なるため、掲載をしています。

## 活動名

( 月)

- 本活動全体を象徴する一般的な名称で記載しています。

## 活動のねらい

- 本活動全体のねらいです。  
ねらいは、「幼児期に経験してきたことや学び」を基に、児童の実態や発達の特徴、学習指導要領等の目指す姿、学校の教育目標、保護者や地域の願い等を考慮して設定します。

## 教師の支援のポイント

- 本時において「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮するための教師の支援のポイントを具体的に記載しています。

## 環境構成の工夫

- 本活動全体において、ねらいにせまるための時間、空間、人間関係等についての環境構成の工夫を記載しています。

## 活動計画

- 時間の経過に従って、上から順に記載しています。  
「\*該当教科等」には、合科的・関連的な指導で該当する教科等を記載しています。

## 本時の活動内容

- 子供たちがどのような活動をするか、活動計画を明示しています。活動内容は、時間の経過に従って、順に記載しています。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 本時において子供の行動や言動等、時間の経過に従って具体的に記載しています。記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、本時の活動を記録したものです。

## 幼児期に経験してきたことや学び

- 本時において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が発揮された背景には、幼児期にどのような経験や学びをしてきていたかを記載しています。接続期では、幼児期の経験や学びを生かすことが大切です。

## 主に「言葉による伝え合い」「社会生活との関わり」を発揮した実践

### 活動名 みんな なかよし ーともだち つくろうー (4月)

#### 活動のねらい

- ・クラスの友達、学校で働く人たちと遊んだり、関わったりして親しみをもとうとする。
- ・ルールを守って遊んだり、相手にあわせて挨拶したりしようとする。

#### 教師の支援のポイント

- ・始めの遊びは児童が知っていそうなものを教師から設定し、次からの遊びは幼児期の経験を生かして子供に考えさせるなどして、友達と遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
- ・クラスにいる友達に関心が向くよう、働きかける。
- ・字を書くことはまだ困難なので、サインは絵でもよいことを伝える。

#### 環境構成の工夫

- ・入学当初の環境変化に不安にならないよう、装飾で明るく優しい雰囲気の教室作りをする。
- ・自分や友達の名前の平仮名が分かるように、机に拡大文字の名札を貼っておく。
- ・クラスの友達の氏名と顔写真、教職員の氏名と顔写真を掲示しておくことで顔と名前が一致するようにしておく。
- ・本活動への理解を求めするため、事前に他の教職員に協力を要請しておく。

#### 活動計画

- ・友達作りゲームをする。  
「じゃんけん電車」「猛獣狩りに行こう」などのゲームをして、友達と関わって楽しく遊ぶ。
- ・クラスの友達全員と、サイン集めをする。  
挨拶の仕方を練習する。自分のプリントに全員分の友達のサイン（絵）を集める。
- ・学校の先生、働く人に挨拶をし、サイン集めをする。  
挨拶の仕方、自己紹介の仕方を練習する。学校の中での移動の約束を知る。  
実際に先生や働く人に会いに行き、挨拶をしてサインを集める。

#### \*該当教科等

- ・生活「みんななかよし」
- ・国語「あかるいあいさつ」  
「みんなのなまえ」
- ・学級活動「がっこうのきまり」
- ・特別の教科 道徳「みんなとあいさつ」



### 本時の活動内容

- 友達作りゲームをして遊ぶ。  
「猛獣狩りに行こう」「じゃんけん電車」など。
- クラスの友達全員と、サイン集め「ともだち なかよし だいさくせん」をする。  
サイン集め用の座席プリントに、友達のサイン（絵）を集める。  
（隣同士で、前後の友達と、自由に歩いて）

### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 児童からは、「名前を言う。」「握手をする。」「『友達になろう。よろしくね。』という言葉を大切に。」などの反応が見られた。その後はこれを基本として、友達との触れ合いが促進された。  
（言葉による伝え合い）
- 掲示物の顔写真を見て、友達の名前をチェックしていた。「これで後は、〇〇さんと〇〇さんだけだ。」と確認することができた。  
（社会生活との関わり）
- 友達作りゲームで折り合いをつけるために「じゃんけん」をしたり、先生の見本をまねたりしてスムーズに活動が進んでいた。  
（道徳性・規範意識の芽生え）
- ゲームの中で友達と共感し「やったね。」という喜びが児童の中から出始めていた。  
（豊かな感性と表現）
- 終わりの音楽が鳴ると、自分のすることを自覚していて、すぐに集合場所に帰ることができた。  
（自立心）
- 終わった児童は、手を膝に置き、静かに待っていた。また教師ができるだけ姿勢が整うのを待つことで、だんだんと静かに待つことができた。  
（道徳性・規範意識の芽生え）



### 幼児期に経験してきたことや学び

- 幼児教育施設では、言葉や人数を意識させるようなゲームを多く経験しています。ゲームの内容によって人数が多い、足りない等の時は、「何人足りない。」「どうする?」「こっちに来てくれる?」と声を掛けたり、困った時は相談したりする様子が見られます。
- 日常的に歌を歌ったり、手遊びをしたりして、簡単なリズム遊びや楽器遊びはたくさん経験しています。また、曲に合わせて体を動かしたり、自分で考えた表現をみんなの前で見せたりします。



## 主に「言葉による伝え合い」を発揮した実践

活動名 すきなもの なあに —すきなものをつたえよう— (4月)

### 活動のねらい

- 新しく出会った友達や先生に、自分のことを伝えることで仲を深め、支え合って生活するための基盤となる人間関係を作ろうとする。

### 教師の支援のポイント

- 新しい友達や先生との出会いから、互いを知るためにどんなことをしたらよいかを考えさせる。
- 計画を立てることで見通しをもたせ、意欲的に取り組めるようにする。
- 関わりをもたせることで、仲が深まることを実感させる。

### 環境構成の工夫

- 話し方、聞き方のモデルや約束を提示する。
- 参考作品を提示する。
- 友達の作品が自然と目に入るように机の配置を工夫する。

### 活動計画

- 自分のことを友達に知らせる名刺カードを作る時に、どんなことを知らせたいかを考え、大まかな計画を立てる。  
誰に～先生、友達  
何を～名前 すきなもの、好きなこと  
どのように～言葉と絵で、カードを書く、渡す・見せて話す
- 名前と好きな物を書き、自己紹介のための名刺カードを作る。
- じゃんけんゲームをしながら、自己紹介を行い、カードを交換する。その際に、約束や話し方、聞き方を確認する。
- 集めたカードを数えたり、仲間分けしたりする。
- 楽しかったことやできたことなどを中心に活動を振り返り、共有する。

\*該当教科等

- 生活「ともだち たくさんつくろう」
- 国語「みんなの なまえ」
- 図画工作「すきなもの いっぱい」
- 学級活動「ともだちと なかよくなるよう」
- 算数「なかまづくりとかず」



## 本時の活動内容

- 自分の名前や好きなものを書いた名刺カードを使って、じゃんけんゲームをしながら自己紹介をする。
- 友達とのやりとりを通して、仲を深める。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 自分の作った名刺に満足感をもった状態で名刺交換を行った。「早く友達にあげたいな。」「みんなのカードを集めたいな。」など、活動に対し主体的に関わることができた。（自立心）
- 約束を考えながら、名刺交換ゲームの方法を決めた。（言葉による伝え合い）  
（道徳性・規範意識の芽生え）（協同性）
- 出会った友達に「ねえ、いっしょにやろう。」「いいよ。」などの声をかけ、一緒にゲームを楽しもうとする姿が見られた。（言葉による伝え合い）（協同性）
- 自分の名前や好きなもの、好きなことを友達に伝え名刺を交換することで、伝えられた喜びや友達と関わった喜びを感じていた。  
「僕の名前は、〇〇です。」  
「ぶどうが好きだよ。」「私も、ぶどうが好き。」「一緒だね。」  
「はい、どうぞ。」～名刺交換をする～「ありがとう。」  
（言葉による伝え合い）（豊かな感性と表現）
- 集めたカードを数えたり、友達と比べたりしていた。（数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚）
- 活動を振り返り、「よかったこと」を共有した。  
「名刺がもらえてうれしかった。」  
「〇まいもらえたよ。」  
「ちゃんと言えたよ。」（言葉による伝え合い）（協同性）



## 幼児期に経験してきたことや学び

- 友達関係が深まってくると、仲のよい友達に手紙を書いたり、折り紙などで作ったものにメッセージを書いてプレゼントをしたりして遊ぶようになります。
- じゃんけんゲームは、偶然性を取り入れた集団遊びとして、幼児教育施設でも取り入れることが多い遊びです。じゃんけんができれば、どの子供も勝つことができ、勝ったことで自信や満足感を味わうことができます。
- 当番活動では、4歳児からその役割を自覚して取り組みます。その中で自分の気持ちや思いを言葉で伝えたり、相手の言葉を理解できるようになったりすることを通して、少しずつ言葉による伝え合いができるようになります。



## 主に「社会生活との関わり」「協同性」を發揮した実践

活動名                      がっこうたんけん いこう                      (4月)

### 活動のねらい

- 学校の施設に興味・関心を持ち、意欲をもって計画や準備をしようとする。
- 探検活動を通して、学校内施設の特徴やそこで働く人に気づき、絵や文字でかいたり、身近な人に話しかけたりする。

### 教師の支援のポイント

- 日常生活の中から行ったことのある場所を発表する場を作り、探検への意欲を高める。
- 上学年担任に連絡しておき、一緒に活動できるよう調整しておく。
- 児童の思いが実現しやすくなるよう、できる限り少ない人数でグループを構成する。
- 探検後は絵や簡単な文や言葉など表現しやすい方法で、発見したことを伝える場面を作る。

### 環境構成の工夫

- 校舎配置図や各場所の写真、教師や働く職員の写真などを掲示しておき、興味をもてるようにする。
- 他の職員に学習の趣旨を伝え、協力を要請しておく。特に興味をもちそうな特別教室に入れるようにしておき、体験もできるよう配慮しておく。(理科室、音楽室、体育館など)

### 活動計画

- 学校の中で知っている教室について尋ね、どこに行きたいかを考える。
- 2年生の案内で学校内の探検を行う。異学年グループを作り探検の約束(挨拶、移動中のマナー、集合時刻)を確認する。
- 校舎配置図などのワークシートを持って探検に行き、上級生の学習の様子や働く人の様子、施設の特徴などに気付く。
- 探検後、発見したことをカードに絵や文字で記録し、友達と気付いたことを伝え合う。
- 可能な限り探検は繰り返して行い、新しい場所に行こうとする思いや同じ場所を詳しく訪ねようとする思いを生かす。気付いたことを伝える場をもち、見付けたことを自分なりの方法で表現する。

\*該当教科等

生活「わたしがっこう どんなところ」

国語「あかるいあいさつ」

「ほんをよもう」

算数「なかまづくりとかず」



## 本時の活動内容

- 2年生の案内で学校探検に行く。  
異学年グループを作り、探検の約束（挨拶、移動中のマナー、集合時刻）を確認する。
- 校舎配置図などワークシートを持って探検に行き、他学年の学習の様子や、働く人の様子、施設の特徴などに気付く。プリントの教室にシールを貼るなどチェックを入れる。
- 探検後、発見したことをカードに絵や文字で記録し、友達と伝え合う。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 2年生と話したり、学校職員と出会う話したりするなど、進んで人に関わる様子が見られ、学校の中にはたくさんの方がいることに気付くことができた。（社会生活との関わり）
- 教師や他の児童の話をよく聞き、移動中は2年生と手をつないで、一緒に学校探検をすることができた。（協同性）
- 2年生が校舎配置図を指さしながら「家庭科室はどこ？」と質問すると、1年生は自分でその場所を探してシールを貼ることができた。（協同性）（自立心）
- 始めの集会で話を聞く時、姿勢について教師が「どうすればいいですか？」と問いかけると、進んでよい姿勢で座ることができた。（道徳性・規範意識の芽生え）
- 自分でシールを貼るときに、今いる場所がプリントの配置図のどこに位置するのかを周りを見て確かめる児童もいた。（思考力の芽生え）（数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚）
- パソコン室で、1年生が「パソコンの勉強はあるの？」と聞くと、2年生が「うん。まだやっていないけどね。」と答える、生き生きとした会話があった。（言葉による伝え合い）
- 校歌を2年生と一緒に元気に歌い、学校の一員としての意識が芽生えてきている。（豊かな感性と表現）
- 探検中、相手の指示の音が大きい時に、聞き手が「シー。」と注意をすることができた。（道徳性・規範意識の芽生え）
- 探検後、「見つけたよ！カード」には、自分が発見したものを絵や言葉で表すことができた。（思考力の芽生え）
- 理科室を人体模型で、体育館を跳び箱の絵で表現する児童がいた。（豊かな感性と表現）



## 幼児期に経験してきたことや学び

- 園外保育などで室内から出る時には、ルールを守って行動したり、人と会うと挨拶をしたりしています。また目印となる場所を把握し、活動後にそこに集合することなどもしています。
- 異年齢グループを作って活動する時には、年上の子が年下の子に優しく接することができます。また年下の子は、年上の子の活動の様子を見て憧れをもち、それが自分の活動への意欲につながっています。
- 幼児教育施設では、興味のある文字や標識に出会える体験を意識的に取り入れています。5歳児になると、友達との遊びの中で文字や数量を用いて活動することがあります。
- 好奇心をもつと知りたいという意欲がわきます。遊びや生活に必要な情報を取り入れたり、伝え合ったり、活用したりしながら活動するようになります。



## 主に「社会生活との関わり」を発揮した実践

### 活動名 がっこう だいすき -がっこうを たんけんしょう- (4月)

#### 活動のねらい

- ・学校探検を通して、学校の施設の様子及び学校生活を支える人のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活などをしようとする。

#### 教師の支援のポイント

- ・どこに探検に行きたいのか、児童の思いや願いを大切にして、グループで決めることができるようにする。
- ・分かったことを伝える表現方法として、絵や言葉、数などがあることを示す。
- ・児童が見付けてきたものから、関連的に教科学習に展開していく。

#### 環境構成の工夫

- ・各場所に、関係のある人物を配置し、質問を受けることができるようにする。  
(校長室に校長先生、花壇に用務員さんなど)
- ・入ってもよいところ、いけないところが表示をする。(○・×など)
- ・階段や特別教室周辺など、危険な場所や配慮が必要な場所には、教員を配置する。

#### 活動十画

- ・2年生と一緒に校内を見て回り、どんなものやどんな施設があったかについて話し合う。
- ・自分達で行ってみたい場所について、グループで出し合い計画を立てる。(場所や行き方)
- ・探検する際の注意点を考え、きまりを理解し、約束を決める。教室に入る際の挨拶や質問の仕方なども、この時に確認する。
- ・計画を基に探検し、見つけたものや出会った人物などを絵や数字で表す。
- ・校舎案内図を拡大した物を利用し、学校の地図を完成させていく。
- ・見つけたものの中で知らせたいことを選び、絵を使って友達に分かりやすく話す。

#### \*該当教科等

- ・生活「わたしのがっこうどんなところ」
- ・国語「知らせたいな じぶんのなまえ  
しりたいな みんなのなまえ」  
「わかったことを 知らせよう」
- ・学級活動「がっこうの きまり」
- ・算数「かずと すうじ」
- ・体育「ゆうぐを つかって」
- ・図画工作「こんなもの みつけたよ こんなひと であつたよ」



## 本時の活動内容

- 前時までの計画を基に、「がっこう たんけん」の流れを確認し、めあてを設定する。
- 約束を確認する。
- グループごとに、計画を基に学校内の施設を回る。学校を支える人に出会う。
- 「しりたいこと」を質問しながら、校内を見て回る。
- 教室に戻り、発見したものを報告し合ったり、感想を伝え合ったりする。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- これまでの計画を思い出し、探検当日を楽しみにしていた。意欲をもって活動を始めた。  
(豊かな感性と表現)
- 計画を基に、グループごとに校内を探検した。  
「次に行くのは、理科室だよ。」「ここ、来てみたかったんだ。」  
「あった、あった。あそこだよ。」  
「わからないから、あの先生に聞いてみよう。」  
(社会生活との関わり)
- 見たものなどで聞いてみたいことを質問した。  
「これは何ですか?」「どんな時に使うのですか?」  
(言葉による伝え合い)
- 学校の施設の様子や学校を支える人々のことを知った。  
(社会生活との関わり)
- 事前に決めた約束が守れたかどうか確認し、きまりを守ることの大切さに気付いた。  
「約束守れたよ。」  
「あいさつしたら ほめられたよ。」  
(道徳性・規範意識の芽生え)
- 見てきたものや感想を言葉で表現した。  
「音楽室にたくさん楽器がありました。」  
(言葉による伝え合い)



## 幼児期に経験してきたことや学び

- 安心した環境の中で生活できるように、園舎内を探検することがあります。5歳児になれば、3歳児・4歳児と一緒に探検する時の案内役を務める場合があります。身近な人々と触れ合う中で人との関わり方に気付き、自分が役立つ喜びを感じることがあります。
- 共通の目的に向けた活動を行う時には、少人数のグループで活動を行います。その中で、自分の思いを言葉で伝えたり、相手の思いを受け入れたりする機会をもっています。
- 遊びや生活の中で、絵で表現することや数に関心がもてるような活動を意図的に取り入れるようにしています。遊びや生活が楽しくなったり、グループで自主的に遊べるようになっていきます。



## 主に「思考力の芽生え」「自立心」を発揮した実践

活動名 わたしのがっこうどんなところ － がっこうたんけんにしゅっぱつ － （4月）

### 活動のねらい

- 学校の施設に関心を持ち、施設の特徴やそこで働く人の様子に気付こうとする。
- 2年生と一緒に仲良く活動することを通して、交流を深めようとする。

### 教師の支援のポイント

- 2年生にもらった探検マップを見ながら、一緒に探検することで、学校生活のルールを学ばせるとともに、学校探検への関心を高める。
- 行った場所や出会った人にシールを貼れるようにするなどの探検シートの工夫をすることで、意図的にたくさんの場所や人と関わりをもたせる。
- 探検で発見したことを交流させることで、2回目以降の探検の意欲を高める。

### 環境構成の工夫

- 児童が、主体的に学校探検ができるように、2年生が作った探検マップを拡大し掲示する。
- 探検ミッションを2年生が考案し、意図的に人や物に視点がいくように工夫する。
- 探検で気を付けることを掲示していつでも意識させることで、学校生活に生かせるようにする。
- 学校探検で発見したことを共有できるコーナーを教室内に作り、お互いに交流することで、学校への愛着を深める。

### 活動計画

- 2年生と一緒に学校探検をすることで、異学年の友達に親しみをもつ。
- 2年生との学校探検を振り返り、見付けたことや気付いたことを伝え合う。
- もう一度行ってみたい場所や、知りたいことについて話し合い、探検の計画を立てる。
- 探検をするときに気を付けることとして、挨拶・廊下の歩き方などについて話し合う。
- 職員室などの入り方、自己紹介の仕方、質問の仕方について知る。
- 学校を探検し、自分のお気に入りの場所や人を見付ける。
- 探検をして見付けたものや分かったこと、出会った人など自分のお気に入りの絵や言葉で表したり、友達に話したりする。
- 探検を振り返り、学校にはいろいろな部屋があることやたくさんの方がいることに気付く。

※該当教科等

- 生活「わたしのがっこうどんなところ」
- 国語「なんて いおうかな」「どうぞ よろしく」
- 学級活動「あいさつじょうずになろう」
- 特別の教科 道徳「はりきり1ねんせい」



## 本時の活動内容

- 学校を探検する時に気を付けることを確認する。
- ペアの2年生と一緒に学校を探検し、異学年の友達に親しみをもつ。
- 挨拶の仕方や教室の入り方、廊下の歩き方など、学校生活のルールを学ぶ。
- 自分の関心の高い教室や場所、人を見付ける。
- 活動の振り返りをする。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 2年生からのミッションに関心を持ち、探しに行く姿が見られた。(思考力の芽生え)(自立心)
- 水槽に付いている専用の掃除用具や、部屋に貼ってあるポスターなど、探検で見つけたものに興味を持ち、実際に触ったり、じっくり観察したりする姿が見られた。(自立心)
- 「4階は立ち入り禁止になっていた。なぜだろう？校長先生に聞いてみよう。」「実験室があった。たぶん薬の実験をするのだと思う。他に何かあるのかな？」など、探検活動の中で見つけた不思議や疑問について「知りたい。」「もっと調べたい。」と思いや願いを持ち、次の活動への意欲を高めることができた。(思考力の芽生え)
- 一斉活動の中では説明を注意深く聞き、ルールを理解して探検活動をすることができた。(道徳性・規範意識の芽生え)
- マップにある部屋を順番に行くのではなく、自分が興味をもっている部屋を2年生に伝え、行く順番を決めていた。(社会生活との関わり)(言葉による伝え合い)
- 年上の友達と信頼関係を築きながら、一緒に活動を楽しむことができた。(協同性)
- 各部屋の前に書いてある文字を自分の持っているマップの中から探し、シールを貼ることができた。(思考力の芽生え)(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)
- 窓から幼稚園が見えることに気付き、幼稚園の先生を見付けると、大きな声で先生の名前を呼んで手を振る姿が見られた。(社会生活との関わり)



## 幼児期に経験してきたことや学び

- 虫や植物、恐竜などについて「名前や育て方を知りたい。」と思った時、図鑑や本などを用いて、自分で調べたり、友達と話し合ったりしています。豊かな感情や好奇心が育まれます。
- 文字や数量などに関心をもった時には、保育者や友達に聞きながら、文字を読んだり、書いたりしています。
- 友達と共に活動する楽しさを少しずつ理解してくるので、グループ活動を楽しむことができるようになります。また、楽しく遊ぶためにはルールを守ることが大切なことも知っています。



## 主に「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を発揮した実践

活動名 わたしのがっこうどんなところ - きいて!おしえて!みつけたこと - (5月)

### 活動のねらい

- 学校の施設に関心を持ち、探検を繰り返すうちに、施設の特徴やそこで働く人の様子に気付く中で、それを絵に描いたり、文字で書いたり、身近な人に話したりしようとする。
- 自分の大好きな場所や人ができ、学校に対する愛着を養う。

### 教師の支援のポイント

- 見付けたこと(青)、分かったこと(黄)、好きになったこと(桃)の3色に色分けしたカードを活用し選択させることで、それぞれの気付きを整理できるようにする。
- イメージマップを活用し、それぞれの気付きを共有したり、広げたりできるようにする。
- 発表の場を段階的に広げていくことで、抵抗なく発表や意見交流ができるようにする。



### 環境構成の工夫

- 学校施設の活用の理解を深めるために、学校探検の際に全校児童や全職員に協力してもらう。
- 発表の仕方を掲示することでいつでも意識させ、学校生活に生かせるようにする。
- 学校探検で見付けたことを共有できるコーナーを教室内に作り、互いに交流することで、学校への愛着を深める。

### 活動計画

- 2年生と一緒に学校探検をすることで、異学年の友達に親しみをもつ。
- 2年生との学校探検を振り返り、見付けたことや気付いたことを伝え合う。
- もう一度行ってみたい場所や知りたいことについて話し合い、探検の計画を立てる。
- 探検をするときに気を付けることとして、挨拶・廊下の歩き方などについて話し合う。
- 職員室などの入り方、自己紹介の仕方、質問の仕方について知る。
- 学校を探検し、自分のお気に入りの場所や、人を見付ける。
- 探検をして見付けたものや分かったこと、出会った人など、自分のお気に入りの絵や言葉で表したり、友達に話したりする。
- 探検を振り返り、学校にはいろいろな部屋があることや、たくさんの人がいることに気付く。

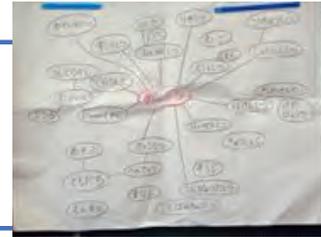
※該当教科等

- 生活「わたしのがっこうどんなところ」
- 国語「なんていおうかな」「どうぞよろしく」
- 学級活動「あいさつしょうずになろう」
- 特別の教科 道徳「はりきり1ねんせい」



## 本時の活動内容

- 学校探検で見つけたものや分かったこと、自分のお気に入りの紹介し合う。(グループ→全体)
- 発表の仕方や話の聞き方を学ぶ。
- イメージマップを用いて活動の振り返りをする。



## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 進んで友達と関わったり、挙手をして発表したりするなど、意欲的に自分の思いや考えを伝える姿が見られた。(言葉による伝え合い)(豊かな感性と表現)
- 探検で知ったことや興味・関心をもったことを、友達の前で自分の言葉で発表することができた。また、友達や教師からの質問に対しても、自分の知っていることや考えを答えることができた。(言葉による伝え合い)(豊かな感性と表現)
- 3種類のカードを活用し、自分の発見や気づきを整理することができた。さらに、友達の発表を聞いて気づきを広げることができた。(豊かな感性と表現)
- 号令や説明を聞き、活動することができた。また、教師の話を中心して聞いたり、友達と共に黒板の文字を読んだりしていた。(自立心)(数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚)
- 紹介の仕方や発表方法など、活動内容を友達に教えることができた。(言葉による伝え合い)(協同性)
- 友達の発表を、興味をもって集中して聞くことができた。(協同性)



## 幼児期に経験してきたことや学び

- 生活や遊びの中で、活動を始める前やその日の振り返り等の集まる場面や、絵本や物語を聞く場面などを通して、次第に話を理解するようになっていき、言葉による伝え合いができるようになってきます。
- 保育者は、文字について直接指導するのではなく、生活や遊びの中で幼児の表現したい、伝え合いたいという気持ちを受けとめ、一人一人の興味や必要感に応じて関わります。5歳児になり、文字などの記号の意味や役割を理解すると、読んだり、書いたりすることが楽しくなり、友達に手紙を書く子供や、絵本を自分で読んだり、友達に聞かせたりするなど、積極的に活動するようになります。



## 主に「言葉による伝え合い」「協同性」を発揮した実践

### 活動名 わたしのつうがくろ (6月)

#### 活動のねらい

- ・通学路の探検を通して、安全な登下校が分かり、他者との関わりに気付こうとする。
- ・自分たちの安全を守ってくれている施設があったり、人がいたりすることに気付こうとする。
- ・通学路の様子に関心をもつとともに、安全に気を付けて歩こうとする。
- ・身近な公園などを利用し、自然に触れながら友達と仲良く遊ぼうとする。

#### 教師の支援のポイント

- ・友達と比べたり、自分なりの思いをもたせたりするために、様々なペアを作り、繰り返し伝え合える場を設定する。
- ・話す、聞く、伝えることの注意点や役割、話型を事前に確認し、安心感をもって取り組めるようにする。

#### 環境構成の工夫

- ・探検の様子を想起しやすくするために、写真で振り返る。
- ・自分たちが見付けたものと他のグループの見付けたものの相違点に注目できるように、班ごとに大きな絵地図を準備する。

#### 活動計画

- ・通学路で見付けたものや人物について伝える。  
見付けたものをカードにかき、絵地図に貼る。
- ・学校の周りを歩いて、通学路の様子をつかむ。  
探検して見付けたものや出会った人を絵で描いたり言葉で書いたりしながら、かいたことをペアで伝え合う。  
かいたカードを絵地図に貼り、発表の準備をする。  
グループごとに発表し、安全な登下校や見守ってくれる人物についてまとめる。
- ・公園までの行き方や交通ルール、公園での約束を確認する。
- ・道具の使い方などを守って楽しく遊ぶ。
- ・学校の周りを探検して分かったことや考えたことを振り返る。

#### \*該当教科等

- ・生活「みんななかよし」
- ・国語「あかるいあいさつ」  
「みんなのなまえ」
- ・学級活動「がっこうのきまり」
- ・特別の教科 道徳「みんなとあいさつ」



## 本時の活動内容

- 探検で見付けたことをグループ内で発表し合う。  
安全に関すること（黄色いカード）、物・自然・人物のこと（水色カード）
- カードを絵地図に貼る。  
グループで、学校の周りの絵地図を仕上げる。
- 絵地図を見ながら、発表の練習をする。  
代表で1つのグループが発表する。
- 自分が見付けたことで一番知らせたいことや、友達の発表を聞いて気付いたことをワークシートに記入する。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 自分で見付けたものをかいた絵カードを一人ずつ発表したり、絵地図に貼ったりすることができた。  
(言葉による伝え合い) (自立心)
- グループ活動において、互いの意見を出し合いながら話し合いを進めることができた。  
(協同性)
- 大きな地図やカードに興味をもち、喜ぶ姿が見られた。  
(数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚)
- 「信号がある所が歩道だよ。」など、事実と事実をつなげながら話し合いを進めていた。  
(思考力の芽生え)
- 先生の話聞いて理解しようとする姿が見られた。  
(言葉による伝え合い) (協同性)  
(道徳性・規範意識の芽生え)
- 順番に発表することや、その際に敬語を使うことができていた。  
(道徳性・規範意識の芽生え)  
(豊かな感性と表現力) (自立心)



## 幼児期に経験してきたことや学び

- 近隣の公園、幼児教育施設、小学校、公共施設等に出かける時には、事前に交通安全標識や利用時の約束事等について話し、約束やきまりを守って行動できるようにしています。
- 友達との遊びの中では、役割や順番を決めます。「順番ね。」「交代して。」「貸して。」「いいよ。」等、子供自身が気付き、お互いに声を掛け合いながら行動するので、戸惑わずに行動できるようになっていきます。



## 主に「豊かな感性と表現」を発揮した実践

### 活動名 まねっこあそび・かけっこあそびをしよう (6月)

#### 活動のねらい

- 身近な題材の特徴を捉え、全身で表現する活動を通して、友達といろいろな動きを見付けて踊ったり、みんなで調子をあわせて踊ったりして楽しもうとする。
- 自分なりの動きを工夫し、考えることができる。友達の動きを見て、よい動きを見付け、真似しようとしている。
- 様々な「走の運動遊び」を通して、自分の走力を自覚し、目標に向けて繰り返し挑戦し、やり遂げる達成感を味わおうとする。また、速く走るための工夫や努力をしようとする。

#### 教師の支援のポイント

- 児童の自主性を大切にするために、身近な題材を取り上げたり、よい行いを称賛したりする。
- 児童に問題解決的な学習を行わせるために、試行錯誤を意図的に計画して取り組ませるようにする。
- 課題をやり遂げたときの達成感や喜び、充実感を味わわせるとともに、頑張ることができた自分に気付けるようにする。
- 仲間との共感的なコミュニケーションを大切にして、意欲的に学べるようにする。

#### 環境構成の工夫

- 「表現・リズム遊び」と「走の運動遊び」を1時間の学習の中に組み合わせる。
- 活動の場と運動量を十分に確保し、児童自身が場の安全に気を付けることができるようにする。
- 教師が児童と一緒に運動を楽しみ、安心感を与え、その後に友達と一緒に運動させる。

#### 活動計画

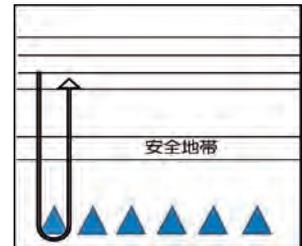
- 「身近な動きや動物の特徴をつかみ楽しく表現する。」「自分の目標をもち、友達とルールを工夫してかけっこあそびする。」という学習のねらいや進め方を知り、見通しをもつ。
  - リズムや音楽に合わせて楽しく踊る。楽しくかけっこあそびをするための約束やマナーを知る。
  - まねっこあそび（鏡ふき、ボールのないドッジボール、冷凍人間ゲーム等）、リズム遊び、表現遊びをする。
  - かけっこあそびをする。
- \*該当教科等
- 体育「リズム遊び」「表現遊び」「走の運動遊び」
  - 音楽「体をうごかして歌おう～ひらいたひらいた・アイアイ・さんぽ・しろくまのジェンカ・ことばでリズム～」



## 本時の活動内容

- まねっこあそび（曲に合わせた動き作り，鏡ふき，ボールのないドッジボール等）  
曲にあわせて動きを作る。→リズムに合わせて，身体全体を使って一人で，ペアで，みんなで。  
課題にあわせて動き作り，動物のまねっこ
- かけっこあそび（ばくだんゲーム）  
自分でスタート地点を決め，走力に合わせて負荷をかけていく。

(ばくだんゲームのコース)



## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 手拍子，両手を動かす，跳ぶ，回るなどの様々な動きを組み合わせ，曲に合わせてリズムカルに踊ることができた。（豊かな感性と表現）
- 投げる時は，耳の脇から片手で投げる，両手で頭の上から投げるなどの動きをすることができた。（豊かな感性と表現）（健康な心と体）
- 平泳ぎでは，すいすい泳いだり，小走りになったりする姿が，クロールでは，両腕を交互に回し前に進んでいく姿が見られた。背泳ぎになると向きを変え，ゆっくりと両腕を後ろ向きに交互に動かす姿が変わった。（豊かな感性と表現）（健康な心と体）
- 小さな魚は腰を曲げてすり足で小刻みに動く。イルカジャンプの時は波に乗っているように体をくねらせて，ゆっくりジャンプしながら泳いでいた。（豊かな感性と表現）（健康な心と体）
- 手を動かすときに「シュッシュュッ。」という音を出しながら，腕を高く伸ばす，小さく屈み腕を動かす，両手を左右に浮かす，上下させるなど，体と手を連動させて友達の動きに合わせて動いた。（協同性）
- 「どうしたら速く走れるの。」という教師の問いに「手と足を振ります。」「まっすぐ走ります。」などと目標達成のための工夫を発表した。（思考力の芽生え）（言葉による伝え合い）
- 何度も走ることで自分の走力を知り，スタート位置を調節したり速く走るために自分なりの工夫をしたりしながら，目標に向かって粘り強く挑戦した。（自立心）



## 幼児期に経験してきたことや学び

- 子供たちは，リズムに乗って体を動かすことを好みます。入園当初より様々なジャンルの曲に親しみ，曲にあわせて踊ったり，手拍子でリズムを取ったり，楽器を使って表現したりするなど楽しい活動を取り入れています。
- 動き作りなどの表現遊びは大好きな活動の一つです。表現遊びで丸める，伸ばす，広げるなど，自分の体を自分の思った通りに動かすことで満足感を味わえます。
- 子供たちは，日常生活の中で体を動かして遊ぶことを楽しみます。特に5歳児は，集団遊びのサッカーやドッジボール，鬼ごっこ等，意欲的に参加しています。興味や関心に応じて全身を使ってのびのびと遊ぶ経験をしています。



## 主に「思考力の芽生え」「言葉による伝え合い」を発揮した実践

### 活動名 おもしろいあそびがいっぱい (7月)

#### 活動のねらい

- 水遊び(しゃぼん玉遊び)を通して、夏が来たことに気付き、友達と仲良く楽しく過ごそうとする。
- 幼児期の学びを生かすことで、児童が安心して自己を発揮し、自分の思いや願いをもって主体的に課題に取り組もうとする。

#### 教師の支援のポイント

- 単元の導入で、児童が幼児期の体験を想起することで、その時の成功体験や充実感を基に、これからの活動に意欲や安心、自信をもって取り組めるようにする。学習をしていく中で、さらによいものを作っていこうとする視点の広がりにより児童が気付き、活動の工夫ができるようにする。

#### 環境構成の工夫

- 児童が、幼児期にどのような経験をしてきたのかを幼児教育施設の指導者から聞いて個々の実態を把握しておく。
- 幼児教育施設で使っていた教具を取り入れ、単元の学びに生かす。
- 活動が十分に行えるよう、教具や場所の確保をする。
- 児童が使うと思われるものをあらかじめ用意し、準備しておく。

#### 活動計画

- しゃぼん玉遊びなど幼児教育施設で体験したことについて話し合った後、しゃぼん玉遊びの活動を行う。
- 季節が夏になり暑くなってきたことから、水遊びなどの遊びの計画を立てる。
- 水に浮かぶおもちゃなど、計画したものを作って遊ぶ。
- 更に改善を加えながら、工夫して水遊びを行う。
- 単元を通して自分が頑張ったことや楽しかったことなどをカードなどで友達に伝える。

\*該当教科等

- 生活「おもしろいあそびがいっぱい」



## 本時の活動内容

- 幼稚園の先生の写真を掲示し、幼児教育施設での楽しかった活動を発表する。夏に体験したり、経験したりした活動を想起させる。
- 幼児教育施設から借りてきた道具などを袋から取り出しながら見せ、本時のしゃぼん玉遊びの活動へ導いていく。
- いろいろな道具を使ってしゃぼん玉遊びをする。
- 活動の途中で、どうしたらしゃぼん玉が上手にできるか、どんな物を使ってしゃぼん玉遊びをしたかななどについて発表し合う。
- 友達のやり方で試してみたい方法を用いて、再び活動する。
- 次は、どんな水遊びをしたいかを話し合い、今後の活動の見通しをもつ。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- 「うちわを縦に動かしてみようかな。」「私は回ってみるよ。」などつぶやきながら、しゃぼん玉が上手にできるか試していた。  
(思考力の芽生え) (言葉による伝え合い)
- 活動は個々で行っているが、友達の様子も見ながらしゃぼん玉遊びを行っていた。(協同性)
- 夢中に取り組む児童が多く、休むことなく活動していた。  
(健康な心と体)
- 「ぼくは、マヨネーズの入れ物でやりました。ここを押すとしゃぼん玉ができました。」「ぼくもやったよ。」など友達の発表をしっかりと聞いて自分と違うものでもできることに感心していた。  
(言葉による伝え合い) (豊かな感性と表現)



## 幼児期に経験してきたことや学び

- 幼児教育施設では、その季節ならではの遊びを体験できるようにしています。しゃぼん玉遊びでは、泡遊び、せんたく遊びなどから、泡の感触を味わったり、いろいろな物を使ってしゃぼん玉を作ったりすることを楽しみにしています。その中で、子供たちの思いや疑問が溢れ出し、繰り返し試す姿が見られます。
- 新しい活動では、これまでの経験を基にしたいろいろな発想が生まれてきます。外遊びも含め、様々な活動を楽しんで取り組むことのできる幼児の育成が大切です。



## 主に「思考力の芽生え」を発揮した実践

### 活動名 いろみずあそびをしよう (7月)

#### 活動のねらい

- 自分たちで育てたり、見付けたりした草花や身の回りの花を使って色水を作り、染め物を行うことを通して、自然の恵みによって、生活を豊かにすることができることに気付こうとする。

#### 教師の支援のポイント

- 手順を分かりやすく説明するために、実物を用意したり、板書したりする。
- 意欲的に活動できるように、アサガオ以外の花も準備しておく。
- 作業が遅れがちな児童に積極的に関わったり、児童同士の関わりが見られた際に認めたりする。

#### 環境構成の工夫

- 色水にできそうな草花を準備しておく。学校花壇も活用する。
- 紙や草花を豊富に用意し、児童が試行錯誤できるようにする。
- 色を付けた紙を乾かす場所を2段クリップなどで用意し、互いの作品が自然に目に入るようにする。
- 何回も試せるようにカップやビニール袋を多めに用意する。

#### 活動計画

- 自分たちの育てたアサガオの色に注目させる。
- 育てたアサガオや身の回りの草花を集め、紹介し合う。
- 色水の作り方を知り、色水作りを行う。
- 紙の折り方や色の付け方を工夫し、紙を染める。
- 紙の折り方や色の濃さや色の違いなどを比べ、試行錯誤しながら作品作りを楽しむ。
- 友達の作品のよいところを伝え合う。

#### \*該当教科等

- 生活「なつとなかよし」
- 図工「チョッキン パッでかざろう」
- 特別の教科 道徳「しぜんのめぐみ」
- 算数「いろいろな かたち」



## 本時の活動内容

- ・家から持ってきた花を紹介する。
- ・染める紙を切る。
- ・自分たちで育てたアサガオの花を摘む。
- ・アサガオや自分達で用意した花で色水を作る。
- ・できた色水をカップに移し、紙を染める。

## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- ・家から持ってきた花を紹介し合い、色に注目したり、色水を上手に作れる花かどうかを考えた。
 

「おばあちゃんの家の庭にあったよ。」「色水を作るのに上手にできる花とそうでない花がある。」  
 （思考力の芽生え）（自然との関わり・生命尊重）（言葉による伝え合い）
- ・染める紙を切る。一人大小2枚の紙を折りたたんで切る。
 

「ハートができた。」「トンボみたいな形になった。」「バラバラになっちゃった。」  
 （数量・図形、標識や文字などへの関心・感覚）
- ・カップに水を入れ、校庭の花を摘んだ。
 

「このくらいでいいのかな。」「これもとっていいかな。」「紫の花だ。」  
 （思考力の芽生え）
- ・部屋に戻り、色水を作った。試行錯誤を繰り返しながら濃い色水を作ろうとした。
 

「こんな色になった。」「薄いかなあ。」「同じ花だけど、これは薄いなあ。」「違う色が欲しい。」  
 （思考力の芽生え）
- ・紙を染める。
 

「お花みたい。」「できたー。」「こんな模様になったよ。」「ちょうだい。」「見せて。」「いいよ。」「これくらいかな?」「いいんじゃない?」「綺麗だね。」  
 （言葉による伝え合い）



## 幼児期に経験してきたことや学び

- ・幼児教育施設等でも色水遊びをします。始めは、興味・関心をもった幼児から取り組み、刺激を受けた幼児が中間に加わり、いろいろな遊びに発展してきています。
- ・「カップにドーナツができるくらい。」と具体的に話したことで、水の量が分かりやすく伝わりました。同様に幼児教育施設でも、量について、分かりやすく伝えていきます。
- ・花の名前は分からなくても、庭に咲いている草花を用いていろいろな色作りを試す姿があります。自分で「この花は赤色になる。」と予測したり、絞った汁を混ぜて偶然できた色を楽しんだりします。
- ・普段は、ビニール袋を使って行っていますが、その場合、水が濁ります。気付いた子供から「きれいな水にしたい。」という要求があり、すりこ木でつぶしたものを茶こしなどでこす場合もあります。ペットボトルなどの透明容器に入れると量やきれいな色が見え、色水ごっこが始まり、遊びが豊かになっています。



## 主に「言葉による伝え合い」「協同性」を発揮した実践

### 活動名 だいすきなつ -しゃぼんだまをとばそう- (7月)

#### 活動のねらい

- ・友達と協力して、材料や道具、吹き方などを試し工夫する中で、しゃぼん玉の特徴や友達と遊ぶ楽しさに気付こうとする。
- ・園児との交流を通して、相手に伝わるように表現を工夫し、自分の成長に気付こうとする。

#### 教師の支援のポイント

- ・園児と一緒に、特別なしゃぼん玉を作りたいという思いや願いを達成するために、道具や材料、吹き方などを試行させたり、工夫させたりして活動を楽しませる。
- ・友達と協力したり、工夫したりすると楽しく活動できることに気付かせ、達成感をもたせるように支援する。
- ・主体的にしゃぼん玉作りができるように、材料や道具について家庭に協力を依頼する。
- ・しゃぼん玉遊びを通して、見出した気付きや発見を表現する過程を楽しむように価値付ける。

#### 環境構成の工夫

- ・学校地図からしゃぼん玉を飛ばす場所や空間をイメージさせ、施設を使うきまりを話し合わせる。
- ・お気に入りの場所を選ばせることで、風の向きによって飛び方が異なることに気付かせる。
- ・材料や道具を置くコーナーや活動する時間と場所を十分に確保する。
- ・楽しかったことや気付いたこと、特徴などを表現した作品を教室に掲示したり、継続して活動できる場を設定したりする。

#### 活動計画

- ・夏の楽しい活動について話し合い、ストローを使ってしゃぼん玉遊びをする。
- ・しゃぼん玉遊びの場所、飛ばしてみたいしゃぼん玉、材料や道具の工夫、一緒に楽しみたい人などについて話し合う。例：園児と一緒に遊びたい。ストロー以外の道具を使いたい。
- ・ストロー以外の道具を使ったり、ストローを組み合わせてたりしてしゃぼん玉遊びを工夫する。
- ・色、形、大きさ、数、飛び方、動き、吹き方など見付けたことや気付いたことを伝え合う。
- ・しゃぼん玉遊びの活動を振り返り、楽しかったこと、もっとよく知りたいこと、知らせたいこと、一緒に遊びたい人などを友達に伝える。
- ・園児とのしゃぼん玉遊びを計画する。
- ・園児を招待し、しゃぼん玉遊びを一緒にいき、遊んだ感想を発表する。
- ・思いや願いを基に、試行・工夫したこと、楽しかったこと、気付いたこと、友達の様子、発見したことなどをお知らせカードに表現する。

\*該当教科等

- ・生活「だいすきなつ -しゃぼんだまをとばそう-」
- ・国語「おもいだしてはなそう」「しらせたいことをかこう」
- ・特別の教科 道徳「きまりをまもって」



## 本時の活動内容

- ・園児と一緒に「夏を楽しむ会」を行う。  
挨拶、メダルのプレゼント、しゃぼん玉遊びの説明、〇×クイズ、しゃぼん玉遊びの安全注意を行う。
- ・グループに分かれ、園児と一緒にしゃぼん玉遊びをする。
- ・しゃぼん玉遊びをした感想を発表する。



## 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を発揮した様子

- ・自分達で決めた挨拶の言葉などを覚えて、みんなに聞こえる声で発表していた。  
(言葉による伝え合い)
- ・「今日はよろしくね。」と自然に園児に声をかけていた。  
(道徳性・規範意識の芽生え)
- ・しゃぼん玉の使用方法について、クイズ形式などの工夫を用いて、園児が分かりやすいように説明をしていた。  
(言葉による伝え合い)
- ・「しゃぼん玉の中にしゃぼん玉ができたよ。」と、気付いたことを話している園児の言葉に耳を傾けていた。  
(言葉による伝え合い)
- ・自分の気持ちや気付いたことについて友達の前で発表した。  
(言葉による伝え合い)
- ・しゃぼん玉の作り方を実際に行いながら、園児に伝えた。  
(言葉による伝え合い)(協同性)
- ・園児の「やりたい。」という言葉を聞き、自分が使っているものを貸していた。  
(協同性)
- ・上手にしゃぼん玉を作ることができない園児に対し、どのようにすればたくさんのしゃぼん玉ができるのかを、実際に手をとって教えてあげた。  
(協同性)
- ・ストロー以外の道具(モール、トイレットペーパーの芯、うちわの骨、牛乳パック、金網など)を使ってみせることで園児が興味をもって見ていた。  
(協同性)
- ・しゃぼん玉がたくさんできた時、「幼稚園生すごいね。」とほめていた。  
(協同性)
- ・吹く風でもしゃぼん玉ができることに気づき、繰り返し行う園児を見守っていた。  
(豊かな感性と表現)(社会生活との関わり)
- ・園児に対し自ら手をつなぎ、年上という自覚をもって活動をしていた。  
(自立心)
- ・「どうして泡が出てきたのだろう?」「風かな?」と風と泡との関係や「うちわの方がやりやすいよ。」としゃぼん玉をたくさん作る方法に気付くことができた。  
(思考力の芽生え)
- ・ペアになっている園児にお礼を自分から言っていた。  
(自立心)



## 幼児期に経験してきたことや学び

- ・幼児教育施設の生活では同年齢児や異年齢児との関わりの中で、一緒に遊ぶ楽しさや友達が困っている時の対応などを経験から学んでいます。5歳児になると他者の存在を意識して自己を抑制しようとする気持ちも育ってきます。
- ・色々な遊びを通して、不思議に思ったことや疑問に感じたことなどについて、図鑑で調べたり、保育者に聞いたり、自ら試したりしながら知識を獲得しています。
- ・幼児教育施設では、保育者や友達、他の学級の幼児や訪問者など、様々な人々と挨拶を交わすことを日常的に行っています。





# V 保幼小の接続サイクルの 体制作りに向けて





## 1 接続期を支える交流・連携の取組

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について（報告）」（平成22年11月）では、人的交流から始め、その後交流等の実践を基に、接続を意識した教育課程の編成・実践へと発展させることが示されました。

子供同士や教職員等の交流や連携を進めていくに当たっては、近隣に交流のできる施設がないことや多くの幼児教育施設から入学してくるため、どこと交流をしたらよいかを決めることが難しいなど、様々な課題があります。

保幼小の連携を進めていくには、一度に全てを解決する方法はなく、双方が段階を踏んで、一歩ずつ理解と協力をしながら進めていくことが大切です。近隣の幼児教育施設や小学校について、どこにどのくらいの規模の施設があり、どのような教育方針で運営されているのか、何人の卒園児がいるのか等の情報を共有するために、教職員等が顔合わせをするところから始め、保幼小それぞれが年間計画に保育・授業参観、行事への招待などを組み入れていくようにします。

なお、保幼小連携の充実に向けては、幼児や児童の双方に互恵性のある活動を進めていくために、教職員等で事前の打ち合わせや振り返りを行い、子供の発達や学びの様子を把握し、接続期のカリキュラム作成につなげていきます。

次頁の「保幼小連携の進め方と段階表」（表1）を活用する際は、各市町村の状況に応じてできることから取り組んでいきます。



表1 保幼小連携の進め方と段階表

段階	自治体・校園所長会	保育所・幼稚園 ・認定こども園	小学校
はじめの 一歩 【ステップ1】	<ul style="list-style-type: none"> <li>保幼小接続の啓発</li> <li>研修会の実施</li> <li>先進研究校の指定</li> <li>校園所長同士の交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣保育所, 幼稚園, 認定こども園, 小学校の確認</li> <li>小学校への散歩や施設利用(校庭・トイレ・水道など)</li> <li>園だよりの交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児教育施設の確認</li> <li>幼児教育施設に学校利用の促進</li> <li>公開研究会の案内配付</li> <li>学校便りの交換</li> </ul>
交流段階 【ステップ2】	<ul style="list-style-type: none"> <li>校園所長相互訪問</li> <li>保幼小連携研修会の実施</li> <li>保幼小連携協議会の開催</li> <li>保幼小授業参観の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学校生活科等授業参観</li> <li>小学校行事への参加</li> <li>行事の交流活動</li> <li>相互交流活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児を生活科等の授業への招待</li> <li>小学校行事への招待</li> <li>相互交流活動</li> </ul>
接続期のカリキュラム作成段階 互恵性を求めた連携段階 【ステップ3】	<ul style="list-style-type: none"> <li>保幼小連絡会議の実施</li> <li>保幼小連携カリキュラム作成委員会</li> <li>教育課程への位置付け</li> <li>接続期のカリキュラム作成</li> <li>実施に向けた準備, 指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携活動の実施</li> <li>職員間の打合せ</li> <li>活動案作成</li> <li>小学校教員との連携指導</li> <li>5歳児の学びのカリキュラム作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携活動の実施</li> <li>教員間の打合せ</li> <li>学習指導案作成</li> <li>幼児教育施設職員との連携指導</li> <li>スタートカリキュラム作成</li> </ul>
自治体内保幼小連携・接続期の カリキュラム実施段階 【ステップ4】	<ul style="list-style-type: none"> <li>接続期のカリキュラムの実施・評価</li> <li>保幼小人事交流</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体内保幼小連携</li> <li>5歳児の学びのカリキュラムの実施・評価・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治体内保幼小連携</li> <li>スタートカリキュラムの実施・評価・改善</li> </ul>

## 2 実践例

## ようこそ しょうがっこうへ

## テーマ

1年生が自己の経験から考えた小学校についての紹介により、5歳児の入学に対しての不安を和らげ、期待を高める。

## 活動のねらい

5歳児	児童
小学校に行って、1年生の小学校の紹介を聞いたり、体験をしたりすることによって、入学に対しての不安を和らげ期待を高める。	入学当初からこれまでの自分たちの経験を振り返り、5歳児に伝えるべき内容や分かりやすい方法を考え紹介を行う。

## 活動の概要

時	実際の内容
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>入学式のビデオを見て不安や期待の気持ちを思い出し、入学13日目のアンケートと今を比べ、成長したことや成長を支えてくれた人がいることに気付いた。1年前の自分達と同じように入学に対して期待や不安をもつ年長児がいることに気づき、小学校について紹介することにした。</li> </ul>
2～16	<p>(各グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園と小学校の違いを踏まえ、年長児に何をどのように伝えるのかを考えた。</li> <li>お互いに年長児役を行い、紹介の練習をした。</li> </ul> <p>(実行委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年集会で、招待状やプレゼント(コースター)作り、校歌を歌うことの提案をした。</li> <li>小学校1日体験の進行の練習をした。</li> <li>なかよしボードの作成(年長児にどんなことを知りたいか聞くなど、意見交換ボード)</li> <li>模造紙に、紹介内容の簡単な説明や会場図を書き、校舎内の写真を貼り、交流会前に園へ届けた。</li> </ul> <p>【合科的指導：図工】・魚のコースターを作った。</p> <p>【関連的指導：道徳】・「はしのうえのおおかみ」の教材で、親切・思いやりについて考えた。</p> <p>(年長児)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園の先生から、小学校の1日体験があることを聞き、どんなことを知りたいのか考えた。</li> <li>1年生の紹介内容を聞き期待感を高め、校舎の様子等を知り事前にどんな場所かを知った。</li> </ul>
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際の会場で、グループごとに練習</li> </ul>
18・19	<ul style="list-style-type: none"> <li>前半、後半に分かれて、紹介と年長児役を行い、リハーサルをした。</li> </ul>
20・21	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立保育園との交流会</li> </ul>
22・23	<ul style="list-style-type: none"> <li>私立幼稚園との交流会</li> </ul>
24	<p>(1年生)・交流会を振り返り、自分や友達のよかったところを付箋に書き、発表した。</p> <p>(5歳児)・交流会を振り返り、入学への期待を高めた。</p>



第1時



なつかしい、  
ドキドキしたね。

- 入学13日目のアンケート  
(困ったこと)
- ・どこになにを置くのかわからない。
  - ・名札をつけるのが難しい。
  - ・並び方がわからなかった。
  - ・牛乳パックがつぶせない。
- (楽しかったこと)
- ・掃除 ・給食 ・勉強
  - ・友達と一緒に遊べた。

掃除のやり方が  
わからなかったから  
教えてあげたい。

園の時はお弁当だったけど、  
給食が楽しかったから紹介したい。  
牛乳パックをつぶすのが  
難しかったから教えてあげようよ。

第2時から第16時 「小学校での1日の流れ」を紙芝居にしたグループの様子

グループで何をどのように伝えるのかを考える話合いで、このグループは、みんなバラバラだった。そこで、みんなで話し合い、1日の流れを紙芝居にすることにした。絵の得意な児童が多く、特技を生かした方法をとることができた。

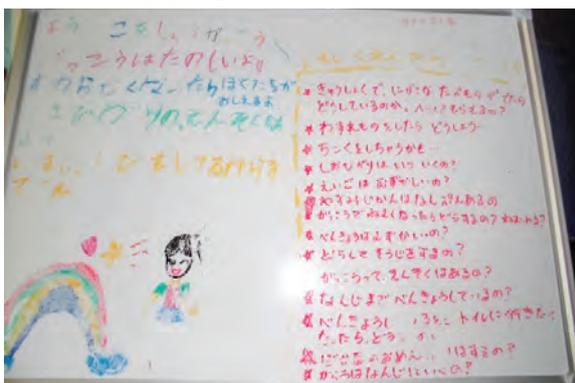
また、他の班と年長児役を交代にすると、ただ紙芝居を読むだけでなく、紙芝居にかいてあることの体験コーナーを作ろうと、ブロックを使ってたし算を行う体験をすることにした。



(実行委員の準備の様子)

各クラス2名ずつ、合計6名の実行委員は、休み時間に集まり、プログラムや会場図、なかよしボード(事前交流)や飾りを作ったり、はじめ・終わりの会の進行練習を行ったりした。

【なかよしボード】



園の先生が5歳児の知りたいことを書いてくれました。

【プログラム】



大きな声ではきはきと言葉を言いました。

## 交流会の流れ

## 第20時から第23時

10:30 はじめの会

10:40 1年生による小学校紹介（体育館・1年生の教室）

- ・5歳児は、グループごとに1年生のコーナーを回る。
- ・1年生のグループごとに紹介する。

11:20 おわりの会（5歳児の感想・5歳児にコースターのプレゼント・校歌を歌う）

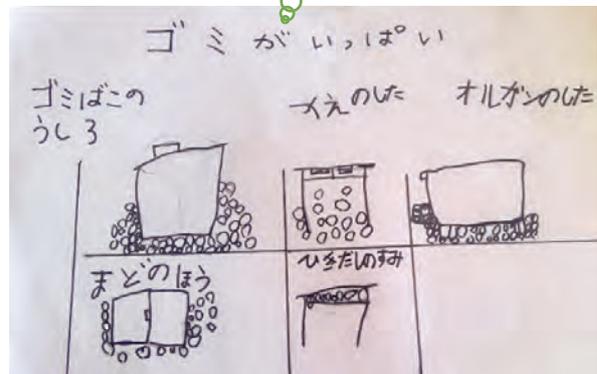
※ 第20・21時の保育園との交流会で、最初、5歳児がどこにいけばよいのか戸惑ったり、1年生と5歳児が打ち解けるまでに時間がかかったりした。そこで、幼稚園との交流会では、各グループがどんな紹介をどこでやるのかをはじめの会で話したり、1年生と一緒にできる、園で行っている遊び（なべなべ底抜け、じゃんけん列車など）を幼稚園の先生に行ってもらったりするなどの変更をした。

## 1年生の特徴ある紹介

ほうきの持ち方はね…

ごみがいっぱいある場所を  
教えてあげるね。

## 【掃除体験】



## 【朝の支度体験】



## 【給食・お皿の置き方・牛乳パックのつぶし方】



## 第24時 振り返り

（5歳児の感想）掃除体験や朝の支度体験が楽しかった。1年生がやさしかった。

（1年生の感想）年長さんに小学校のことをわかってもらえてよかった。

年長さんが入学してきたらまた色々教えてあげたい。

## 成果

- ・5歳児は、小学校の様子が分かり、1年生と接することで入学の期待が高まり不安も和らいだ。
- ・1年生は、小学校での生活や学習の仕方を振り返ることで、自分の成長に気付くことができた。友達や身近な人々と積極的に関わり、自分たちの考えを表現し思いを伝えることができた。

## 幼保小情報交換会

**テーマ** 幼稚園・保育所・小学校の指導内容、方法などを情報交換し、接続期の指導に役立てる。

### 活動のねらい

- ・幼稚園・保育所の指導内容、方法などを理解し、児童が自己を発揮し、幼児教育で育ててきた資質・能力を小学校で更に伸ばすことができるようにする。また、教師の授業の質を高める指導の在り方を考える。(小学校)
- ・小学校の指導内容、方法などを知り、幼児教育施設での自発的な遊びを通しての学びが、小学校教育でどのように発揮されていくのか理解する。また滑らかな学びの連続性を知り、今後の幼児教育に生かす。(幼稚園・保育所)
- ・教員同士の交流を通じて、互いに自分の指導と保育の違いを理解し、それを接続させるための手立てを考えることができるようにする。(小学校・幼稚園・保育所)

### 事前の準備

- ・幼稚園・保育所  
5歳児の情報(「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」として示された姿)を収集し、日程調整を行う。
  - ・小学校  
幼児期の教育での経験や体験が学習につながるように、生活科の教科書を用意しておく。日程調整を行う。
- ※会場については、互いの施設の環境を理解する上で、交互に設定する。

### 参加者

- ・〇〇幼稚園 5歳児担任 ※含む園長
- ・〇〇保育所 5歳児担任、※現小学校1年生の児童を前年に担任していた保育者
- ・〇〇小学校 低学年担任 ※前年に1年生を担当していた先生

### 実施の流れ

情報交換の流れ(例)

〇月〇日 10:00~11:15

〇〇幼稚園

10:00 会場到着

10:05 互いにあいさつ

10:10~ 訪問した園の施設見学(環境構成に着目)

10:30~ 園側から、遊びを通しての学びがどのように行われているか、小学校側から、それらがどのように学習で生かされるだろうか等を「幼小連携学びのシート」を活用しながら情報交換をする。(生活の教科書を見せてもよい。)

11:15 終了

情報交換会を生かした小学校の授業の実際

生活1年「いきものとなかよし」

(1) 環境構成（主体的な活動を可能にする環境作り）



幼児教育施設の生き物といつでも触れ合える環境や使いたい物が一目で分かり、自由に使える環境



小学校で実践



1年生教室に隣接した生活科室へ



幼児教育施設でいただいたスズムシ



材料が一目で分かり自由に使える



いつでも使える虫網



幼児期にも使っていた虫めがね



幼児教育施設で使っていた生き物図鑑を小学校でも活用

(2) 段階を追った支援の仕方（意欲を持続させるための工夫）

幼児教育の段階を追った支援

高さの追求

形の追求

保育者の支援

小学校で実践

生き物への興味関心をもつ段階を追った場作り

①子供の関心に応じて本を並べる  
②帯をつける  
③付箋をつける

(3) 「幼小連携学びのシート」の活用（児童の実態を捉えた授業の工夫）

幼児期の教育での経験(学びの芽生え)を生かした授業作りをするため、情報交換会で得た内容を「幼小連携学びのシート」にまとめた。下記のシートは、各園で聞き取った内容を、集約して作成したものである。

幼小連携学びのシート（全園集計）単元名（いきものとなかよし）9月	
どんな生き物を観ていますか。	ザリガニ、カメ、観ていない、ダンゴムシ、オタマジャクシ、チョウ、トンボ、ハッパ、スズムシ、メダカ、カブトムシ、クワガタ
スズムシは誰ですか。	子ども、先生、やっではない、子どもと先生
どのように育てていますか。	グループや個人が担当で、決まっていな、やっではない、希望した子
いつやっていますか。	朝、やっではない、午後
園で見られる生き物は何ですか。	バッタ、ダンゴムシ、トンボ、おとこ、チョウ、アリの、ミミズ、カブトムシ（幼虫）、カエル、カマキリ、トカゲ、カササギ、カササギ、テントウムシ、コオロギ、ハチ、ヘビ
生き物でどんなことに気づいていますか。	「かわいい」や「水と取り替えるね」など子どもの近くで聞かせる 「エビとカマキリ、顔が似ていて知らせる、保育者が生き物に触る」 「生き物が死なないように捕まえても最後は放している」 「クマシやハチには近づかない、触らない、獲物の生き物への向き合い方」 「遊具の中で自然と触れ合えるようにする、えさを絶やさないようにしている」 「子どもからの質問に答えられるようにしている」
生き物に関心をもつ、環境作りの工夫は。	「いつでも使える状態にしてある」「虫かご、ドールズ」 「畑の遊びが生き物との触れ合いのきっかけになっている」 「絵本で生き物に関心をもつきっかけを作っている」 「ボクッと図鑑」をロッカーに置いておく 「子ども達の見える所に生き物を置く」 「保育者が子ども達と生き物と一緒に遊んでみる」 「さりげなく言葉かけをする「あ、ダンゴムシだね」など」
その他	「女子は虫が苦手な子が多い」 「見てはいるが、触れない子もいる」 「女子は、生き物より植物に関心が高い」

小学校で実践



活動導入の工夫「ネイチャーゲーム」  
※女兒に虫の苦手な子が多いため。



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基に情報交換会を実施する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

成果

- ・ 幼稚園、保育所、小学校それぞれの保育や指導について話し合い、取組の観点の違いについて理解を深めることができた。その上で、連携、接続のためにどんな工夫ができるか考える一歩になった。
- ・ 環境構成の面で、幼児期の教育を意識して小学校の教室環境をどう整備すればよいかといった点にも話し合いを進めることができた。

### 3 保幼小接続のための体制作り

幼児教育施設と小学校が行ってきた、交流や連携の取組を接続につなげていくために幼児期の教育では、幼児期に経験してきたことや学びが小学校教育にどのようなつながっていくのか、また、小学校教育では、幼児期に経験してきたことや学びをどう生かしたかを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な姿を通して、計画・実践・振り返りをしていくことが大切です。そして、接続に向けて幼児期の教育と小学校教育を学びでつなぐ実践事例を提示してきました。

しかしながら、接続を図るためには、幼児期の教育と小学校の教育をつなぐための体制や保幼小の職員が、接続期における子供の発達や学びを共有することが重要です。さらに接続期の子供の発達や学びを共有するために、接続期のカリキュラムの作成に向けた保幼小接続体制を構築する必要があります。

保幼小の関係者が顔を合わせ、双方の教育の特徴や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心に育成したい子供たちの姿を共有しながら、以下の「知る・共有する」「計画する」「実践する」「振り返る」の4つの過程を通して、接続期のカリキュラムを作成します。

- ・「知る・共有する」・・・参観や研修会等で保幼小の教育の違いを知り、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を保幼小の職員が共有する。
- ・「計画する」・・・「5歳児の学びのカリキュラム」や「スタートカリキュラム」の全体計画や具体的な活動を立案する。
- ・「実践する」・・・「5歳児の学びのカリキュラム」や「スタートカリキュラム」を計画に基づいて実践する。
- ・「振り返る」・・・「5歳児の学びのカリキュラム」や「スタートカリキュラム」の活動実践を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、主にどのような姿が表れたか（発揮されたか）の視点をもつ。また、そのための援助（支援）や環境構成が適切であったかを話し合い、次回、次年度の計画に反映させる。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、保幼小の教育をつなぐために共有できる具体的な姿です。保幼小接続のための体制作りで大切なのが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の活用です。この活用を通して子供の実態を具体的に捉えることで、理解を深めていくことができます。



図1 保幼小接続のためのサイクル



## VI 市町村の取組

\* 本掲載のものは、今現在の「市町村の取組」の一部を掲載したものです。

県内の各市町村では、保幼小の円滑な接続に向けて、それぞれの地域性を生かしながら、幼児期から小学校以上への学びの連続性を意識した取組がされています。





## 保幼小の円滑な接続に向けての取組

## 浦安市の取組

## ～ 就学前から義務教育9年間を幼保小中の職員と一緒に育てる取組 ～

浦安市は、幼・小・中の施設が隣接していること、小学校の校長が幼稚園長を兼任していたこと等から「交流・連携」をしやすい環境にあり、その取組を続けてきた。

中学校区を単位とした、継続した「交流・連携」が、幼保小の滑らかな接続につながっている。

## &lt;浦安市としての取組&gt;

- 「うらやす幼・保・小・中連携の日」(8月21日に設定)
  - \*各中学校区の幼稚園・認定こども園、保育園、小学校、中学校の教職員が集まり、学習指導や生徒指導、連携等のテーマ別の協議や講演会を行っている。
- 「浦安市幼・保・小連携 アプローチカリキュラム・スタートカリキュラム」
  - \*平成28年10月に、リーフレットを作成した。それをもとに各園・小学校で「アプローチカリキュラム」「スタートカリキュラム」の作成、実践、見直しを行っている。
- 「浦安市小中連携・一貫教育カリキュラムの指針」
  - (就学前から義務教育9年間を見通して、学びの連続性を重視した学習指導や系統的・継続的な生徒指導を実践するためのカリキュラム)
- 「浦安市子ども作品展」「子どもアートギャラリー」
  - \*園児・児童・生徒の作品を同じ会場で展示している。
- 「中学校区の連携」をテーマとした各種研修会(校長会研修会、教頭研修会等)
- 「幼保小中連携教育担当者研修会」の実施(浸透してきたため、29年度から廃止)
- 「学校公開日」(次年度入学する保護者の授業参観、施設見学など)



連携の日の様子



## &lt;中学校区での取組&gt;

- 園児が「未就学児の競技」で小学校の運動会に参加
- 小学校の施設利用(プール、園の運動会、たこあげ等)
- 中学校区の作品交流
- 小学校5年生と年長の交流(年間数回)
- 中学校家庭分野の幼児とのふれあい実習、職場体験
- 中学校区合同避難訓練
- 地域の清掃・美化活動
- 地域文化祭
- 中学校区での相互参観
- 入学前の情報交換、小学校職員による保護者への説明会(就学時健康診断、園での講話等)



園児の小学校プール利用



地域文化祭

## 船橋市の取組

### 1 体制

所管：船橋市総合教育センター研究研修班

連携：船橋市教育委員会学校教育部学務課

船橋市健康福祉局子育て支援部保育認定課，公立保育園管理課

船橋市私立幼稚園連合会 船橋市保育協議会

### 2 市主催のもの

#### (1) 幼児期の接続と小学校教育の円滑な接続の在り方研究協力者会議（年3回）

組織：私立幼稚園連合会2名，船橋市保育協議会1名，船橋市立保育園1名，  
小学校長2名，小学校教務主任2名，学校教育部長，学務課長，指導課長，  
保健体育課長，総合教育センター所長，公立保育園管理課長，事務局3名

内容：本市における幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の連携を図るため，  
就学前後の調査内容に関することや望ましい合同研修会のもち方について協議する。

#### (2) 合同研修会（管理職，一般職 各年1回）18グループ編成

対象：私立幼稚園 連合会会長に依頼した後，会長から開催通知 任意参加

私立保育所 協議会会長に依頼した後，会長から開催通知 任意参加

市立保育所 公立保育園管理課から通知 任意参加

小学校 総合教育センター所長から通知 悉皆研修

内容：①管理職 県幼児教育アドバイザー講演

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方」  
グループ協議（顔合わせ，今年度の取組の計画等）

②一般職 長期研修生研究報告

「子どもと共につくる『スタートカリキュラム』」  
グループ協議（取組の具体的な打合せ，情報交換等）

### 3 小学校単位で行っているもの

- ・園児との交流活動
- ・地域の園への訪問
- ・小学校授業参観への招待
- ・小学校の見学
- ・オープンキャンパス
- ・管理職同士の交流
- ・職員（管理職外）の交流
- ・スタートカリキュラムの作成
- ・幼稚園，保育所での体験研修 等



小学校教諭による保育体験(年中児への読み聞かせ)



児童と園児の交流活動の様子



校長先生が園児たちに科学の面白さを伝授



交流活動の後、園児たちは学校探検

## 保幼小の円滑な接続に向けての取組

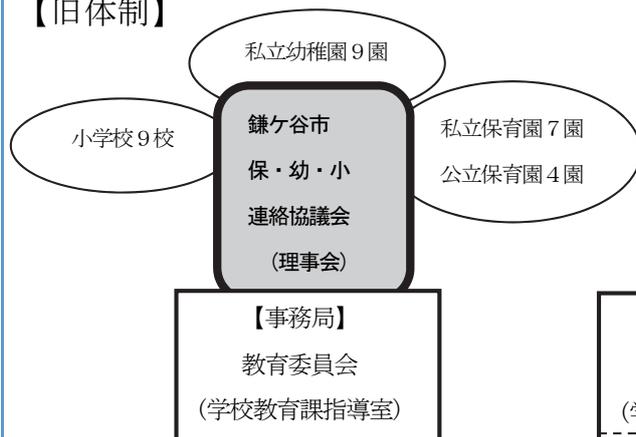
## 鎌ヶ谷市の取組

## ○体制

## 保幼小連絡協議会

・平成30年度から、市教育委員会と幼児保育課が事務局となり、市内の小学校・保育園に加え、私立幼稚園とも連携を図る。

## 【旧体制】



- ・理事会企画運営
- ・情報提供, 助言

## 【新体制】



- | 【事務局】               | 【理事会企画運営】 | 幼児保育課       |
|---------------------|-----------|-------------|
| 教育委員会<br>(学校教育課指導室) |           |             |
| ○小・実態把握             |           | ○保・幼・実態把握   |
| ○校長会との連絡調整          |           | ○園長会との連絡調整  |
| ○研修企画運営, 助言         |           | ○研修企画運営, 助言 |

- ・年に2回、理事会を開催する。  
学区ごとの保幼小研修会について情報交換及び計画を立てる。  
年度末の理事会では、年間の反省と次年度への課題について協議する。

## ○小学校区単位で行っているもの

- ・小学校参観・保育参観ののち、情報交換会  
年間2～3回 就学予定児の実態や情報を得る。  
入園式, 入学式, 運動会, 卒園式, 卒業式などで、幼児・児童の様子を参観し、交流を図る。
- ・保幼小交流会  
年長児と小学校低学年児童が交流することにより、小1プロブレムの解消を図る。
- ・年度末の新入学児童についての引き継ぎ  
特に支援を要する子については、保護者との関わり方等を含め情報を共有する。  
市教育委員会と保育園, 幼稚園からのファイルの引き継ぎを行い、特別支援教育を推進する。
- ・施設の開放  
保育園の運動会を小学校体育館で実施する。  
日常保育の中で、保育園児に校庭を開放する。

## 野田市の取組

○幼・保・こ・小の円滑な接続に向けての、野田市の体制や取組

### I 体制 ◎「幼・保・こ・小連絡会」の設置

- 子供の環境の変化に伴うリスクを軽減し、幼児教育、保育内容の充実に向け必要事項を協議する。
- 幼稚園・保育所・こども園と小学校が教育課程等の開示をはじめ、具体的・体験的な活動等の交流や連携を推進する。
- 幼児教育に関する新しい動きについて視野を広め、小学校入学後において安全かつ健康な生活が送れるようにするとともに、幼稚園、保育所、認定こども園が連携し、地域の子育てを支援していく。

### II 具体的な取組

○市主催のもの 年間2回の全体会

- (1回目) ①顔合わせと年間計画の交換、交流活動等の見通しをもち、計画を立てる。 ②ブロックごとの情報交換～入学後の子供たちの様子、接続期に大切にしていきたい点について話し合う。 ③理論研修
- (2回目) ①1年間の交流活動等の報告～各行事、指導形態や指導内容、子供の育ち等情報交換 ②「スタートカリキュラム」を含む幼・保・こ・小のスムーズな接続に関する情報交換 ③次年度へ向けての確認

○各ブロックで行っているもの～中央・西・南・北地区に分かれて取り組んでいる。

- 入学前・後の引継ぎの適正化と具体化を図る。
- 交流教育や体験的な活動を推進する。  
幼児と児童の交流だけでなく、行事・授業参観・保育参観等を通して幼児の発達の姿を知り地域の子育て支援に生かす。
- 行事案内を相互交換する。授業等の公開の機会を提供し合う。  
例) 秋の遊び・伝承遊び・学習発表会のような交流会／持久走の練習／1年生の体験入学／業間遊び等でのふれ合い／運動会への参加  
異学年との交流
- 就学に向けての情報交換  
幼稚園、保育所、認定こども園での活動の様子を伝える。  
育てたい姿の共有・・・挨拶、返事、身の回りのしたく、話を聞くことができること、文字の読み、たくさんの遊びの経験、言葉遣い、トイレの使い方、給食の用意・片付け、食事 等

## 保幼小の円滑な接続に向けての取組

## 印西市の取組

## 【市主催のネットワーク部会を開催】

印西市では、障がいをもつすべての幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという観点から、一人一人の教育的ニーズを把握し、その能力や可能性を伸長するために特別支援教育を推進している。

その中で、「印西市特別支援連携協議会ネットワーク部会」を位置付けている。

乳幼児期から、学齢期、青年期・成人期までの一貫した相談体制を構築するために、関係機関の連携を軸とした具体的なネットワーク作りをすることが目的となっている。

## 【活動の概要】

○教育的ニーズに応じた内容を市の関係5課で検討し、企画・運営に当たっている。

※5課（障がい福祉課、子育て支援課、保育課、健康増進課、指導課）

○年2回開催

第1回ネットワーク部会では、

- ・「ネットワーク部会について」
- ・「コスモスファイルについて」
- ・「いんざいこどもサポートガイド」などについて説明をしている。



いんざい君

○参加を呼びかける関係機関

各保育園・各幼稚園、特別支援学校、小中高等学校、労働及び福祉関係事業所、学童クラブ、障がい福祉課、子育て支援課、保育課、健康増進課、指導課、約70名が参加している。

- ・取り上げてほしいテーマを聞き、それぞれの課題に沿った内容を心がけている。
- ・情報交換の時間を設定し、顔の見える連携に努めています。それぞれの機関における現状を理解し、子供の支援に役立てるようにしている。
- ・ネットワーク部会で顔を合わせて互いを知ることによって、その後の相談や情報提供がしやすい関係作りに役立っている。

○ネットワーク部会の開催内容の例

- ・高等学校や特別支援学校高等部における校内の支援体制・支援の実際、卒業後の状況等について
- ・見え方や聞こえに困難を抱える児童生徒の理解と支援の仕方について
- ・子ども発達センターの療育見学とビデオ上映
- ・合理的配慮について
- ・インクルーシブ教育システムの構築について
- ・就労にむけた支援体制について（卒業後就労した方の体験談やその保護者、就労を支えた学校の先生、受け入れ先の事業所の方からの発表）
- ・引継ぎの仕方についての情報交換（保・幼、小、中、高、学童、事業所、企業）

## 多古町の取組

### 1 多古こども園（幼保連携型認定こども園）園児と各小学校児童との交流

#### （1）小学校第1学年児童とこども園5歳児との交流

町内各小学校では、第1学年児童と次年度小学校に入学するこども園5歳児と交流を行っている。1年生がリードして、自己紹介や校内案内、レクなど、各小学校で趣向を凝らして園児との交流を図っている。



#### （2）小学校第6学年児童とこども園園児との交流

町内各小学校第6学年で「ゆめ・仕事ぴったり体験」（職場体験）を実施している。その体験先の一つとして、こども園が選択されている。



### 2 こども園と小学校の引継ぎ

年度末、こども園5歳児担任と小学校ごとに、各校の教諭または管理職及び養護教諭で幼児の様子について引継ぎを行っている。

### 3 こども園での学校給食の実施

3歳児までは、こども園の給食室で調理した自園給食を提供している。4・5歳児には、町の学校給食センターで調理した給食を提供している。食の面で小学校の生活に慣れるために、小・中学校の児童・生徒と同じ給食を実施している。

### 4 合同研修会の実施

#### （1）多古町教育研究協議会

町内小・中学校及びこども園教職員で構成され、年に2回全体研修会が行われている。また、幼児教育研究部が設けられ、相互授業参観や研修を行っている。

#### （2）多古町教職員研修会

「多古町学校教育ビジョン」の目指す子ども像の実現に向け、こども園、小・中学校の教職員などが、合同で年1回の研修を行っている。

## 保幼小の円滑な接続に向けての取組

## 勝浦市の取組

## 勝浦市立勝浦小学校

5月

- ◆運動会招待レース（年長児）  
第1学年が招待状を作成し、届ける。

1月

- ◆保幼小交流会の改善  
触れ合いを中心とした交流から、幼児やその保護者が、入学前に学校を知ること、学校への抵抗感や入学の不安を軽減できるような内容に改善した。  
「ここにこしゅうかい」
  - ・第1学年と年長児の交流会
  - ・入学に向けて、学校紹介や学校探検活動
  - ・生活科で作成した「どんぐりアート」や花の種のプレゼント



保育所、幼稚園へ招待状を届けに行く。



学校探検で机の引き出しにしまっている学習用具を見せている。



生活の中でお世話になる保健室を学校探検で案内している。

## ◆保幼小の連絡会議

1月に教頭、特別支援コーディネーター、特別支援担当職員が保育所、幼稚園を訪問し、入学に向けての幼児の実態についての引継ぎを実施

## ◆スタートカリキュラム見直し

保育所・幼稚園の保護者・教諭・保育士を対象に入学へ向けて実施したアンケートと、保育所・幼稚園のカリキュラムを基に、スタートカリキュラムの見直しを実施

## ◆幼小お便り交換

第1学年と5歳児クラスで学年便りの交換を毎月行っている。  
※年長児が学校に届けに来てくれる。

## ◆保育所・幼稚園の参観

小学校職員が保育所・幼稚園での活動を参観し、幼児教育や子供の育ちについて意見交流をし、保幼小連携体制作りを行っている。

## 茂原市の取組

### 茂原市幼保小連絡会議

茂原市幼保連絡協議会は、乳幼児の健全育成のための振興充実について会員相互の連絡協調を図り、適切な対策を推進し、児童福祉の向上に期することを目的として、年間6回の協議会等を開催している。その中に「幼保小連絡会議」を位置付けている。公立幼稚園・私立幼稚園・公立保育所・私立保育園・小学校が参加し、幼児教育と小学校教育の円滑な接続を図ることを目的として開催している。

#### 【幼保小連絡会議】

対 象	小中学校校長会代表者（1名）、小学校低学年担任（14校各1名） 公私立保育所（園）長及び年長組担任（各1名） 公私立幼稚園長及び年長組担任（各1名）
内 容	「小学校から幼稚園、保育所（園）に伝えたいこと、求めること」をテーマにグループ協議を行う。 ○協議の視点 ・生活面、学習面で身に付けておきたいこと ・小学校への引継ぎ、提供してほしい情報等

#### 参加者からの意見

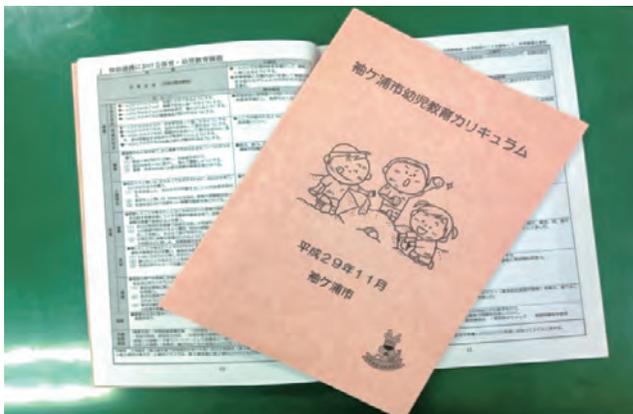
- ① 生活面、学習面で身に付けておきたいこと
  - 生活面
    - ・1年生の4月上旬はトイレ、靴箱の使い方を身に付けるので45分間座っていることは少ないが、話を聞く姿勢が大切である。
    - ・忘れ物が多かったり、朝に排泄をせずに登所したりする子がいるが、就学時までには、早寝・早起きを身に付けさせたい。
  - 学習面
    - ・幼稚園、保育所で細かく指導しているが行き届かない部分もある。ソーシャルスキルトレーニングを行い、個々に応じた指導をして幼保小で共有する。
    - ・手紙遊び等を通して平仮名に親しみをもてるように幼保ではしているが、就学時には自分の名前だけは書けるようにしてほしい。
- ② 小学校への引き継ぎ、提供してほしい情報等
  - ・アレルギーについての詳しい情報、保護者同士のつながりを教えてほしい。
  - ・小学校との関わりは、1年生だけでなく様々な学年との交流をもちたい。

参加者からの意見を共有し、幼児・児童の実態、教育内容や指導方法について相互理解を深めることにより、幼児教育と小学校教育の円滑な接続に向けた指導方法の改善につながっている。

## 保幼小の円滑な接続に向けての取組

## 袖ヶ浦市の取組

## 1 袖ヶ浦市幼児教育カリキュラムの作成



平成29年11月、袖ヶ浦市に在住する乳幼児が、その時期にふさわしい経験を確実に積み重ねて小学校に入学できるように、また、教育の質的向上が図れるように「袖ヶ浦市幼児教育カリキュラム」を策定している。0歳児から5歳児までの発達に応じて、経験させたい内容を年齢別に明示するとともに、その指導方法や小学校への滑らかな接続を例示している。

## 2 市主催研修の実施



幼児教育職員研修会

夏休みに市主催で、幼児教育に関する管理職研修や幼児教育研修会を実施している。これらの研修で、幼保小の連携をどのように進めていくのか、先進市での取組状況等について、また、今求められている豊かな心と身体を育む幼児教育の在り方等について研修している。

## 3 保幼小の交流会の実施



幼稚園児の小学校運動会練習の見学の様子



幼稚園年長児と小学1年生の交流会(どんぶり細工作り)



保育所の子どもの小学校交流会の様子

園児が小学校へ行く交流会を小学校区ごとに実施している。入学に向けて、自然な形で学校環境に慣れ親しみ、学校生活に期待と憧れをもたせることが目的となっている。

また、小学生にとっても、一緒に遊んだり、工作をしたり、学校行事を見せたりすることによって思いやりの気持ちを育む機会となっている。

## 鴨川市の取組

### ○鴨川市の保幼小中一貫教育の推進について

鴨川市は0歳から15歳までの連続性のある学び・育ちを重視した教育の推進を基本目標に鴨川市の保幼小中一貫教育を推進している。

### ○保幼小連携推進委員会について

鴨川市教育政策研究会の中に「保幼小連携推進委員会」を設置し、保幼小の一貫教育の推進と連携の強化を進めている。

#### 取組の内容

- ・アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを、保幼小共通理解の下、市内同一歩調で実践し、幼小相互に授業参観を行っている。
- ・小学校区単位で、年度ごとに推進委員を窓口計画・運営・振り返りを行い、学区の特色を活かした保幼小の連携が図られている。

### ○保幼小の連携について（実践例）

#### ・入学を見据えた実践例

入学前の体験入学では、1年生と一緒に学校生活をするだけでなく、1年生よる紹介（発表）を聞くことで小学校生活のイメージがしやすく、入学前の不安の緩和につながっている。

また、5年生の総合的な学習の時間で5歳児との交流活動を行っている学校が増えている。ペア活動は、そのまま翌年度に1年と6年のペアとして継続されることで入学時の不安が緩和し、スムーズに入学時期を迎えることにつながっている。

#### ・運動遊びの実践例

近年幼児期の運動経験不足を少しでも補うため小学校の先生による運動遊びの出前授業を行っている学校もある。鉄棒や縄跳び、ボール遊びなど専門性のある先生の指導は、幼稚園の教員にも学ぶべきことが多く、指導力向上にもつながっている。また、縄跳びやボール運動は模範や補助に高学年をあてることで、交流の幅を広げることもつながっている。



地域の特色を活かして幼稚園児と一緒に生活科の磯遊び



5年生と年長児が一緒にプール遊び



小学校教員による運動遊び

VII

資料





幼稚園教育要領等や小学校学習指導要領における幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続についての記載

幼稚園教育要領

平成29年 告示

第1章 総則

第3 教育課程の役割と編成等

5 小学校との接続に当たっての留意事項

- (1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。
- (2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

保育所保育指針

平成29年 告示

第2章 保育の内容

4 保育の実施に関して留意すべき事項

(2) 小学校との連携

- ア 保育所においては、保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにすること。
- イ 保育所保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、第1章の4の(2)に示す「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、保育所保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めること。
- ウ 子どもに関する情報共有に関して、保育所に入所している子どもの就学に際し、市町村の支援の下に、子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにすること。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

平成29年 告示

第1章 総則

第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等

(5) 小学校教育との接続に当たっての留意事項

- ア 幼保連携型認定こども園においては、その教育及び保育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、乳幼児期にふさわしい生活を通し

て、創造的な思考や主体的な生活態度などの基盤を培うようにするものとする。

イ 幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

## 小学校学習指導要領

平成29年3月 告示

### 第1章 総則

#### 第2 教育課程の編成

##### 4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の持続を図るものとする。

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学校以降の教育との円滑な接続が図られるように工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

### 第2章 各教科 第5節 生活

#### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

\*生活以外にも国語、算数、音楽、図画工作、体育、特別活動においても上記と同様の記載がされている。

平成29年度 船橋市・印西市保幼小連携・接続実態に関する調査

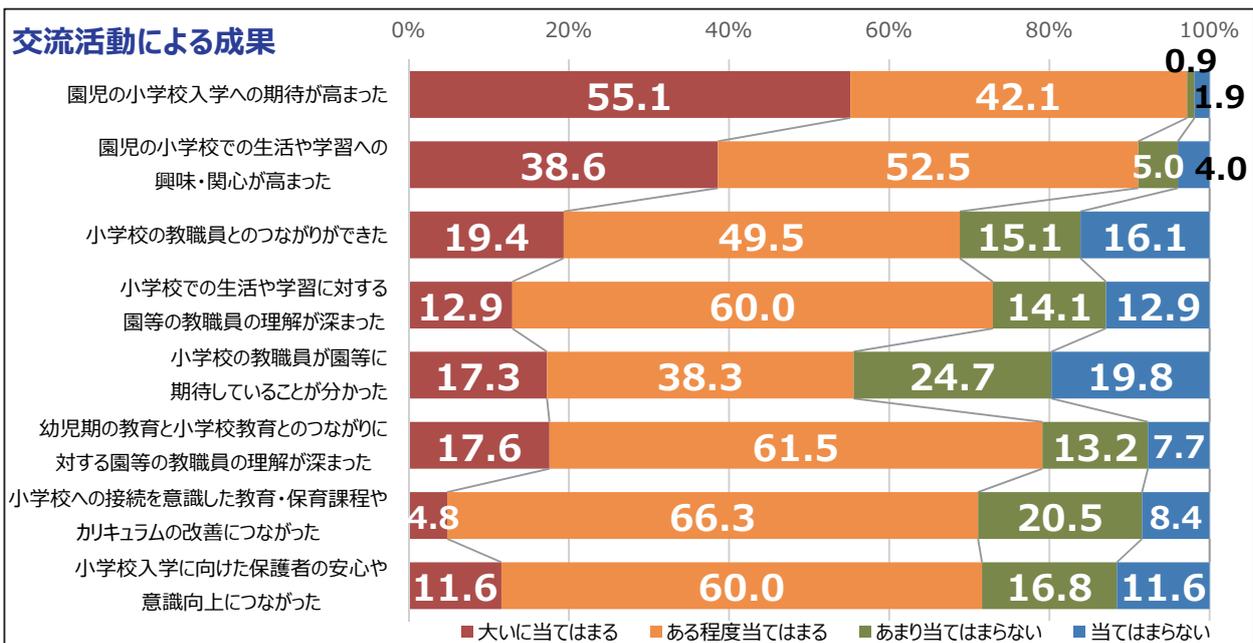
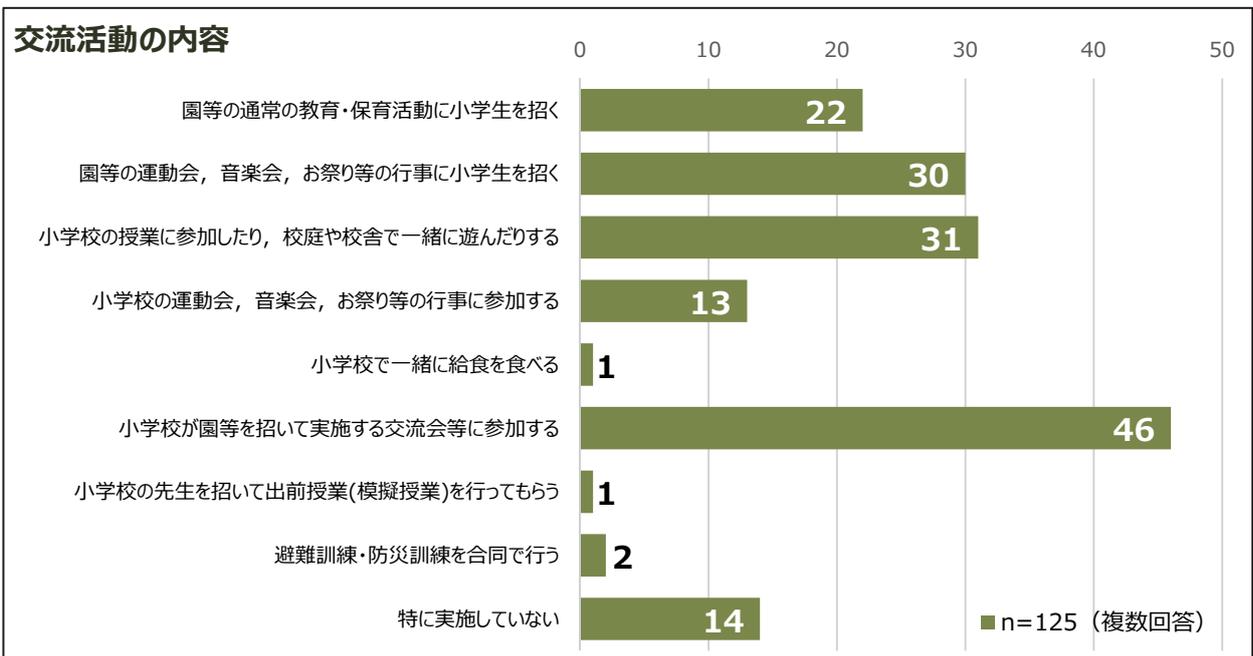
1 目的

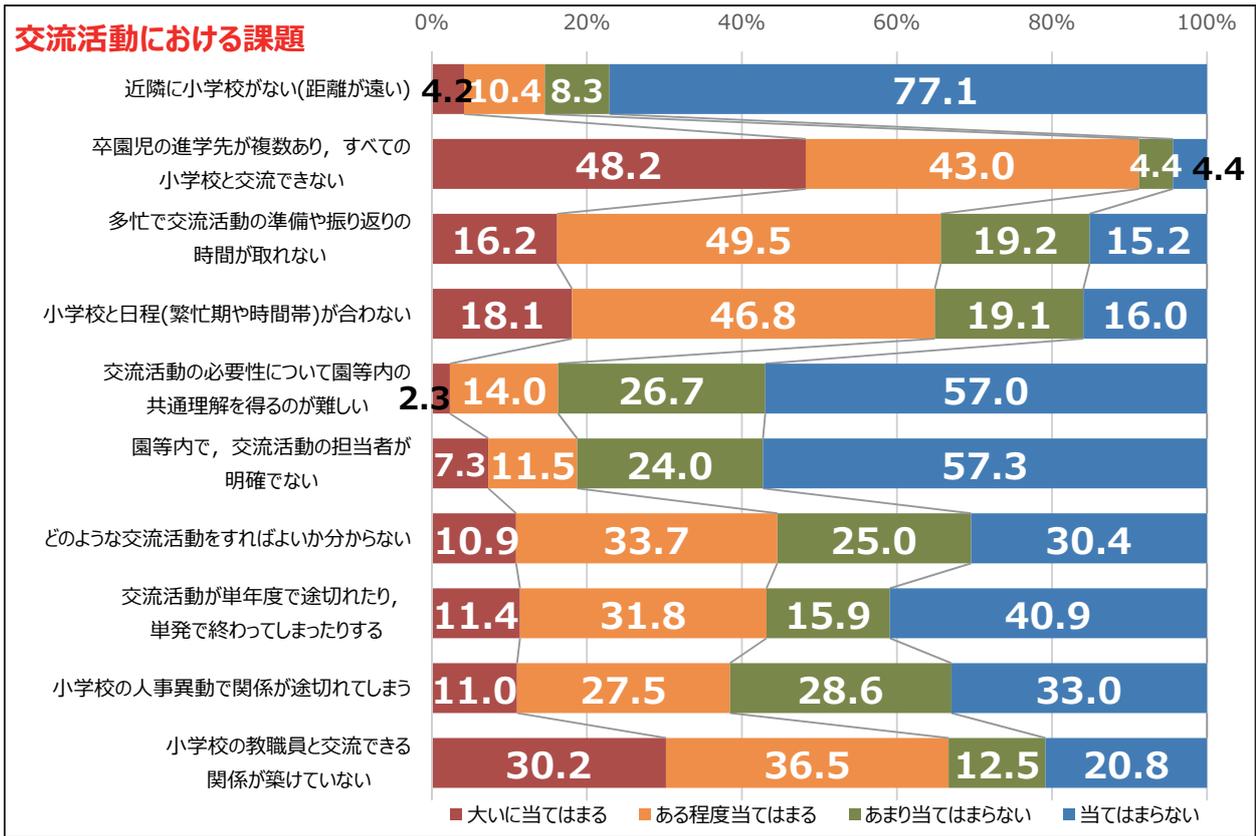
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を考えていく上で、県内の幼児教育施設及び小学校がどのような連携・接続の取組を行っているか、接続期のカリキュラムについてどのような認識をもっているかを調査しました。

2 調査対象

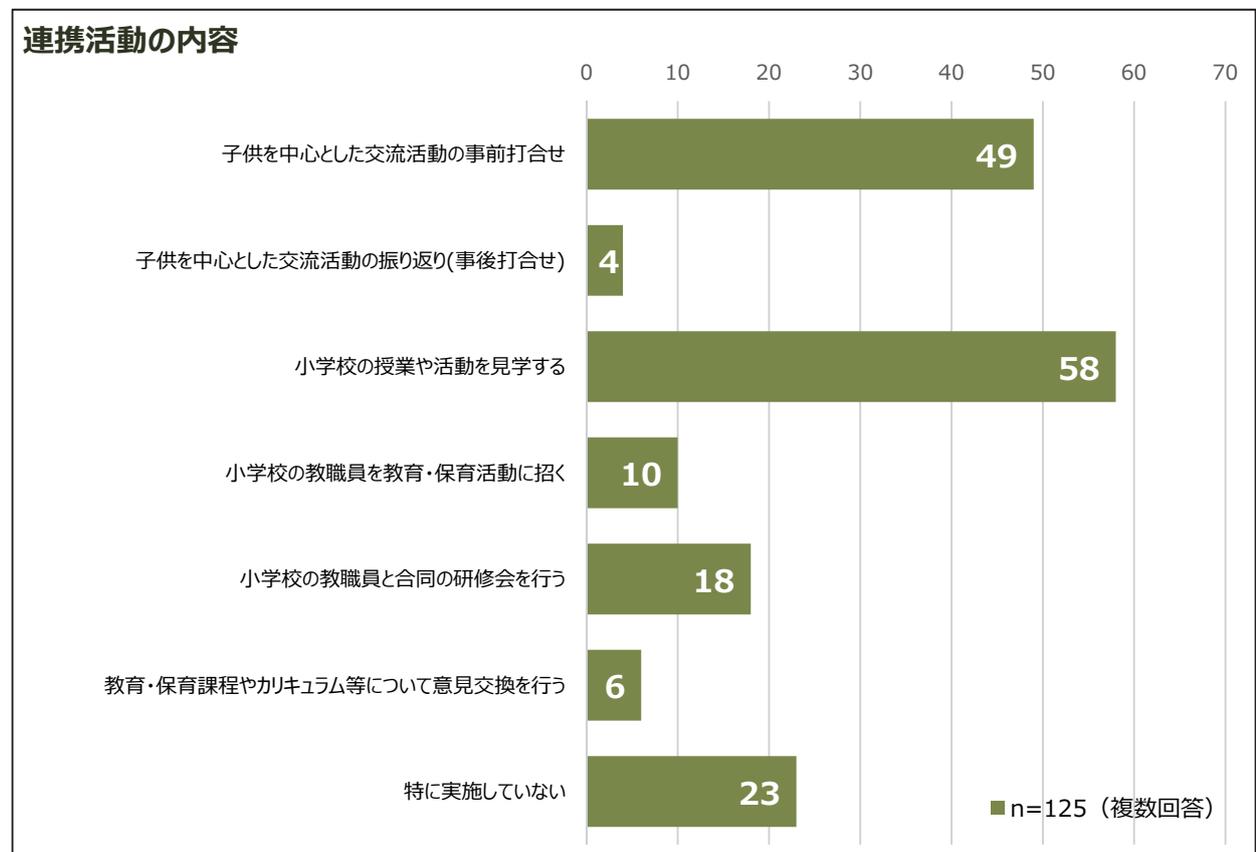
抽出市（船橋市・印西市）の幼児教育施設及び小学校  
 幼児教育施設 113施設 小学校 74校  
 調査対象：保育所・幼稚園・認定こども園

I 小学校との子供を中心とした交流活動について

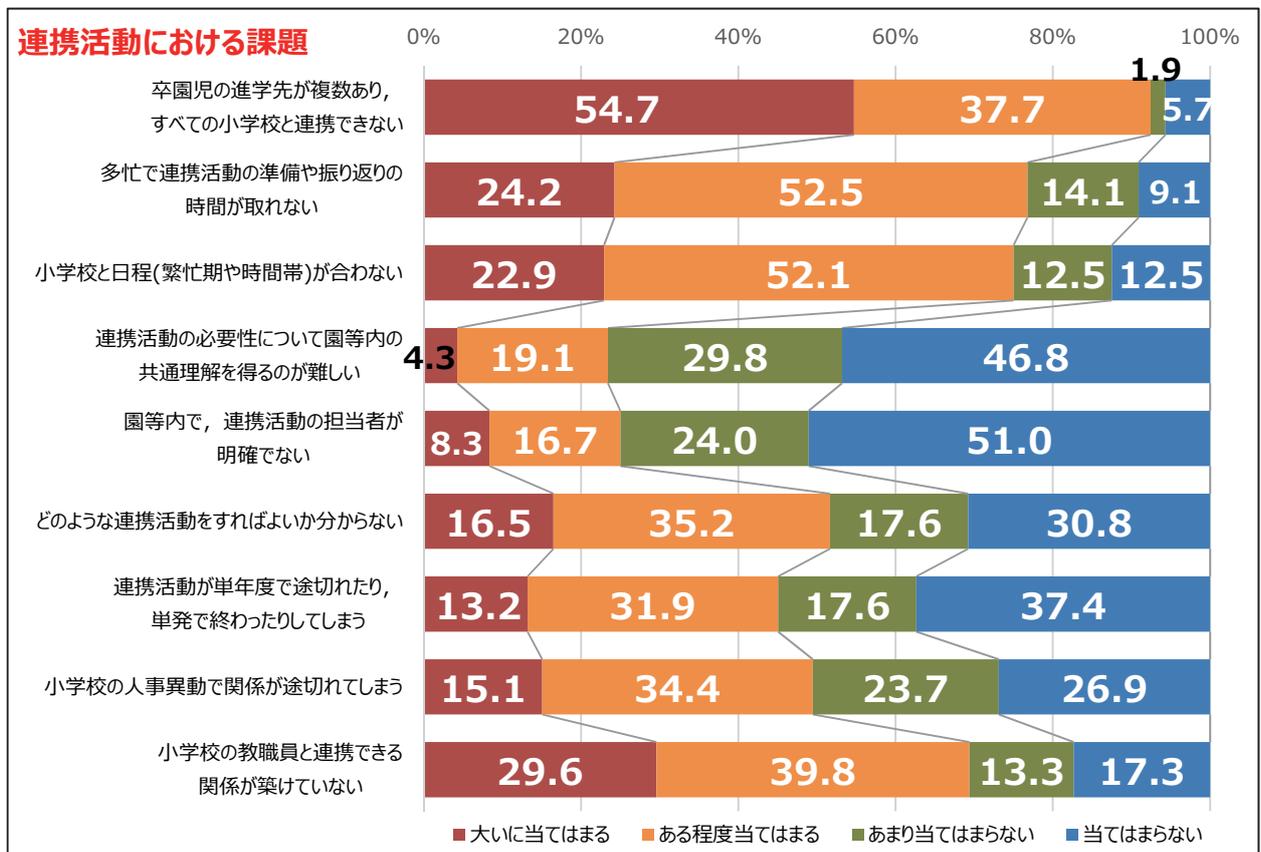
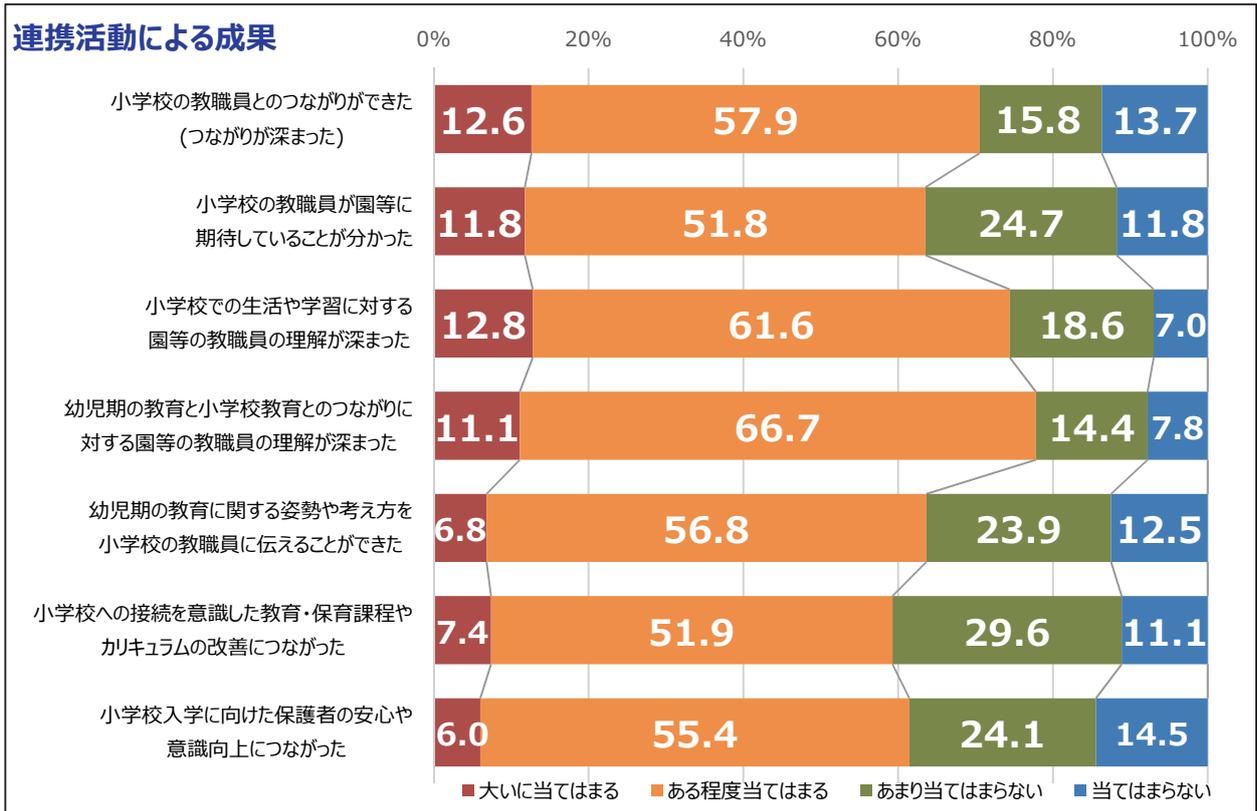




## Ⅱ 小学校との職員同士の連携活動について

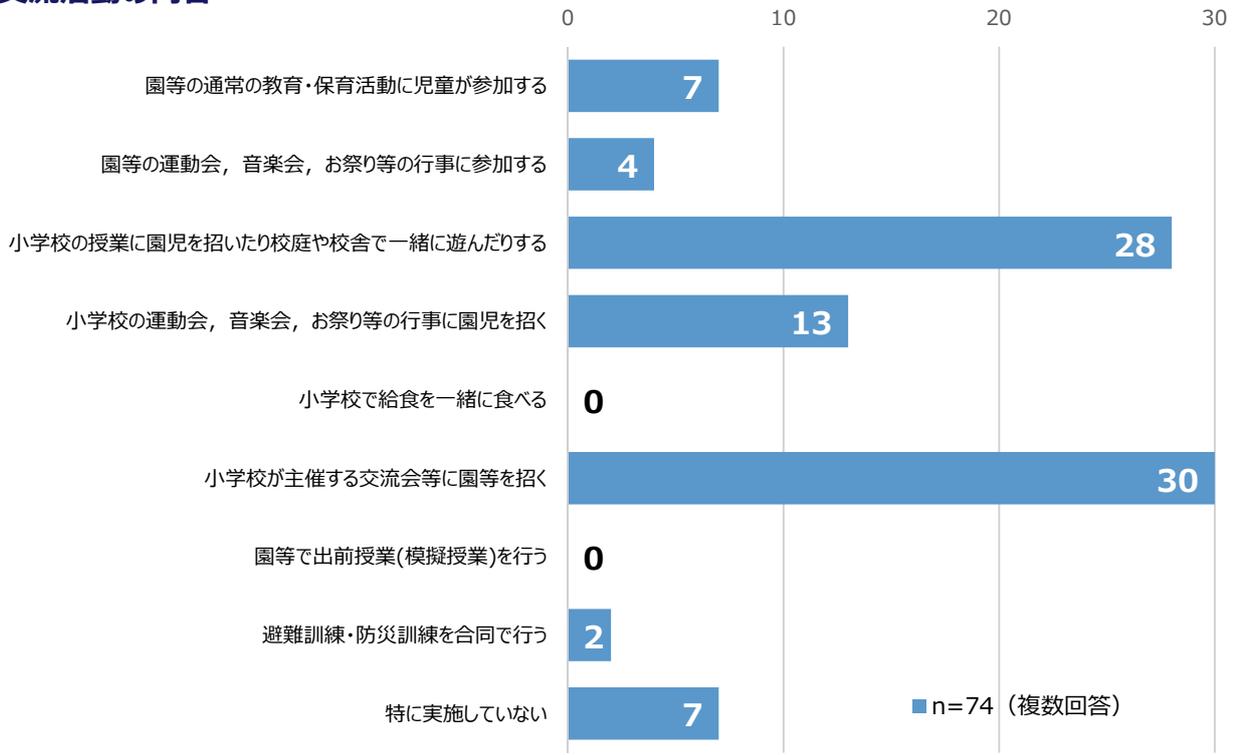


調査対象：保育所・幼稚園・認定こども園

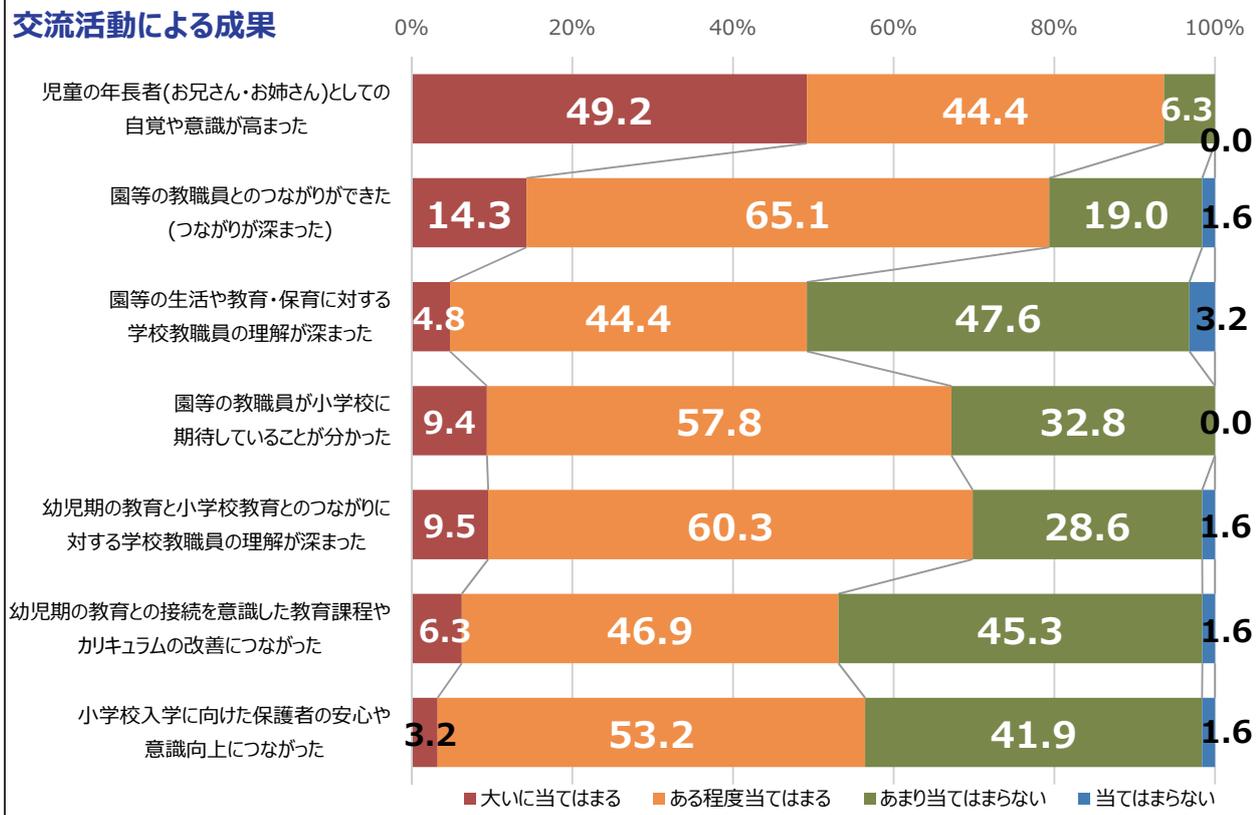


## I 幼稚園・保育所・認定こども園との子供を中心とした交流活動について

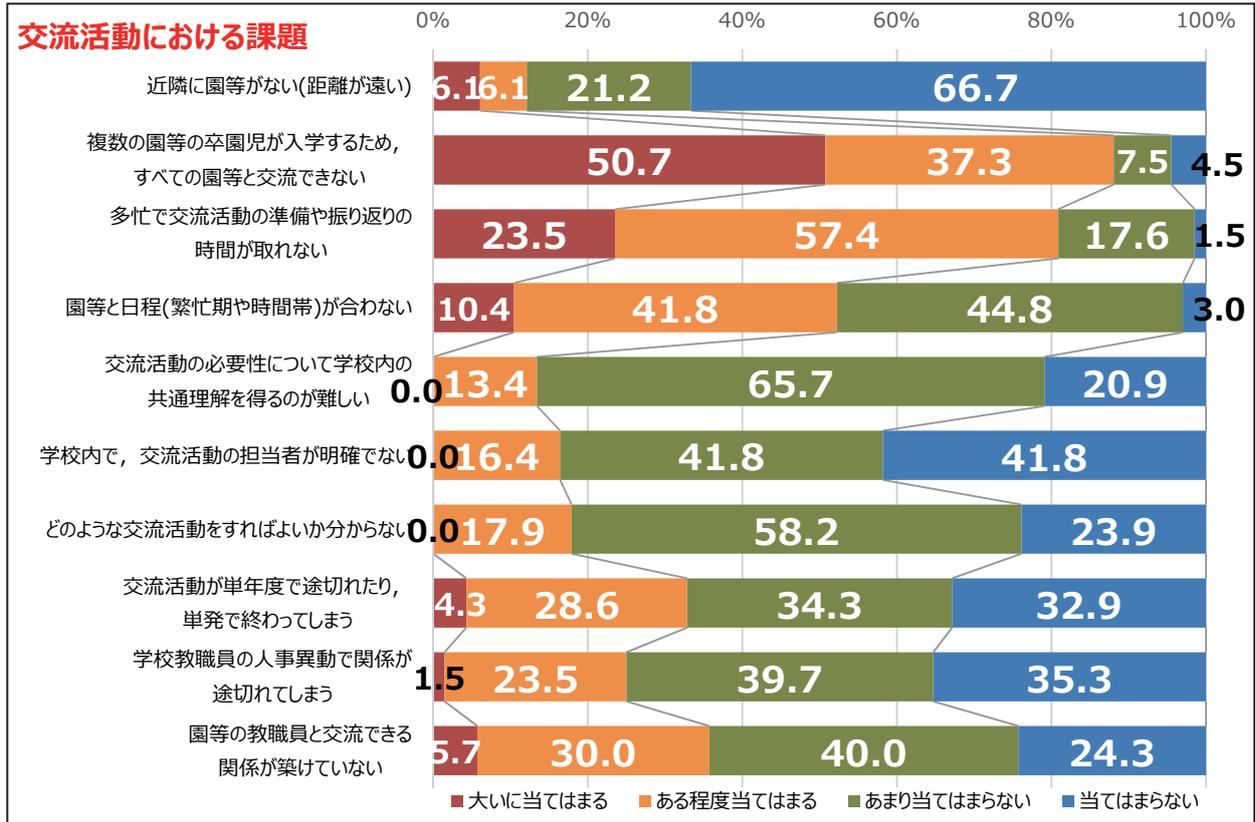
### 交流活動の内容



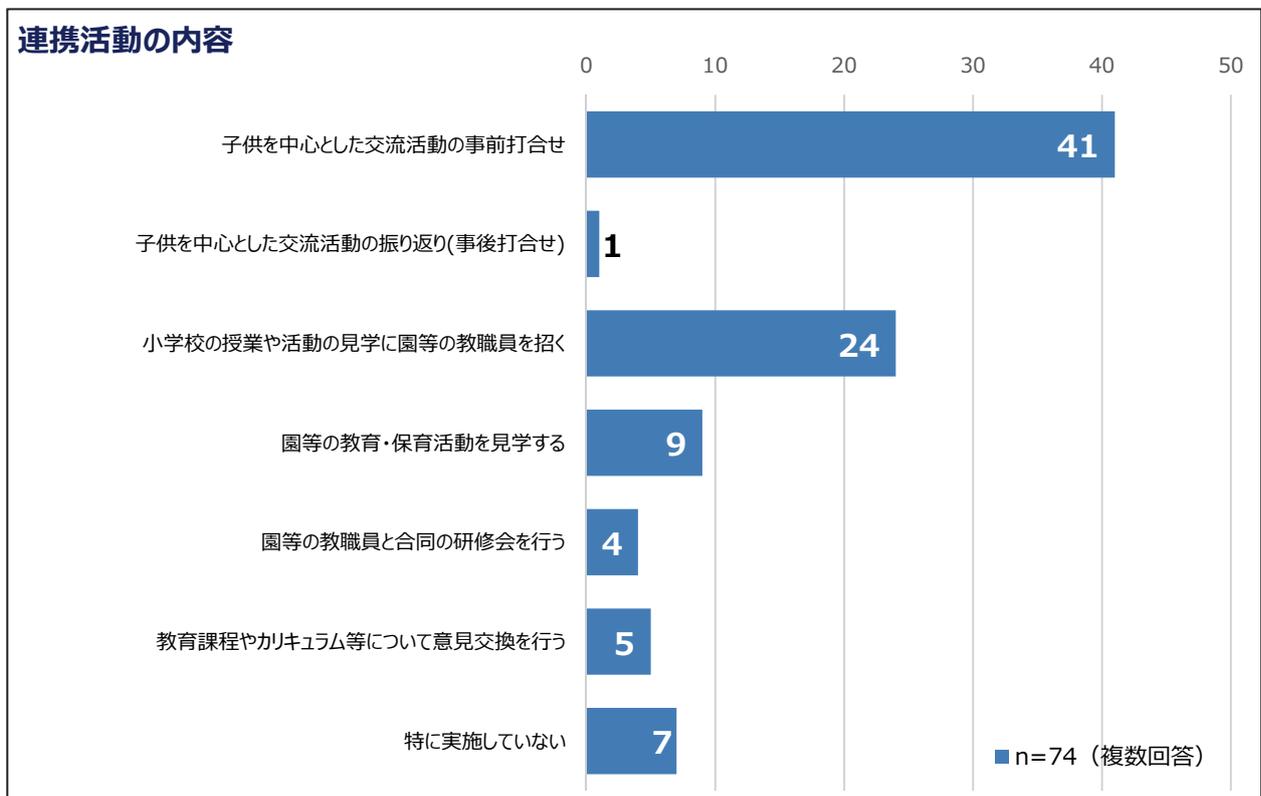
### 交流活動による成果

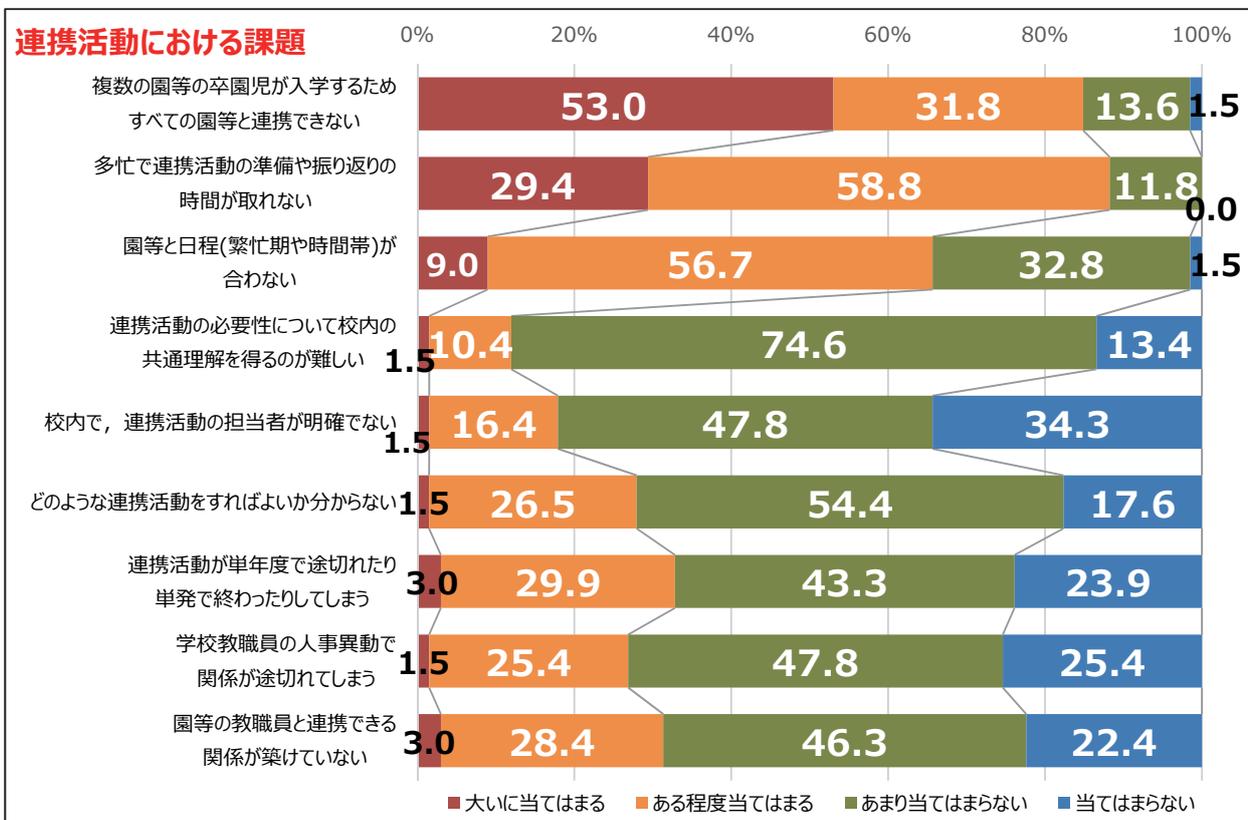
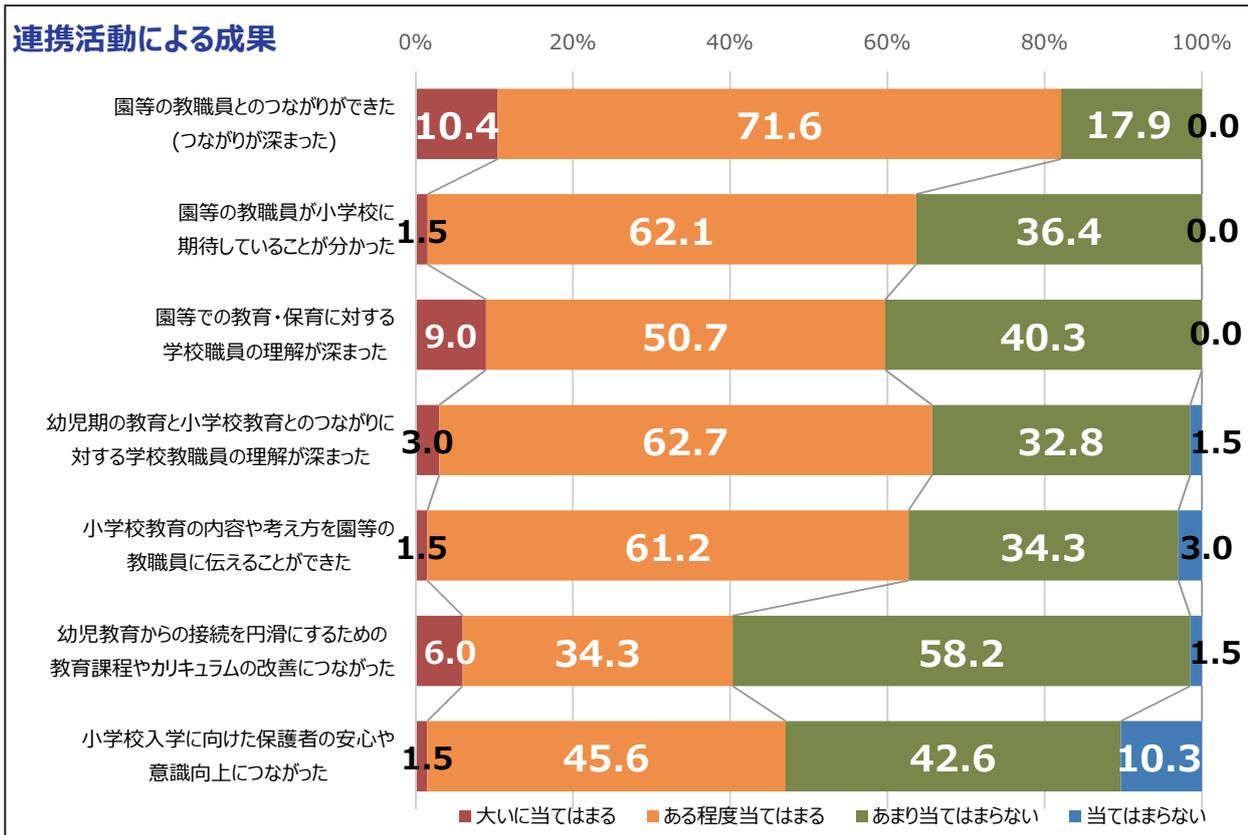


調査対象：小学校

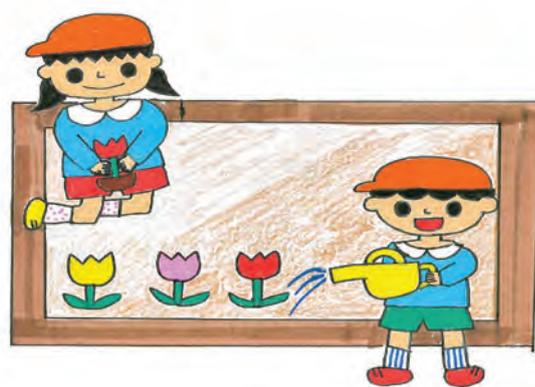


## Ⅱ 幼稚園・保育所・認定こども園との職員同士の連携活動について





# VIII 委員名簿・実践協力施設





## 1 カリキュラム作成ワーキンググループ委員

所 属	職	委員名	備 考
葛南教育事務所	指導主事	土屋 雅子	
東葛飾教育事務所	指導主事	加藤 貴久子	
北総教育事務所	指導主事	高塚 啓子	
東上総教育事務所	指導主事	木島 千景	
東上総教育事務所	指導主事	永島 絹代	29年度委嘱
南房総教育事務所	指導主事	廣瀬 秀和	
船橋市教育委員会	副主幹	青木 孝憲	
印西市教育委員会	指導主事	市村 正美	
めぐみ幼稚園	園長	杉森 信幸	
みのり保育園	施設長	芝崎 章吾	
岩根みどり幼稚園	園長	平野 貴	
富津市立中央保育所	所長	渡辺 久美子	
館山市立九重こども園	主幹保育教諭	石橋 雅代	
浦安市立青葉幼稚園	主任教諭	浅沼 美穂子	
習志野市立谷津小学校	教諭	小島 瑠理子	
印西市立高花小学校	教諭	佐藤 祐子	
勝浦市立勝浦小学校	教諭	吉野 里美	
白井市立桜台小学校	教諭	小川 友子	
柏市立藤心小学校	教諭	島田 朋美	

## 2 活動実践協力幼児教育施設・小学校

## (1) 活動実践協力幼児教育施設

めぐみ幼稚園	岩根みどり幼稚園	第二みどり幼稚園
富津市立中央保育所	みのり保育園	浦安市立ふたば保育園
浦安市立青葉幼稚園	館山市立九重こども園	茂原市立豊岡幼稚園
船橋市立湊町保育園	船橋幼稚園	勝浦市立勝浦幼稚園
勝浦市立中央保育所	千葉大学教育学部附属幼稚園	

## (2) 活動実践協力小学校

柏市立藤心小学校	船橋市立湊町小学校	印西市立高花小学校
勝浦市立勝浦小学校	白井市立桜台小学校	印西市立大森小学校
浦安市立東小学校	茂原市立豊岡小学校	成田市立加良部小学校
我孫子市立我孫子第一小学校		

### 3 情報提供協力市町

船橋市 印西市 浦安市 鎌ヶ谷市 野田市 勝浦市 茂原市 鴨川市  
袖ヶ浦市 多古町

### 4 運営事務局

所 属 千葉県総合教育センター	職	担当者名	備 考
研修企画部	幼児教育アドバイザー	生駒 敏子	
	幼児教育アドバイザー	大橋 由美子	
	幼児教育アドバイザー	高倉 幸世	
	幼児教育アドバイザー	平岡 立行	
カリキュラム開発部	部長	古市 利行	
	部長	豊城 勲	29年度担当
	主席研究指導主事	佐々木 昌文	
	主席研究指導主事	君塚 信宏	
	研究指導主事	黒川 健二	
	研究指導主事	桂 幸一	
	研究指導主事	米本 英裕	
	研究指導主事	神澤 光	
	研究指導主事	稗田 隆二	
	研究指導主事	渡部 悠介	
	研究指導主事	福中 義宏	29年度担当
	研究指導主事	田中 宏知	29年度担当
	研究指導主事	初芝 亨	29年度担当
	研究指導主事	栗田 智晃	29年度担当
	研究指導主事	渡邊 千也	29年度担当

\*参考文献

- 「保育所保育指針」厚生労働省 平成29年告示
- 「幼稚園教育要領」文部科学省 平成29年告示
- 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省  
平成29年告示
- 「小学校学習指導要領」文部科学省 平成29年3月告示
- 「小学校学習指導要領解説 生活編」文部科学省 平成29年6月
- 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について」  
幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議  
平成22年11月
- 「スタートカリキュラム スタートブック」  
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成27年1月
- 「横浜版接続期カリキュラム平成29年度版 育ちと学びをつなぐ」  
横浜市こども青少年局 平成30年3月
- 「草加市 幼保小接続期プログラム」草加市教育委員会 平成27年2月
- 「宮崎市保幼小接続期カリキュラム作成の手引き【第1版】」  
宮崎市福祉部子ども未来局保育幼稚園課 宮崎市教育委員会学校教育課  
平成29年10月
- 「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム  
ぐんぐん伸びるすぎなみの子～かかわる つながる 心かまる育ちと学び～」  
杉並区教育委員会 平成26年2月
- 新しい幼稚園教育要領, 学習指導要領について  
「平成29年度幼児教育指導者養成研修」降籟友宏 講師資料
- 幼児教育行政の最新の動向  
「平成29年度幼児教育指導者養成研修」先崎卓歩 講師資料
- 「幼児期の教育と小学校教育の接続」無藤隆 千葉教育 平成29年度菊
- 「幼児教育と小学校教育の接続と展望」無藤隆 初等教育資料 平成29年6月号
- 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム」  
文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 平成30年3月
- 「現代教育用語辞典」第一法規 天城勲・奥田真丈・吉本二郎 編 昭和57年6月

研究報告 第437号

「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図るカリキュラムについての研究」

---

接続期のカリキュラム千葉県モデルプラン

5歳児の学びのカリキュラム スタートカリキュラム

平成31年3月発行

編集・発行／千葉県教育委員会

(教育振興部学習指導課)

〒260-8662

千葉市中央区市場町1-1

電話 043-223-4052

印刷／株式会社白樺写真工芸



千葉県マスコットキャラクター  
「チーバくん」

千葉県